

け

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小柏 喜久夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。経営戦略の具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
<b>授業目標：</b> ①経営学、特に経営戦略論の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
2	経営学の特徴を述べる				事前：教本序章を通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
3	事例：フォードとGMの競争の歴史を概観する				事前：教本56-64頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
4	環境・戦略・組織の関係を考える				事前：教本64-70頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
5	課題学習				事前：教本56-70頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
6	事例：コマツのビジネス・システム革新の過程を解説する				事前：教本110-123頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
7	ビジネス・システムの進化について考える				事前：教本123-129頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
8	課題学習				事前：教本110-129頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
9	事例：マクドナルドとモスバーガーの競争の歴史を概観する				事前：教本71-82頁通読 事後：ノート・教本により競争の仕方の違いをまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
10	いかに競争するか（競争戦略論）について解説する				事前：教本83-88頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
11	課題学習				事前：教本71-88頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
12	事例：サムスン電子のグローバル戦略を説明する				事前：教本169-181頁通読 事後：ノート・教本により経緯をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
13	「統合と適応のジレンマ」の解決過程を解説する				事前：教本181-189頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
14	課題学習				事前：教本169-189頁通読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分小テスト 45分	
15	経営とは何か				事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料により要点をまとめる			講義 70分質疑応答 20分	
<b>教本：</b> 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税					<b>参考文献：</b> 授業の中で随時提示します。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論 I (Principle of Management I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 1. 株式会社という仕組みを理解することは、経営学を学ぶ上で最も基礎的な問題と言える。株式会社における資本調達仕組みや、株式会社の所有・支配の問題を取り上げる。 2. 経営学はその成立から長い歴史をもっているが、そこで展開された主要な学説の概要について学ぶ。									
授業目標： 経営学の入門科目として、その研究対象である企業・経営に関する基礎的な問題を学ぶ。その内容としては、現代株式会社に関する基礎的な理解と、経営学の発展に即した主要学説の流れをテーマとして講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	経営学の対象と領域					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	企業の分類					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	株式会社の特徴					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	株式会社金融					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	所有と経営の分離					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	企業の統治					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	社会的責任					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	経営目的					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	経営管理の学説と人間観					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	科学的管理法					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	管理過程論					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	人間関係論					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	動議づけ理論					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	組織的意思決定論 定期試験					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 追って指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①授業参画状況等（30%）と②筆記試験（70%）により評価する。									
学生へのアドバイス： 質問あれば、放置せず、挙手して積極的に発言してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 学 総 論 I (Principle of Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>本講義では、19世紀末から現在まで多種多様な展開をみせているアメリカ経営学を中心に「経営学の生成と展開」について解説する。経営理論を単なる学説史的な知識として習得するだけでなく、それらが企業の実践的要請にどのように応えてきたのか、現実の企業経営にどのような影響を与えてきたのか、そして現在の経営課題とどのように関連づけることができるかについて、理解し思考することが本講義の目標である。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>【知識・理解】 経営学の生成と展開をわかりやすく説明できる。【思考・判断】 経営に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べることができる。【関心・意欲】 現実の企業経営のケースを経営理論と結び付けて考えることができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オリエンテーション；経営学の学び方					事前：参考書の確認 事後：配布資料の確認		講義 90分	
2	生産と管理の合理化 (1) 科学的管理法：テイラー					事前：労働者の怠業問題 事後：科学的管理法について		講義 60分・小テスト 30分	
3	生産と管理の合理化 (2) 大量生産体制：フォード					事前：大量生産体制 事後：科学的管理法との関係		講義 60分・小テスト 30分	
4	生産と管理の合理化 (3) 管理過程と管理原則：ファヨール					事前：管理過程とは何か 事後：科学的管理法との相違		講義 60分・小テスト 30分	
5	人間の理論 (1) 人間性への着目：人間関係論					事前：人間関係論の背景 事後：科学的管理法の問題点		講義 60分・小テスト 30分	
6	人間の理論 (2) 行動科学的思想：マズローとマグレガー					事前：経済仮説との関係 事後：欲求階層説について		講義 60分・小テスト 30分	
7	組織の理論 (1) 公式組織論：バーナード					事前：組織の定義 事後：人間協働の意味		講義 60分・小テスト 30分	
8	組織の理論 (2) 意思決定論：サイモン					事前：最適化原理 事後：満足化原理		講義 60分・小テスト 30分	
9	組織の理論 (3) 組織の環境適合：コンティンジェンシー理論					事前：環境変化とは何か 事後：理想の組織は何か		講義 70分・小テスト 20分	
10	戦略の理論 (1) 戦略計画学派：アンゾフ ① アンゾフの成長マトリックス					事前：戦略論の背景 事後：多角化戦略の意味		講義 70分・小テスト 20分	
11	戦略の理論 (2) 戦略計画学派：アンゾフ ② 多角化戦略					事前：多角化の様々な形態 事後：多角化とリスクの関係		講義 70分・小テスト 20分	
12	戦略の理論 (3) ポジショニング・ビュー：ポーター ① 5つの競争要因					事前：ポーターの基礎理論 事後：5つの競争要因		講義 70分・小テスト 20分	
13	戦略の理論 (4) ポジショニング・ビュー：ポーター ② 競争戦略					事前：競争戦略全般 事後：ポーターの基礎理論		講義 70分・小テスト 20分	
14	戦略の理論 (5) リソース・ベースト・ビュー：ハメル&プラハラード					事前：資源ベース論 事後：模倣困難性の意味		講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ					事前：全体の内容 事後：		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
佐久間信夫編『現代経営管理要論』創成社					①北野利信編『経営学説入門』有斐閣 ②渡辺峻・角野信夫・伊藤健市編『やさしく学ぶマネジメントの学説と思想』ミネルヴァ書房、他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
<p>下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト (6点×13回：78%)、定期試験 (22%) 等で総合評価する。</p>									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような講義を目指します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小柏 喜久夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 環境の複雑性と変化速度が増すビジネスの世界で起きている事象を理解し、社会の中での企業経営のあり方を考えていきます。企業論、事業論、組織論及び管理論の各領域における具体的な事例を取り上げ、その理解を通して、経営とは何か、経営学の体系はどのように構成されているのか、を学習していきます。									
授業目標： ①経営学の基礎概念を理解します ②経営学の体系を理解します ③経営とは何か、を考える力を養います									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	ガイダンス				事前：シラバスの通読 事後：シラバスに沿って要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
2	経営学の体系				事前：印刷資料の読み取り 事後：ノート・印刷資料により全体観をつくる			講義 70分 質疑応答 20分	
3	事例：メルカリのビジネス・モデルを説明する				事前：教本10-20頁通読 事後：ノート・教本によりモデルを理解する			講義 70分 質疑応答 20分	
4	企業を起こす、起業のプロセスを解説する				事前：教本20-31頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
5	課題学習				事前：教本10-31頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
6	事例：カゴメのファン株主拡大戦略を説明する				事前：教本32-45頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
7	コーポレート・ガバナンスを解説する				事前：教本45-54頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
8	課題学習				事前：教本32-54頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
9	事例：破壊的技術への富士フィルムの対応を説明する				事前：教本130-144頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
10	製品開発と新規事業創造を解説する				事前：教本144-150頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
11	課題学習				事前：教本130-150頁精読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 45分 小テスト 45分	
12	事例：サントリーの新飲料開発を説明する				事前：教本253-263頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
13	成熟市場における商品開発について解説する				事前：教本263-270頁通読 事後：ノート・教本により要点をまとめる			講義 70分 質疑応答 20分	
14	課題学習				事前：教本253-270頁精読 事後：課題学習の自己チェック			講義 45分 小テスト 45分	
15	再び、経営とは何か、を考える				事前：印刷資料の精読 事後：ノート・教本により要点と自分の意見をまとめる			講義 45分 質疑応答 45分	
教本： 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、¥2,700+税					参考文献： 随時提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強く自己学習能力を高めるよう期待します。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	白川 満伸								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要：									
1. 最初に、伝統的組織論および近代組織論に分けて、「組織とは何か」について学ぶ。その後、経営組織の基本形態、最高管理組織、部門管理組織に関する基礎知識を理解する。									
2. 経営戦略論の基礎的な問題について学習し、									
3. 財務管理や人的資源管理などの個別管理論の概要を紹介する。									
授業目標：									
経営学の内容を大きく分ければ、企業論の分野と経営管理論の分野がある。経営学Ⅰでは企業論に関する問題を取り上げたが、経営学Ⅱでは、管理と組織および戦略の問題を中心に講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
2	経営組織とは何か					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
3	組織形成の原則					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
4	組織の基本形態					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
5	トップマネジメントの組織					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
6	ミドルマネジメントの組織①（機能別部門組織）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
7	ミドルマネジメントの組織②（事業部制組織）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
8	経営戦略とは何か					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
9	製品・市場戦略					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
10	多角化とシナジー					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
11	製品ポートフォリオ・マネジメント①					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
12	製品ポートフォリオ・マネジメント②					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
13	個別管理論①（財務管理）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
14	個別管理論②（人事管理）					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
15	日本の経営 定期試験					事前：なし 事後：なし		講義 90分	
教本： 初回講義日に伝える。					参考文献： 追って指示する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 ①授業参画状況等（30%）と②筆記試験（70%）の成績により評価する。									
学生へのアドバイス： 質問あれば、放置せず、挙手して積極的に発言してください。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営学総論Ⅱ (Principle of Management Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	清水 健太								
履 修 条 件	前提科目	経営学総論Ⅰを履修していることが望ましい							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>経営学総論Ⅱでは、経営学総論Ⅰで経営学の基礎理論を学んだ学生を前提として、企業の実態を学ぶ企業論に近い内容に重点を置き、企業の行動原理や企業の仕組みを理解することを目的にする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>①企業の行動原理について説明できる。②日本企業の課題や特徴について説明できる。③経営学の専門科目を学ぶ基礎的知識や学習方法を身につける。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	オリエンテーション：経営学の学び方				事前：参考図書の確認 事後：講義計画の確認			講義 90分	
2	企業の行動原理①株式会社の成立				事前：企業と株主の関係 事後：株主の有限責任			講義 70分・小テスト 20分	
3	企業の行動原理②起業と資金調達				事前：企業と銀行の関係 事後：株主からの資金調達			講義 70分・小テスト 20分	
4	企業の行動原理③投資家と株式公開				事前：株主の行動原理 事後：株式公開とは何か			講義 70分・小テスト 20分	
5	コーポレート・ガバナンス①企業統治の仕組み				事前：所有と経営の分離 事後：企業統治の形態			講義 70分・小テスト 20分	
6	コーポレート・ガバナンス②経営者報酬の仕組み				事前：所有と経営の分離 事後：経営者報酬の形態			講義 70分・小テスト 20分	
7	企業グループの形成①持株会社の成立				事前：独占禁止法との関係 事後：全社戦略と事業戦略			講義 70分・小テスト 20分	
8	企業グループの形成②多角化経営と事業ポートフォリオ				事前：PPM分析 事後：金のなる木の衰退			講義 70分・小テスト 20分	
9	企業グループの形成③選択と集中の戦略				事前：シナジーとは何か？ 事後：長期の戦略との関係			講義 70分・小テスト 20分	
10	イノベーション①経営環境の変化とイノベーションシステム				事前：イノベーションの定義 事後：イノベーションの定義			講義 70分・小テスト 20分	
11	イノベーション②オープン・イノベーションへの変化				事前：オープン・イノベーションとは何か？ 事後：オープン・イノベーションとは何か？			講義 70分・小テスト 20分	
12	イノベーション③大企業からの新事業創造				事前：現代のイノベーションシステム 事後：現代のイノベーションシステム			講義 70分・小テスト 20分	
13	企業の戦略①成長戦略				事前：アンゾフの成長マトリクス 事後：アンゾフの成長マトリクス			講義 70分・小テスト 20分	
14	企業の戦略②競争戦略				事前：5つの競争要因 事後：5つの競争要因			講義 70分・小テスト 20分	
15	全体のまとめ				事前：全体の内容 事後：全体の内容			講義 90分	
教本：					参考文献： ①忽那憲治他『ベンチャーキャピタルハンドブック』、②柿崎洋一『企業論』、③井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』				
<p>成績評価の方法、評価基準：下記の基準を満たしているのかについて総合的に判断する。 小テスト（6点×13回：78%）、定期試験（22%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 意欲を持って参加すれば、学ぶことが楽しくなるような授業を目指します。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 管 理 論 I (Business Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 久 間 信 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。</p> <p>(2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	今日の企業制度① 企業形態の発展過程、現代企業への発展、制度的私企業形態と公私企業					事前：企業形態の発展過程 事後：私企業形態と公私企業		講義 45分、LTD 45分	
3	今日の企業制度② 株式会社の結合形態、現代企業のコーポレート・ガバナンス					事前：株式会社の結合形態 事後：株式会社のガバナンス		講義 90分	
4	現代の企業経営とマネジメント 現代社会の変化と企業経営、企業組織のマネジメント機能					事前：マネジメントの下読み 事後：マネジメント機能		講義 90分	
5	管理の主体と権限・責任① 現代における経営者の機能と責任、管理者の機能と責任					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	管理の主体と権限・責任② 権限の源泉についての3つの理論上位権限説					事前：上位権限説の下読み 事後：権限機能説のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	テイラーの科学的管理論① テイラーの生涯と業績、科学的管理論の背景、課業管理					事前：科学的管理論 事後：課業管理をまとめる		講義 90分	
8	テイラーの科学的管理論② 精神革命論、科学的管理法への批判と労働組合、科学的管理法の継承者たち					事前：精神革命論の下読み 事後：科学的管理法の継承者		講義 45分、LTD 45分	
9	ファヨールと管理過程学派① ファヨールの生涯と業績、企業管理と管理教育、管理原則					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	ファヨールと管理過程学派② 経営管理の要素、ファヨール管理論の特質、管理過程学派					事前：経営管理の要素の下読み 事後：管理過程学派をまとめる		講義 90分	
11	人間関係論① 人間関係論の成立背景、ホーソン実験 照明実験 面接プログラム					事前：ホーソン実験の下読み 事後：インフォーマル組織		講義 90分	
12	人間関係論② 人間関係論の思想的・理論的基盤、人間関係論の意義および限界					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	フォレットの経営管理論 プロセス観の基礎 組織化のプロセス 管理者の役割とリーダーシップ					事前：状況の法則を下読み 事後：管理者の役割をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
14	経営計画の機能とその策定プロセス 企業における経営計画の諸機能 経営計画の策定プロセス					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	組織デザインと調整、統合 組織デザインの考え方 組織形態とその具体的活用					事前：組織原則を下読み 事後：動的組織をまとめる		LTD 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
佐久間信夫・犬塚正智編著『現代経営管理要論』創成社					佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
専 門 用 語 と 理 論 を 正 確 に 理 解 し、説 明 で き る よう に し ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 管 理 論 I (Business Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>経 営 管 理 論 で は、経 営 管 理 論 の 学 説 史 的 な 発 展 を 理 解 す る こ と を 目 的 に し て い る。講 義 内 容 に つ い て の 理 解 度 を 問 う 小 テ ス ト を 毎 回 行 う こ と に よ り、基 礎 的 な 理 解 力 を 高 め る こ と を 目 的 に す る。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 経 営 管 理 論 の 基 本 的 な 理 論 を 説 明 で き る。  ② 経 営 管 理 論 の 史 的 発 展 過 程 を 説 明 で き る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 経 営 管 理 論 の 学 び 方					事 前 : 参 考 書 の 確 認, 事 後 : 講 義 ス ケ ジ ュ ー ル の 確 認		講 義 90 分	
2	経 営 管 理 論 の 発 展 の 概 観					事 前 : 経 営 管 理 論 の 背 景 事 後 : 経 営 管 理 論 の 流 れ		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
3	経 営 管 理 者 の 仕 事 : ド ラ ッ カ ー					事 前 : 経 営 管 理 者 の 役 割 事 後 : ド ラ ッ カ ー の 経 営 学		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
4	テ イ ラ ー の 科 学 的 管 理 : ① 課 業 管 理					事 前 : 動 作 研 究 等 事 後 : 差 別 的 出 来 高 給 制 度		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
5	テ イ ラ ー の 科 学 的 管 理 : ② 職 能 別 職 長 制					事 前 : 専 門 的 組 織 の 意 義 事 後 : 職 能 別 職 長 制 の 課 題		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
6	フ ァ ヨ ー ル の 経 営 管 理 過 程 論 : ① 管 理 過 程					事 前 : 管 理 過 程 の 流 れ 事 後 : 管 理 原 則 と 管 理 論		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
7	フ ァ ヨ ー ル の 経 営 管 理 過 程 論 : ② 管 理 原 則					事 前 : 管 理 原 則 の 内 容 事 後 : 大 量 生 産 方 式 と の 関 連		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
8	フ ォ ー ド の 大 量 生 産 方 式					事 前 : 科 学 的 管 理 の 関 係 事 後 : 専 門 化 の 原 則		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
9	メ イ ヨ ー ー ら の 人 間 関 係 論 : ホ ー ソ ン 実 験					事 前 : 古 典 的 管 理 の 問 題 点 事 後 : 人 の 感 情 と 管 理 論		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
10	人 関 係 論 と 近 代 管 理 論					事 前 : 欲 求 階 層 説 事 後 : 科 学 的 管 理 と の 関 係		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
11	近 代 管 理 論 と 目 標 管 理					事 前 : X 理 論 の 界 限 事 後 : Y 理 論 と 目 標 管 理		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
12	バ ー ナ ー ド の 組 織 論					事 前 : 組 織 と 共 通 目 的 事 後 : 組 織 の 3 要 素		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
13	サ イ モ ン の 意 思 決 定 論					事 前 : 満 足 化 原 理 事 後 : 満 足 化 原 理		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
14	事 例 研 究					事 前 : 全 体 の ま と め 事 後 : 全 体 の ま と め		講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分	
15	全 体 の ま と め					事 前 : 全 体 の ま と め 事 後 : 全 体 の ま と め		講 義 90 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
浦 野 倫 平 ・ 佐 久 間 信 夫 『 経 営 学 原 理 』 創 成 社					渡 辺 峻 他 『 や さ し く 学 ぶ マ ネ ジ メ ン ト の 学 説 と 思 想 』、 佐 久 間 信 夫 ・ 壽 永 欣 三 郎 編 『 現 代 経 営 学 の 基 礎 』 他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。 小 テ ス ト (6 点 × 13 回 : 78%)、定 期 試 験 (22%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば、学 ぶ こ と が 楽 し く な る 講 義 を 目 指 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 管 理 論 II (Business Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 久 間 信 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>アメリカ経営学は管理論を中心に発展してきた。アメリカの理論を十分に理解し、事例研究を行うことにより、管理の理論と実践をより深く学ぶ。LTD (討論による学習法) やプレゼンテーションも実施する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>(1) 学生が、経営管理の理論について、事例を用いながら説明することができる。</p> <p>(2) 学生が、企業の事例を用いてディスカッションすることができる。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。授業の基礎となる導入部分について、企業の事例を取り上げながら解説する					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	クーンツ理論の枠組み クーンツ理論の枠組み 管理過程論の展開 マネジメントセオリー・ジャングル					事前：管理過程論の下読み 事後：クーンツ理論をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	管理機能論の新展開 管理過程論の修正、管理機能論の枠組みに関する再検討					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
4	動機づけの理論① 人間と企業、人間関係論の人間仮説、マクレガーのX理論とY理論、誘引と動因					事前：X理論Y理論の下読み 事後：人間仮説をまとめる		講義 90分	
5	動機づけの理論② マズローの欲求段階説、動機付け－衛生理論、期待理論					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	リーダーシップ論の多様な発展① 初期のリーダーシップ研究、リーダーシップ・プログラム、マネジリアル・グリッド論					事前：リーダーシップの下読み 事後：マネジリアル・グリッド		講義 45分、LTD 45分	
7	リーダーシップ論の多様な発展② リーダーシップの状況適応モデル、変革型リーダーシップの理論					事前：状況適応モデル 事後：変革型リーダーシップ		講義 90分	
8	企業文化と経営① 企業文化とは何か、ディールとケネディの企業文化論、シャインの組織文化論					事前：企業文化の下読み 事後：シャインの組織文化論		講義 45分、LTD 45分	
9	企業文化と経営② コッターとヘスケットの組織文化概念、経営資源としての企業文化、信頼と企業文化					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	経営組織の編成原理 組織の概念と歴史の変遷 環境の基礎概念 組織形態					事前：組織の概念の下読み 事後：組織形態をまとめる		講義 90分	
11	経営組織の活性化 組織構造、組織構造の変化と活性化、官僚制から参加型組織へ					事前：官僚制の下読み 事後：参加型組織をまとめる		講義 90分	
12	経営組織の革新① リストラクチャリング リエンジニアリング ジャパナイゼーション					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	経営組織の革新② 学習する組織、ネットワーク組織 戦略事業単位 (SBU)					事前：学習する組織を下読み 事後：ネットワーク組織		講義 45分、LTD 45分	
14	コア・コンピタンス経営 コア・コンピタンスを生かした経営 コア・コンピタンスの理論体系					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	知識創造の経営論 知識社会の到来と知識創造 ナレッジ・マネジメントからナレッジ・イネープリングへ					事前：知識創造を下読み 事後：知識社会をまとめる		LTD90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
佐久間・浦野編『改訂版 現代経営管理要論』創成社					佐久間信夫責任編集『増補版 現代経営用語の基礎知識』学文社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (20%)、小テスト・レポート等 (10%)、定期試験 (70%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
組織における管理の重要性を身近な事例を通して考えて行きましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 社 会 学 I (Sociology of Business I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本講義は超高齢化社会の中、社会で起きている様々な事象が企業に与える影響について論じる。①若者の考え方・価値観の変化、②女性労働者の意識や価値観、働き方、③外国人労働者の意識や価値観について焦点を当てる。									
授 業 目 標 :									
① 企業を取り巻く経営環境について理解し、経営活動に参加する際に必要とする基礎知識を身につける。 ② 企業の経営活動と、企業活動を担う人に関する事柄を幅広く学ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：特になし 事後：テキストの精読		講義	
2	現代社会における企業の経営活動					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
3	現代社会における企業の役割					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
4	グローバリゼーションと経営戦略の展開					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
5	多様化する労働の場					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
6	情報化・技術革新と労働者					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
7	ミニテスト (前半のまとめをする)					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
8	若年層世代の考え方と価値観					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
9	女性労働者の働き方					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
10	女性労働者の意識と価値観					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
11	外国人労働者の雇用					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
12	外国人労働者の就労意識・価値観①					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
13	外国人労働者の就労意識・価値観②					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
14	ミニテスト (後半のまとめをする)					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		テストと解説	
15	全体のまとめ					事前：テキストの精読 事後：テキストの精読		講義 60分、 ディスカッション 30分	
教 本 : 上林憲雄・奥林康司・團泰雄他『経験から学ぶ経営学入門「第2版」』有斐閣、2018年。上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012年。必ず2つ購入してください。購入しない場合は受講できません。									
参 考 文 献 : 授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 ( 30% ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 20% ) 、 定 期 試 験 ( 50% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 な り の 意 見 を 持 て る よ う に す る た め の 講 義 で す 。 少 し で も 関 心 を 持 て そ う で し た ら 講 義 に 参 加 し て み て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 社 会 学 II (Sociology of Business II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	沈 瑛								
履 修 条 件	前 提 科 目	担 当 教 員 による 経 営 社 会 学 I を 履 修 して いる こと。							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本 講 義 は 超 高 齢 化 社 会 の 中 、 社 会 で 起 っ て いる 様 々 な 事 象 が 企 業 に 与 える 影 響 について 論 じ る 。 ① 若 者 の 考 え 方 ・ 価 値 観 の 変 化 、 ② 女 性 労 働 者 の 意 識 や 価 値 観 、 働 き 方 、 ③ 外 国 人 労 働 者 の 意 識 や 価 値 観 について 焦 点 を 当 て る 。 事 例 研 究 を し な が ら 、 学 生 同 士 の 意 見 交 換 を 行 う 。									
授 業 目 標 :									
① 企 業 を 取 り 巻 く 経 営 環 境 について 理 解 し 、 経 営 活 動 に 参 加 す る 際 に 必 要 と す る 基 礎 知 識 を 身 に つ け る 。									
② 企 業 の 経 営 活 動 と 、 企 業 活 動 を 担 う 人 と に 関 す る 事 柄 を 幅 広 く 学 ぶ 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に 〇 、 重 要 に 〇 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
〇			〇						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : 特 に な し 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義	
2	現 代 社 会 に お け る 企 業 の 経 営 活 動					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
3	現 代 社 会 に お け る 企 業 の 役 割					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
4	情 報 化 ・ 技 術 革 新 と 労 働 者					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
5	労 働 者 に 求 め ら れ る 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ①					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
6	労 働 者 に 求 め ら れ る 異 文 化 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ②					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
7	ミ ニ テ ス ト ( 前 半 の ま と め を す る )					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		テ ス ト と 解 説	
8	女 性 労 働 者 の 雇 用 ①					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
9	女 性 労 働 者 の 雇 用 ②— 事 例 研 究 —					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
10	外 国 人 労 働 者 の 活 用 ①					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
11	外 国 人 労 働 者 の 活 用 ②— 事 例 研 究 —					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
12	高 年 齢 者 の 就 労 意 識 と 職 業 能 力 ①					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
13	高 年 齢 者 の 就 労 意 識 と 職 業 能 力 ②— 事 例 研 究 —					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
14	ミ ニ テ ス ト ( 後 半 の ま と め を す る )					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		テ ス ト と 解 説	
15	全 体 の ま と め					事 前 : テ キ ス ト の 精 読 事 後 : テ キ ス ト の 精 読		講 義 60 分 、 デ イ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
上 林 憲 雄 ・ 奥 林 康 司 ・ 團 泰 雄 他 『 経 験 から 学 ぶ 経 営 学 入 門 「 第 2 版 」 』 有 斐 閣 、 2018 年 。 上 林 千 恵 子 編 著 『 よ く わ か る 産 業 社 会 学 』 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房 、 2012 年 。 必 ず 2 つ 購 入 し て く だ さ い 。 購 入 し な い 場 合 は 受 講 で き ま せ ン 。					授 業 中 に 適 宜 紹 介 す る 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 参 加 状 況 等 ( 30 % ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト ( 70 % ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 自 分 な り の 意 見 を 持 て る よ う に す る た め の 講 義 で す 。 少 し で も 関 心 を 持 て そ う で し た ら 講 義 に 参 加 し て み て 下 さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 組 織 論 I (Management Organization I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
経 営 組 織 論 に お け る 理 論 的 発 展 を 学 習 す る こ と を 目 的 に す る。									
授 業 目 標 :									
【知識・理解】 経営組織論の基本的な理論をわかりやすく説明できる。【思考・判断】 経営組織論に関する諸理論・諸学説がどのように生成し展開したかを述べる事ができる。【関心・意欲】 現実の企業経営のケースを経営組織論と結び付けて考えることができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	オリエンテーション：組織論の学び方			事前：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。 事後：組織論を学ぶうえで重要な点を理解する。			講義 90分		
2	組織とは何か？			事前：組織の定義・概念について理解する。 事後：組織の定義・概念について理解する。			講義 70分・小テスト 20分		
3	組織構造の設計			事前：組織構造の様々な形態を理解する 事後：組織構造の様々な形態を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
4	官僚制組織の発展			事前：官僚制組織の意義 事後：官僚制組織の課題			講義 70分・小テスト 20分		
5	外部の不確実性への対応と経営組織			事前：外部環境と組織の関係を理解する 事後：外部環境と組織の関係を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
6	コンティンジェンシー理論：環境変化への適応			事前：環境変化と組織の関係 事後：環境変化と組織の関係			講義 70分・小テスト 20分		
7	事例分析：コーエーテックモホールディングス (コンティンジェンシー理論：環境変化への適応)			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：			講義 70分・小テスト 20分		
8	資源ベース論 (リソース・ベースド・ビュー)			事前： 事後：資源ベース論における組織の役割を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
9	コア・コンピタンス経営			事前： 事後：コア・コンピタンスとは何か？			講義 70分・小テスト 20分		
10	事例分析：サンリオ (資源ベース論)			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：			講義 70分・小テスト 20分		
11	合併・買収と大規模企業グループの形成			事前：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する 事後：企業グループの形成における合併・買収の意味を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
12	組織文化の統合と合併・買収			事前：合併・買収における組織文化の問題を理解する 事後：合併・買収における組織文化の問題を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
13	ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ			事前：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する 事後：3つの研究分野からなる経営組織の考え方を理解する			講義 70分・小テスト 20分		
14	事例分析：京セラ (ダイナミック・ケイパビリティ・アプローチ)			事前：事例の企業の概略を理解してくる 事後：			講義 70分・小テスト 20分		
15	全体のまとめ			事前：全体のまとめ 事後：全体のまとめ			講義 90分		
教 本 :									
佐久間信夫・小原久美子『現代経営組織要論』創成社					参 考 文 献 :				
					柿崎洋一『企業論』、井上善海・大杉奉代『経営戦略入門』、萩原俊彦『多角化戦略と経営組織』、他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。 小テスト (6点×13回:78%)、定期試験 (22%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば、学 ぶ こ と が 楽 し く な る 講 義 を 目 指 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 組 織 論 II (Management Organization II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 学 総 論 I を 履 修 し て い る こ と が 望 ま し い							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
後 期 の 経 営 組 織 論 は 多 角 化 経 営 な ど に よ り 複 雑 に 変 化 し た 企 業 組 織 の 問 題 を 理 解 す る こ と を 目 的 に し て い る。									
授 業 目 標 :									
【知 識 ・ 理 解】 経 営 組 織 論 の 基 本 的 な 理 論 を わ か り や す く 説 明 で き る。【思 考 ・ 判 断】 経 営 組 織 論 に 関 す る 諸 理 論 ・ 諸 学 説 が ど の よ う に 生 成 し 展 開 し た か を 述 べ る こ と が で き る。【関 心 ・ 意 欲】 現 実 の 企 業 経 営 の ケ ー ス を 経 営 組 織 論 と 結 び 付 け て 考 え る こ と が で き る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				授 業 形 態
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 組 織 論 の 学 び 方				事 前 : 講 義 ス ケ ジ ュ ー ル の 確 認 事 後 : 講 義 ス ケ ジ ュ ー ル の 確 認				講 義 90 分
2	組 織 と は 何 か ?				事 前 : 前 期 の 復 習 事 後 : 前 期 の 復 習				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
3	産 業 資 本 主 義 の 発 展 と 企 業 成 長				事 前 : 企 業 成 長 と 産 業 資 本 主 義 の 関 係 事 後 : 企 業 成 長 と 産 業 資 本 主 義 の 関 係				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
4	単 一 事 業 の 限 界 と 多 角 化 戦 略				事 前 : 企 業 成 長 と 多 角 化 経 営 の 関 係 事 後 : 企 業 成 長 と 多 角 化 経 営 の 関 係				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
5	多 角 化 戦 略 と 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化				事 前 : 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ に 関 す る 理 解 事 後 : 事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ に 関 す る 理 解				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
6	事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化 と PPM 分 析				事 前 : PPM 分 析 に お け る 金 の なる 木 の 意 味 事 後 : PPM 分 析 に お け る 金 の なる 木 の 意 味				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
7	事 例 分 析 1 : カ プ コ ン (企 業 成 長 と 多 角 化 戦 略)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
8	事 例 分 析 2 : ソ フ ト バ ン ク (事 業 ポ ー ト フ ォ リ オ の 最 適 化 と PPM 分 析)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
9	組 織 に お け る 経 営 者 の 役 割				事 前 : 経 営 者 と 経 営 理 念 事 後 :				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
10	持 株 会 社 形 態 の 発 展 と 企 業 グ ル ー プ の 形 成				事 前 : 持 株 会 社 形 態 の 意 義 を 理 解 す る 事 後 : 持 株 会 社 形 態 の 意 義 を 理 解 す る				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
11	全 社 戦 略 と 事 業 戦 略				事 前 : 持 株 会 社 形 態 に お け る 戦 略 レ ベ ル の 違 い を 理 解 す る 事 後 : 持 株 会 社 形 態 に お け る 戦 略 レ ベ ル の 違 い を 理 解 す る				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
12	オ ー プ ン ・ イ ノ ベ ー シ ョ ン と 組 織 を 超 え た ネ ッ ト ワ ー ク				事 前 : 企 業 と い う 組 織 を 超 え た イ ノ ベ ー シ ョ ン シ ス テ ム を 理 解 す る 事 後 : 企 業 と い う 組 織 を 超 え た イ ノ ベ ー シ ョ ン シ ス テ ム を 理 解 す る				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
13	事 例 分 析 1 : 株 式 会 社 バ ン ダ イ ナ ム コ ホ ー ル デ ィ ン グ ス (持 株 会 社 形 態 と 経 営 戦 略)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
14	事 例 分 析 2 : KDDI (オ ー プ ン ・ イ ノ ベ ー シ ョ ン と 組 織 を 超 え た ネ ッ ト ワ ー ク)				事 前 : 事 例 企 業 の 概 略 を 理 解 し て く る 事 後 :				講 義 70 分 ・ 小 テ ス ト 20 分
15	全 体 の ま と め				事 前 : 全 体 の ま と め 事 後 : 全 体 の ま と め				講 義 90 分
教 本 :					参 考 文 献 :				
佐 久 間 信 夫 ・ 小 原 久 美 子 『現 代 経 営 組 織 要 論』 創 成 社					柿 崎 洋 一 『企 業 論』、井 上 善 海 ・ 大 杉 奉 代 『経 営 戦 略 入 門』、 萩 原 俊 彦 『多 角 化 戦 略 と 経 営 組 織』、他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
下 記 の 基 準 を 満 た し て い る の か に つ い て 総 合 的 に 判 断 す る。 小 テ ス ト (6 点 × 13 回 : 78%)、定 期 試 験 (22%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
意 欲 を 持 っ て 参 加 す れ ば、学 ぶ こ と が 楽 し く な る 講 義 を 目 指 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営文化論 I (Business Culture I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 経営と文化の関係づけを通して現実の経営の諸問題について学習していきます。この学習は、企業活動の国際化の進展・深化ならびに社会関係の複雑化とともに重要性をより増しています。そこで、この授業では、経営と文化の関係づけの基礎となる見方・考え方・感じ方・決め方を検討し、授業計画に示した各課題をひとつずつ解説していきます。									
授業目標： 経営を文化の視座からアプローチすることにより、経営の諸問題に対応可能な実践知を身につけていきます。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経営文化論と松蔭大学：経営文化学部の講義としての経営文化論のあり方を考える					事前：シラバスを通読 事後：シラバスに示されているストーリーを復習		講義 70分質疑応答 20分	
2	経営文化論の背景を三点説明する					事前：参考文献の読み取り 事後：三点の確認		講義 70分質疑応答 20分	
3	経営の見方と文化の見方、またその関係を考える					事前：教本 1. の読み取り 事後：特に二者の関係を確認		講義 70分質疑応答 20分	
4	経営と文化の諸問題を列挙し、経営学と人類学の交わりを追う					事前：参考文献の読み取り 事後：経営学と人類学との交流の事例をまとめ、なぜかを考える		講義 70分質疑応答 20分	
5	経営の統合原理としての文化基準を考える					事前：教本 1. の読み取り 事後：なぜ経営文化なのか、をまとめる		講義 70分質疑応答 20分	
6	二つのアプローチ：エティックとイーミックによる文化理解の方法を解説する					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
7	日米比較経営論と日本的経営論：二つのアプローチから日本の経営の把握を行う					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
8	経営文化の変容モデル：四つのモデルを説明する					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
9	多文化組織の経営：ダイバーシティ・マネジメントの諸問題を解説する					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
10	国際経営組織の心理と文化：C.A.バートレット & S.ゴシャールの仮説を検討する					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
11	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (1)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
12	事例学習 1 —— 小糸製作所のコーポレート・ガバナンス：日本の経営者 vs 米国の株主 (2)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
13	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化(1)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
14	事例学習 2 —— ソニーの海外事業買収と経営文化(2)					事前：印刷資料の通読 事後：ノート・印刷資料のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
15	経営文化学の構想					事前：参考文献の読み取り 事後：ノート・参考文献のまとめ		講義 70分質疑応答 20分	
教本： 1. 宮森千嘉子・宮林隆吉『経営戦略としての異文化適応力』日本能率協会マネジメントセンター、¥1,800+税 2. 印刷資料も用います。					参考文献： 1. 村山元英・小柏喜久夫『経営文化論序説』文眞堂、¥3,800+税 2. 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣、¥2,500+税				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業内容への参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価します。									
学生へのアドバイス： 欠席しないことが大前提です。粘り強い学習努力を期待しています。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 I (Business Culture I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 が 経 営 を 行 う こ と に よ り、そ の 組 織 に お け る 長 い 習 慣 な ど か ら 経 営 文 化 や 企 業 文 化 が 成 立 す る。こ う い っ た 経 営 文 化 や 企 業 文 化 が 経 営 行 動 に ど の よ う な 影 響 を 与 え る の か 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 経 営 組 織 に お け る 経 営 文 化 の 成 立 な ど に つ い て 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 資 料 の 確 認		講 義 90 分	
2	経 営 文 化 論 の 背 景 を 理 解 す る					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
3	経 営 文 化 と 経 営 組 織 の 関 係					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
4	ド メ イ ン と 経 営 文 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
5	経 営 理 念 と 経 営 文 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
6	事 例 研 究 1 : 松 蔭 大 学					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
7	事 例 研 究 2 : 任 天 堂					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
8	事 例 研 究 3 : カ プ コ ン					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
9	事 例 研 究 4 : コ ロ プ ラ					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
10	経 営 文 化 の 変 容					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
11	経 営 文 化 と グ ロ ー バ ル 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
12	ダ イ バ ー シ テ ィ と 経 営 文 化 (1)					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
13	ダ イ バ ー シ テ ィ と 経 営 文 化 (2)					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
14	期 末 試 験 の 説 明 と 前 期 講 義 の ま と め					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
15	前 期 講 義 の ま と め					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
教 本 : 特 に な し					参 考 文 献 : 特 に な し				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (65%)、定 期 試 験 (25%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 す る と 単 位 の 取 得 は 難 し く な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 II (Business Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	小 柏 喜 久 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	経 営 文 化 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>経 営 文 化 論 I の 理 解 を 基 礎 に し て 、 日 本 の 経 営 文 化 を 表 層 に と ど ま る こ と な く 深 層 か ら 理 解 す べ く 、 こ れ ま で の フ ィ ー ル ド ワ ー ク の 成 果 に 基 づ き 、 日 本 の 経 営 文 化 の 諸 問 題 の 現 在 と 今 後 の 課 題 に つ い て 考 え て い っ き ま す 。 経 営 理 念 お よ び 思 考 方 式 、 意 思 決 定 方 式 、 人 事 ・ 教 育 ・ 開 発 ・ 養 成 、 財 務 ・ 経 営 報 告 の 諸 領 域 に 及 ぶ 日 本 の 経 営 文 化 の 諸 問 題 を 体 系 的 に 認 識 し た う え で 、 事 例 学 習 に よ り そ の 理 解 を 確 か め て い っ き ま す 。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>日 本 の 経 営 文 化 を 理 解 し 、 経 営 を 文 化 と の 関 係 に お い て 考 察 す る 手 法 を 身 に つ け 、 時 代 の 変 化 の な か で 経 営 の パ ラ ダ イ ム シ フ ト の 方 向 に つ い て 考 え る 力 を つ け て い っ き ま す 。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )				事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )			授 業 形 態	
1	日 本 の 経 営 文 化 — 理 解 の 枠 組 み を 考 え る				事 前 : シ ラ バ ス の 通 読 事 後 : シ ラ バ ス に 沿 っ て 要 点 を ま と め る			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
2	— 経 営 理 念 お よ び 経 営 思 考 様 式				事 前 : 参 考 文 献 の 読 み 取 り 事 後 : ノ ー ト ・ 参 考 文 献 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
3	— 組 織 と 意 思 決 定 方 式				事 前 : 参 考 文 献 の 読 み 取 り 事 後 : ノ ー ト ・ 参 考 文 献 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
4	— 人 事 ・ 能 力 開 発 お よ び 経 営 者 教 育				事 前 : 参 考 文 献 の 読 み 取 り 事 後 : ノ ー ト ・ 参 考 文 献 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
5	— マ ー ケ テ ィ ン グ 構 造 と 生 産 方 式				事 前 : 参 考 文 献 の 読 み 取 り 事 後 : ノ ー ト ・ 参 考 文 献 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
6	事 例 1 日 立 製 作 所 : 「 日 本 的 経 営 」 と は 何 だ っ た の か 、 を 考 え る (1) — 事 例 の 通 読				事 前 : 印 刷 資 料 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 印 刷 資 料 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
7	事 例 1 日 立 製 作 所 : 「 日 本 的 経 営 」 と は 何 だ っ た の か 、 を 考 え る (2) — 事 例 の 解 読				事 前 : 印 刷 資 料 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 印 刷 資 料 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
8	事 例 1 日 立 製 作 所 : 「 日 本 的 経 営 」 と は 何 だ っ た の か 、 を 考 え る (3) — 課 題 学 習				事 前 : 印 刷 資 料 の 精 読 事 後 : 課 題 学 習 の 自 己 チ ェ ッ ク			講 義 45 分 小 テ ス ト 45 分	
9	事 例 2 ト ヨ タ 自 動 車 : 日 本 的 生 産 シ ス テ ム の 特 徴 を 理 解 し 、 「 日 本 的 」 の 根 拠 を 考 え る (1) — 事 例 の 通 読				事 前 : 教 本 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 教 本 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
10	事 例 2 ト ヨ タ 自 動 車 : 日 本 的 生 産 シ ス テ ム の 特 徴 を 理 解 し 、 「 日 本 的 」 の 根 拠 を 考 え る (2) — 事 例 の 解 読				事 前 : 教 本 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 教 本 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
11	事 例 2 ト ヨ タ 自 動 車 : 日 本 的 生 産 シ ス テ ム の 特 徴 を 理 解 し 、 「 日 本 的 」 の 根 拠 を 考 え る (3) — 課 題 学 習				事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 課 題 学 習 の 自 己 チ ェ ッ ク			講 義 45 分 小 テ ス ト 45 分	
12	事 例 3 双 日 : 「 日 本 的 経 営 」 変 革 の 方 向 と 人 事 管 理 制 度 の 進 化 を 考 え る (1) — 事 例 の 通 読				事 前 : 教 本 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 教 本 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
13	事 例 3 双 日 : 「 日 本 的 経 営 」 変 革 の 方 向 と 人 事 管 理 制 度 の 進 化 を 考 え る (2) — 事 例 の 解 読				事 前 : 教 本 の 通 読 事 後 : ノ ー ト ・ 教 本 の ま と め			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
14	事 例 3 双 日 : 「 日 本 的 経 営 」 変 革 の 方 向 と 人 事 管 理 制 度 の 進 化 を 考 え る (3) — 課 題 学 習				事 前 : 教 本 の 精 読 事 後 : 課 題 学 習 の 自 己 チ ェ ッ ク			講 義 45 分 小 テ ス ト 45 分	
15	パ ラ ダ イ ム ・ シ フ ト の 方 向				事 前 : 参 考 文 献 の 読 み 取 り 事 後 : ノ ー ト ・ 参 考 文 献 に よ り 要 点 を ま と め る			講 義 70 分 質 疑 応 答 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
1. 東 北 大 学 経 営 学 グ ル ー プ 『 ケ ー ス に 学 ぶ 経 営 学 ( 第 3 版 ) 』 有 斐 閣 、 ¥ 2,700 + 税					1. 村 山 元 英 ・ 小 柏 喜 久 夫 『 経 営 文 化 論 序 説 』 文 眞 堂 、 ¥ 3,800 + 税				
2. 印 刷 資 料 も 用 い ま す 。					2. 宮 森 千 嘉 子 ・ 宮 林 隆 吉 『 経 営 戦 略 と し て の 異 文 化 適 応 力 』 日 本 能 率 協 会 マ ネ ジ メ ン ト セ ン タ ー 、 ¥ 1,800 + 税				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ま す 。									
授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 ( 20 % ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 20 % ) 、 定 期 試 験 ( 60 % ) 等 で 総 合 評 価 し ま す 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
欠 席 し な い こ と が 大 前 提 で す 。 積 極 的 に 取 り 組 み 、 自 己 学 習 能 力 を 高 め る よ う 期 待 し ま す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え ま す 。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 文 化 論 II (Business Culture II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	清 水 健 太								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 企 業 が 経 営 を 行 う こ と に よ り、そ の 組 織 に お け る 長 い 習 慣 な ど か ら 経 営 文 化 や 企 業 文 化 が 成 立 す る。こ う い っ た 経 営 文 化 や 企 業 文 化 が 経 営 行 動 に ど の よ う な 影 響 を 与 え る の か 学 習 す る。									
授 業 目 標 : 経 営 組 織 に お け る 経 営 文 化 の 成 立 な ど に つ い て 理 解 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 資 料 の 確 認		講 義 90 分	
2	日 本 の 経 営 文 化 を 理 解 す る					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
3	ト ヨ タ 生 産 方 式					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
4	京 セ ラ の ア メ ー バ 経 営					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
5	日 本 型 経 営 と 経 営 文 化 論					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
6	日 本 型 経 営 と ア メ リ カ 型 経 営					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
7	コ ー ポ レ ー ト ガ バ ナ ン ス と 経 営 文 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
8	経 営 文 化 と 企 業 倫 理					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
9	経 営 文 化 と コ ン プ ラ イ ア ン ス					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
10	グ ル ー プ 経 営 と 経 営 文 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
11	グ ロ ー バ ル 化 と 経 営 文 化					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
12	事 例 研 究 1 : ト ヨ タ 自 動 車					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
13	事 例 研 究 2 : ソ ニ ー					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
14	期 末 試 験 の 説 明 と 前 期 講 義 の ま と め					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
15	前 期 講 義 の ま と め					事 前 : 講 義 資 料 の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 90 分	
教 本 : 特 に な し					参 考 文 献 : 特 に な し				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 し ま す。 授 業 参 加 状 況 等 (10%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (65%)、定 期 試 験 (25%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 欠 席 す る と 単 位 の 取 得 は 難 し く な り ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 分 析 論 I (Business Analysis I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>経営分析論 I・IIでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのか理解できるようにする。経営分析論 Iでは、分析対象である財務諸表（連結財務諸表）の特徴からそれを用いる基本的な分析について学修する。</p>									
授 業 目 標 :									
財務諸表（連結財務諸表）の特徴と基本的な経営分析を理解することを目標とする。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	財務諸表分析の基礎 財務諸表分析の意義や方法等について解説する。					事前：テキスト1-20頁 事後：復習ノートの作成		講義 90分	
2	連結貸借対照表 連結貸借対照表の特徴について解説する。					事前：テキスト21-34頁 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
3	安全性分析1（短期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いて短期の安全性分析を解説する。					事前：テキスト53-61頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
4	安全性分析2（長期の安全性分析） 連結貸借対照表を用いて長期の安全性分析を解説する。					事前：テキスト62-80頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
5	問題演習1 第1回から第4回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
6	連結損益計算書・連結包括利益計算書 連結損益計算書を中心に特徴について解説する。					事前：テキスト35-40頁 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
7	収益性分析1（売上利益率） 連結損益計算書の売上と利益の分析について解説する。					事前：テキスト81-90頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
8	収益性分析2（プロフォーマ利益・セグメント別分析） プロフォーマ利益とセグメント別の分析について解説する。					事前：テキスト91-104頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
9	連結財務諸表の相互関係と収益性分析 ROE・ROAと分解による要因分析について解説する。					事前：テキスト105-130頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
10	問題演習2 第6回から第9回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	効率性分析 回転率と回転期間の分析について解説する。					事前：テキスト131-142頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
12	連結キャッシュ・フロー計算書 連結キャッシュ・フロー計算書の特徴について解説する。					事前：テキスト41-52頁 事後：復習ノートの作成		講義 70分 問題演習 20分	
13	キャッシュ・フローの区分間関係 キャッシュ・フローの区分間の関係について解説する。					事前：テキスト143-156頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
14	キャッシュ・フローと財務諸表分析 キャッシュ・フローを使った財務諸表分析について解説する。					事前：テキスト157-172頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
15	問題演習3 第11回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館					桜井久勝『財務諸表分析』（最新版）、中央経済社。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト（70%）、レポート（30%）で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 営 分 析 論 II (Business Analysis II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 琢 也								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>経営分析論Ⅰ・Ⅱでは、企業が作成する財務諸表（連結財務諸表）を用いて、安全性分析、収益性分析、成長性分析等の分析手法について学修する。そして、求められた指標数値からそれが何を表すのか理解できるようにする。経営分析論Ⅱでは、経営分析論Ⅰの内容を踏まえて、より専門的な分析について学修する。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>経営分析論Ⅱでは、経営分析論Ⅰの内容を踏まえて、応用的な経営分析を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳 細 に 記 入）					事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）		授 業 形 態	
1	経営分析論Ⅰのおさらい 前期までの経営分析について改めて解説、復習する。					事前：シラバスを読む 事後：復習ノートの作成		講義 30分 問題演習 60分	
2	損益分岐点分析1（損益分岐点・利益図表） 損益分岐点の分析と営業レバレッジについて解説する。					事前：テキスト173-182頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
3	損益分岐点分析2（勘定科目法、総費用法。最小2乗法） 変動費と固定費に分解した分析について解説する。					事前：テキスト183-192頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
4	成長性分析1（基本的な成長性分析） 前年度比率、対基準年度比率について解説する。					事前：テキスト193-207頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
5	成長性分析2（上場企業の成長性） 上場企業の成長性の分析について解説する。					事前：テキスト207-218頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
6	問題演習1 第2回から第5回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
7	付加価値分析 労働生産性、労働分配率等の分析について解説する。					事前：テキスト219-234頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
8	ファンダメンタルズ分析1（株式価値評価） 株式価値評価、配当割引モデルについて解説する。					事前：テキスト235-247頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
9	ファンダメンタルズ分析2（DCFによる分析と価値） 割引キャッシュ・フロー・モデルについて解説する。					事前：テキスト247-262頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
10	問題演習2 第7回から第9回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
11	会計利益と価値評価1（残余利益アプローチ） 残余利益と株式価値評価モデルについて解説する。					事前：テキスト263-272頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
12	会計利益と価値評価2（将来キャッシュ・フローの予測） 価値関連性分析と株価説明力について解説する。					事前：テキスト273-286頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
13	利益マネジメント1（利益マネジメント） 利益マネジメントの方法、行使パターンについて解説する。					事前：テキスト286-296頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
14	利益マネジメント2（裁量的・非裁量的アクルール） 利益マネジメント行動の検出について解説する。					事前：テキスト296-310頁 事後：復習ノートの作成		講義 50分 問題演習 40分	
15	問題演習3 第11回から第14回までの理解度をみる。					事前：復習ノートの確認 事後：復習ノートの作成		問題演習 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
乙政正太『財務諸表分析』（最新版）、同文館。					桜井久勝『財務諸表分析』（最新版）、中央経済社。				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 小テスト（70%）、レポート（30%）で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス： 必ず電卓を用意すること（スマホなどの電卓は認めない）。日々の予習復習を怠らないこと。授業妨害になることをしないこと。</p>									
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経営リスクマネジメント論 (The Risk and Crisis Management for Business Administration)							科目分類	専門科目
担 当 教 員	宮林 正恭								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>ビジネスには、リスクはつきものである。また、大きな収益を狙おうとすれば、より高いリスクを許容せざるを得ないのが通常である。リスクは発現し危機となる可能性であるから、ビジネスにおいては、時には危機となることもありうる。この授業では、ビジネスに於ける、リスク・コントロールなどリスクの取り扱いの仕方、リスクのある状況の中での組織の運営、そして、万一、危機が発生したときの経営の仕方であり方ならびにその関連事項について学ぶ。</p> <p>学生が経営とは何か、どのように経営が行われているか、経営の基礎理論などについて十分知識を有していない場合はそのような経営の基礎にまで遡って授業を行う予定である。その場合は必ずしも下記のスケジュールにこだわらず授業を行うことになる。</p>									
<p>授業目標：①経営におけるリスクと危機の概念を理解する。  ②経営におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのような特性を持っているか理解する。  ③経営におけるリスクや危機をどのようにコントロールするかを理解する。  ④リスクを低減するためのマネジメント手法および危機になった時の行動の仕方について理解する。  ⑤リスクコミュニケーション、クライシスコミュニケーションなどリスクや危機に際しての対外関係のあり方の理解をする。  ⑥その他、経営におけるリスクや危機に関する関連事項を理解する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション 経営におけるリスクおよび危機の存在					事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
2	経営の際のリスクマネジメント 事業継続マネジメント					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
3	不況、経営不振、ガバナンスリスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
4	コーポレートガバナンス（内部統制、監査システム）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
5	人に絡むリスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
6	市場リスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
7	投資リスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
8	投資リスクへの金融手法の活用、供給リスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
9	技術関連リスク 環境・社会関連リスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
10	災害リスク、将来迎えるであろう環境変化のリスク					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
11	リスクの取り扱いに関する考え方					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
12	リスクの取り扱いの方法論					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
13	リスクへの備え（危機マニュアル、リスクファイナンス、リスクコミュニケーション、リスク監視）					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
14	企業（組織）の危機時の行動のあり方、					事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
15	全体のまとめ					事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応		講義 60分、ディスカッション 30分	
教本： なし					参考文献： リスク危機マネジメントのすすめ（宮林正恭、丸善出版）				
<p>成績評価の方法、評価基準：  中間レポート、期末レポートを含む授業への参加度合いで60(%)、期末試験40(%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：  ビジネスの世界は常に動いている。それを題材にするので、社会の経済ニュースに常に興味を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報を入手し、理解するように努めてほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：  別途掲示される予定になっているのでその時間帯にきてください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。  連絡先：080-4732-3423 メールアドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	景 観 論 I (Landscape Studies I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>景観研究の学際性を検討し、観光学領域から景観学を概観する。そして、観光学における景観現象の「理解と解釈」を理論と実践を通し具体的に説明する。観光領域に関わる「景観環境」はアトラクション認知に深く関わる重要な要素であり観光学において体系的に説明する。そして、景観整備等への応用と共に、観光学の枠組みにおける景観環境の役割を考察する。講義は「ディスカッション」、「ディベート」を通し実施する。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
① 景観の構造について理解する。									
② 観光学の枠組みにおける景観の意味を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態		
1	オリエンテーション				事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分		
2	景観概念とそのタームの歴史的的理解 (景観という語の誕生とその変遷)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
3	景観学領域の学際性 (地理学、土木・建築学等の研究領域からのアプローチ)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
4	感性工学から検討した景観(1) (五感における視覚の優位性について)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
5	感性工学から検討した景観(2) (サウンドスケープ等、その他の感覚における環境認識と景観環境)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション、ディベート20分		
6	観光学からのアプローチの特性 (観光対象を提示するという意味での景観環境)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
7	観光資源学からの景観(1) (地理的領域からの景観環境)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
8	観光資源学からの景観(2) (観光資源の分類と景観環境)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
9	観光資源学からの景観(3) (観光資源と観光対象(attraction)の類似と相違を巡って)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
10	「観光者がまなごしを向ける対象」としての景観 (眼差しと景観環境)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
11	「観光者がまなごしを向ける対象」としての景観 (観光者の attraction の認知と景観)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義60分、 ディスカッション、ディベート20分		
12	景観学各論(1) (ヨーロッパの景観観)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
13	景観学各論(2) (中国の景観観)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
14	景観学各論(3) (わが国の景観観)				事前：次回の子習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分		
15	纏め				事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分		
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 ごとにプリントを配布する。					適宜指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
観 光 学 の 立 場 か ら 景 観 を 分 かり や す く 説 明 し ま す。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	景 観 論 II (Landscape Studies II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	飯 島 祥 二								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>景観学の学際性を検討し、景観現象に認知に関わる領域の理解を深める。当該講義は観光系の講義であるため、観光学における景観領域の構造的な理解を促す。本講義は、森羅万象的な景観要素のうち、「景観色彩」に着眼し、「景観色彩の意味」、「景観色彩の計測・分析法」、「景観色彩の観光学への応用」などを通じ、観光学的景観の意味と役割を学修する。また、本講義は、「色彩学」の基礎的内容を含み、色彩学の学習への糸口を提示する。当該講義は「実習」と「フィールドワーク」の時間を多く設定し、実際の調査手法を実地に学修する。シラバス中にやや難解な用語が含まれているかもしれませんが、講義では丁寧に分かりやすく説明します。また、予習・復習に関しては講義において詳細に指示いたします。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>① 景観の構造について理解する。  ② 観光学の枠組みでの景観現象を理解する。  ③ 景観色彩の計測法や分析法を理解する。  ④ 色彩学の基礎を学修してその他の領域への応用を考える。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの確認 事後：ノートを整理して復習		講義90分	
2	景観環境と景観形成 (景観の分類、関連法規、景観計画の実際)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
3	景観環境の各構成要素と「景観色彩環境」の観光学における意味(建築・土木学、観光学、色彩学の学際性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
4	景観学と色彩学 (景観色彩の研究史とその現在)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
5	景観色彩という環境 (身近な環境としての景観環境・景観色彩環境)(1)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
6	景観色彩の認知(1) (景観色彩の認知に関わる人間・環境系)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 実習50分	
7	景観色彩の認知(2) (色彩認知から見た景観色彩)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
8	景観色彩の計測法(1) (表色系の種類と内容)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 実習50分	
9	景観色彩の計測法(2) (マンセル表色系)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 実習50分	
10	景観色彩の計測実習(1) (室内での計測)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 フィールドワーク50分	
11	景観色彩の計測実習(2) (屋外(キャンパス)での計測)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義30分、 フィールドワーク50分	
12	景観色彩の地域的差異(1) (わが国に各都市における差異とその解釈)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
13	景観色彩の地域的差異(2)(わが国とイギリスとの国際比較：その環境学的・歴史文化的意味)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
14	ツーリズムにおけるアトラクションとしての景観色彩要素(色彩の地域差とauthenticityとの関係性)					事前：次回の予習 事後：ノートを整理して復習		前回の確認10分、講義70分、 小レポート10分	
15	纏め					事前：今までの講義の復習 事後：講義全体の復習		前回の確認10分、講義80分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 ごとにプリントを配布する。					適宜指示する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (30%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
景観色彩を分かりやすく説明します。また、色彩学の基礎も説明し、色彩学への道筋を教示します。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 学 (Economics)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>私たちは誰もが日々経済活動をしています。ATMで現金を引き落としてモノを買い、消費すること。会社に行って仕事をする。CO<sub>2</sub>の減少に貢献するために再生可能エネルギーによる電力を使ったり、その電力でスマホに充電したりすること。これらはすべて経済行為です。経済学はこうした経済行為を一消費者や生産者、あるいは企業・産業、国単位、世界、環境、福祉、エネルギーなどの観点で表現したものです。本講義では主に日常にある経済問題を取り扱います。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>先ず、専門用語と数字になれて下さい。次に経済の関連性についてイメージを作ってください。たとえば、所得と税金、消費と価格、環境保全と電気自動車、為替レートと輸入・輸出などです。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス： 授業の進め方と取り扱う問題の範囲の説明。基本的な経済用語と数値の解説。経済学の歴史の概説。情報収集の方法の提示。				事前：身近な経済問題をメモしておく。 事後：経済用語表を作成(継続)。			講義	
2	世界の中の日本： 日本はどのように成長・発展してきたか。世界の中で日本はどのようなポジションにあるかを解説。				事前：1回目の講義で配布された資料を読む。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	日本経済のしくみ その(1)：企業・産業 わが国にはどのような企業と産業があり、世界的にみて特徴はあるのか。得意分野と不得意分野、今後期待される産業はあるのか。				事前：関心のある企業・産業の下調べ。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	日本経済のしくみ その(2)：政治と行政、経済 行政省庁と民間経済の関係。国と地方の関係性。経済政策の基礎を解説。				事前：行政の下調べ(どんな省庁があるか)。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	日本経済のしくみ その(3)：人口問題 一極集中と過疎化、少子高齢化社会の実態、コロナ禍で地方移住は進むか。				事前：一極集中の弊害を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	日本経済のしくみ その(4)：私たちの暮らしと税金 いわゆる「日本の借金問題」について。税金の基礎。				事前：「日本の借金/人口=〇円/一人」を調査しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	日本経済のしくみ その(5)：デジタル経済論 アナログとデジタル、ネットワーク、デジタル産業について。デジタルによる新しい産業。				事前：デジタル用語を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	エネルギー経済について：電力 直流と交流、発電と送電、再生可能エネルギーとは。今後の電力政策。近未来の電力システム等について解説。				事前：各種電池の特徴を調べておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	環境経済について：IPCCと地球温暖化問題 IPCC「報告書」の概要。地球温暖化の実態、環境政策の概要。				事前：近年のわが国の災害を調べておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	交通経済学：電気自動車 なぜ電気自動車か。電気自動車社会になると私たちの暮らしはどう変わるのか。				事前：現行の自動車の構造を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	

11	商業経済：流通と物流、マーケティング 私たちの日常の経済生活を支える裏側を見る。成功した戦略と失敗した戦略。企業の栄枯盛衰物語。	事前：近年、注目されている企業をピックアップしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)	講義60分とディスカッション15分、発表15分
12	福祉と経済：幸せを考える 厚生経済学の歴史。介護問題の基礎。経済学は人を幸せにするか。	事前：「幸福度調査」を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)	講義60分とディスカッション15分、発表15分
13	貨幣的経済学：銀行システムと為替レート 日本銀行と民間銀行。金融政策の基礎。為替レートはなぜ変動するのか。	事前：日本の銀行の歴史を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)	講義60分とディスカッション15分、発表15分
14	世界経済論：経済体制の違いと経済発展 資本主義経済と社会主義経済の歴史と特徴。わが国はどのような経済体制か。	事前：発展途上国の概要を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)	講義60分とディスカッション15分、発表15分
15	メディアと経済：現代メディアを活用した経済の学び方 テキストや専門書、新聞を読むだけが経済学の勉強方法ではない。TVやインターネットはもちろんのこと、中波ラジオも近年インターネット化され、質の高い情報が比較的簡単に手に入るようになった。	事前：日本のメディアの概要を下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)、利用可能なメディアの選択。	講義60分とディスカッション15分、発表15分
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)		参考文献： なし。(関連情報源を随時提示します。)	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 経済学の対象は多種多様ですが、皆さんが関係する問題、関心をもっている問題を取り上げます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 原 論 I (Economics Theory I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
経済学は社会科学の一分野ですが、歴史も長く、理論水準も高い学問です。その範囲も私たちの暮らしから国と国との取引までほとんどすべての領域が経済学のツールで分析されます。本講座はマクロ (巨視的) 経済と呼ばれる国単位の経済を論じます。									
授 業 目 標 :									
メディアから出される経済情報を理解し、自ら考えられるようになって下さい。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	ガイダンス：経済学の範囲と方法 マクロ経済学とは何か。L. フルラスによる経済分析の定義。 基本用語と数値の概説。				事前：経済用語表とデータ帳を作成しておく。 事後：講義内容の要約(A4,1枚)			講義	
2	経済指標：GNP, GDP 他 代表的な経済指標とマクロと社会会計の説明。わが国の経済 と外国経済の比較。				事前：日本と先進主要国のGDPを下調べしておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	経済学説史：アダム・スミスからフリードマンまで 21世紀になっても経済政策の根底には経済学者の哲学が活 きている。ケインズ主義や新自由主義とは何か。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	消費理論：ケインズの消費関数他 なぜ私たちは消費するのか。消費に与える影響因は何か。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	投資理論：資本の限界効率 なぜ企業は投資するのか。投資に影響を及ぼす要素は何か。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	乗数理論：消費と投資の相乗効果 国際貿易と政府支出がないと仮定した場合の国民所得の決定 まで。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	政府の財・サービス購入：マクロ経済における政府の役割 政府支出の内訳。大きな政府と小さな政府。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	経済成長・循環論：なぜ景気は変動するのか 成長理論と循環理論の基礎。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	分配論：所得格差の問題 ローレンツ曲線とジニ係数				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	経済政策論 (1)：財政政策 政府の役割。ケインジアンとマネタリスト論争。失業対策				事前： 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	経済政策論 (2)：金融政策 中央銀行の役割。主な金融政策。利子論。合理的予想理論を導入 したマクロ経済学。インフレーション政策。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	オープン・マクロ経済学：ケインズ理論からマンデル・フレミ ング理論へ 国際貿易を考慮した場合の経済政策の帰結。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	国際金融論：為替レート ブレトンウッズ体制から変動相場制まで。為替レートの決定。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
14	環境経済学：エネルギー問題 K.E. ボールディングの「宇宙船地球号」。限られた資源と経済 政策。地球温暖化に対する各国の対応他				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
15	経済学について考える：経済学者と経済理論 ノーベル経済学賞。経済学への批判。経済学の有効性。				事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)			講義60分とディスカッション15分、発表15分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。(適宜、資料を配布します。)					なし。(関連情報源を随時提示します。)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (80%) 等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にためです。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」(記述形式)を守ってもらいます。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 原 論 II (Economics Theory II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講座はミクロ(微視的)経済学の領域を講義します。「ミクロ」とは経済学の場合個別経済単位、すなわち消費者や企業、さらに同種の生産物を生産・販売する企業群(産業)の経済行動を分析します。したがって、消費数量や価格、所得、売上、利益などを説明することになりますが、ミクロ経済学的应用かつ拡張分野として、教育や情報の経済学も取り扱います。</p>									
授 業 目 標 :									
(1) 経済学的思考ができるようになること。									
(2) 身近な経済問題が解けるようになること。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス：分析ツールとしてのミクロ経済学 基本用語の解説およびミクロ経済学はどのような経済問題に有効かを概説。					事前：経済用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約(A4,1枚)		講義	
2	需要と供給：経済学の基本ツール 需給均衡、曲線の傾き、弾力性、部分均衡理論と一般均衡理論。需要理論のトビックス(ヴェブレン効果や依存効果、デモンストレーション効果等)					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	消費理論(1)：効用理論 当初、経済学者は消費による満足を計測できると考えていたが、やがてそれが無差別曲線分析に発展し、ミクロ経済分析が飛躍的に向上した。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	消費理論(2)：価格の理論 価格は消費にどう影響するか。予算制約と消費者均衡、需要曲線の導出、代替効果と所得効果。3回目の内容と合わせて消費者行動論と呼ばれる。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	生産理論(1)：生産関数 生産の3要素とは。効率的な生産量は存在するか。生産の規模と効率性。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	生産理論(2)：費用の理論 生産に要する費用の分類と定義。生産・利潤の最大化。5回目の内容と合わせて企業行動論と呼ばれる。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	生産理論(3)：長期費用曲線 経済学における短期と長期、超長期の定義と企業の成長。費用減産業と費用増産業等の説明。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	市場と競争の理論(1)：完全競争市場と不完全競争市場 市場の形態。競争市場と市場支配力。独占の弊害について解説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	市場と競争の理論(2)：コンテスト市場の理論 埋没費用(サンク・コスト)と市場参入、ヒット・エンド・ラン戦略等。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	厚生経済学：パレート最適 完全競争均衡。アダム・スミスの「(神の)見えざる手」					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	情報の経済学(1)：情報の非対称性(レモンの経済学) 情報の欠落による消費財購入の失敗(市場の失敗)。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	情報の経済学(2)：契約の理論 モラルハザードと逆選抜。「保険がかけられている自動車は安全運転の意識が若干薄れるかもしれない」なぜだろうか。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	教育の経済学：G.ベッカーの「人的資本」の考え方 教育の経済的効果、教育投資論について概説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
14	ゲームの理論：囚人のジレンマ。ナッシュ均衡。 1944年のJ.V.ノイマンとO.モルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』以来、現在に至るまで企業競争や国際政治等多くの分野に応用されている。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	

15	新しいマイクロ経済学のトピックスについて：	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約(A4,1枚)	講義60分とディスカッション15分、発表15分
教本： なし。(適宜、資料を配布します。)		参考文献： なし。(関連情報源を随時提示します。)	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にするためです。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」(記述形式)を守ってもらいます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	経済法Ⅰ (Economic Law Ⅰ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	藤原俊雄								
履 修 条 件	前提科目	ビジネス法Ⅰ・Ⅱ、企業組織法Ⅰ・Ⅱ							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義では、経済活動を規律する経済法の核をなし基本法である独占禁止法（独禁法）の理解を深めることを主眼とする。資本主義経済原理の下で営まれる企業活動において、一定の競争原理が働くことは消費者適正価格での取引実現のためには望ましい。その一方で、価格操作などによる不利益を被ることもある。そのような一連の取引を適正に行うための法規則を本講義では学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 1. 独占禁止法に関する基本的事項について、自らのことばで説明することができる。 2. 現実の経済活動において生じている経済法に関する諸問題の概要と課題を説明することができる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	経済法を学ぶにあたって（導入） ・市場経済における競争原理の実態を知る。					事前：教本 pp.1～9 精読 事後：関連判例の整理		講義 90分	
2	競争の目的 ・競争政策の目的と効能について理解する。					事前：教本 pp.9～22 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
3	独禁法の規制内容 ・不公正な取引の規制方法を理解する。					事前：教本 pp.22～35 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
4	合併・株式保有等の規制 (1) ・市場効果要件について理解する。					事前：教本 pp.37～48 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
5	合併・株式保有等の規制 (2) ・市場効果の判定基準について理解する。					事前：教本 pp.48～88 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
6	不当な取引制限 (1) ・カルテルの形態と規制について討議する。					事前：教本 pp.89～96 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
7	不当な取引制限 (2) ・具体的な行為者とその制限内容について理解する。					事前：教本 pp.97～133 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
8	不当な取引制限 (3) ・違反行為に対する制裁手段について理解する。					事前：教本 pp.134～143 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
9	私的独占 (1) ・どのような行為が私的独占となるのか理解する。					事前：教本 pp.143～160 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
10	私的独占 (2) ・支配と排除の実例から問題点を探る。					事前：教本 pp.160～171 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
11	私的独占 (3) ・違反行為に対する制裁方法について理解する。					事前：教本 pp.171～187 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
12	不公正な取引方法 (1) ・不公正な取引方法の規制の仕組みを知る。					事前：教本 pp.187～193 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
13	不公正な取引方法 (2) ・公正競争阻害の3つのタイプについて整理し討議する。					事前：教本 pp.193～202 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
14	不公正な取引方法 (3) ・共同取引拒絶の実態と課題を討議する。					事前：教本 pp.202～214 精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた経済法上の課題について事例を基に検討する。					事前：これまでのノート整理 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
<b>教本：</b> 川濱昇、瀬領真悟、泉水文雄、和久井理子『ベーシック経済法 第5版』（有斐閣、2020）。¥2,100＋税					<b>参考文献：</b> 授業中に適宜指示する。 ※学習用六法はできる限り携帯すること。				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 平常点 (20%)、小テスト・レポート等 (30%)、期末試験 (50%) で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 経済法の全体像を理解するためには、1,2年次に学んできた経済学、法学、ビジネス関連科目の基礎知識が不可欠。これまでに学んできた知識を総動員して取り組まなければならないことを前提に受講すること。この授業は相当難しい。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 法 Ⅱ (Economic Law Ⅱ)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	藤 原 俊 雄								
履 修 条 件	前 提 科 目								
	そ の 他	経 済 法 Ⅰ を 履 修 し て い な い と、理 解 が 困 難 か も し れ な い。							
授 業 概 要 :									
本講義では、経済法Ⅰで習得した知識を基に、経済活動を規律する経済法の核をなす基本法である独占禁止法（独禁法）の理解を深めることを主眼とする。資本主義経済原理の下で営まれる企業活動における一連の取引を適正に行うための規則の概要と課題について、判例や事例を基に討論を重ねながら理解を深める予定。									
授 業 目 標 :									
1. 独占禁止法に関する基本的事項について、自らのことばで説明することができる。									
2. 現実の経済活動において生じている経済法に関する諸問題の概要と課題を説明することができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	経済法Ⅱを学ぶにあたって（導入） ・ 経済法Ⅰで習得した内容を振り返る。					事前：経済法Ⅰの内容復習 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
2	不当対価 ・ 不当販売及び不当高価購入について検討する。					事前：教本 pp.214～226精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
3	不当な顧客誘引・取引の強制／抱き合わせ販売等 ・ 不当な利益による顧客誘引の現状と課題を検討する。					事前：教本 pp.227～244精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
4	事業活動の不当拘束 (1) ・ 排他条件付取引について理解する。					事前：教本 pp.244～254精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
5	事業活動の不当拘束 (2) ・ 再販売価格の拘束について理解する。					事前：教本 pp.254～268精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
6	事業活動の不当拘束 (3) ・ 拘束条件付取引について理解する。					事前：教本 pp.269～277精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
7	取引上の地位の不当利用 ・ 優越的地位の乱用の態様について理解する。					事前：教本 pp.278～287精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
8	競争者の事業活動の不当妨害 ・ 競争者に対する取引妨害及び内部干渉について理解する。					事前：教本 pp.289～293精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
9	事業者団体制制の目的と意義 ・ 事業者団体の概念的特徴について理解する。					事前：教本 pp.295～301精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
10	事業者団体の禁止行為 ・ 取引行為における禁止事項について整理する。					事前：教本 pp.301～304精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
11	事業者団体による自主規制 ・ 標準化、環境保護及び安全確保などについて検討する。					事前：教本 pp.305～312精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
12	国際取引 (1) ・ 競争政策の国際協力の実情と課題について理解する。					事前：教本 pp.313～319精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
13	国際取引 (2) ・ 国際カルテル、国際合併などについて理解する。					事前：教本 pp.320～335精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
14	独禁法のドメイン ・ 政府規制分野・知的財産など関連法について理解する。					事前：教本 pp.337～366精読 事後：関連判例の整理		講義 60分、討論 30分	
15	本講義の総括とともに、浮かび上がってきた経済法上の課題について事例を基に検討する。					事前：これまでのノート整理 事後：まとめノートの作成		講義 60分、討論 30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
川濱昇、瀬領真悟、泉水文雄、和久井理子『ベーシック経済法 第5版』(有斐閣、2020)。¥2,100+税					授 業 中 に 適 宜 指 示 す る。 ※学 習 用 六 法 は で き る 限 り 携 帯 す る こ と。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
平 常 点 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、期 末 試 験 (50%) で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
経 済 法 の 全 体 像 を 理 解 す る た め に は、1、2年 次 に 学 ん で き た 経 済 学、法 学、ビ ジ ネ ス 関 連 科 目 の 基 礎 知 識 が 不 可 欠 で す。こ れ ま で に 学 ん で き た 知 識 を 総 動 員 し て 取 り 組 ま な け れ ば な ら ぬ こ と を 前 提 に 受 講 す る こ と。相 当 に 難 し い 内 容 で あ る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	経 済 リ ス ク (Economic Risks)							科 目 分 類	専 門 科 目
担 当 教 員	宮 林 正 恭								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
<p>授業概要：</p> <p>経済活動は、リスクと背中合わせです。マクロ経済においてもミクロ経済においても、過去や現在を分析するのは、現状は今後どのように変わるか、将来はどのようになるか、あるいは、現在の状況がどのように自分たちの身に降りかかってくるかを考えるためであることがほとんどです。そしてその潜在的な欲求は、何か悪いことが起こる、悪い方向に動くこと、あるいはなにかも良いチャンスはないかを知りそれに対して対策を取りたい（つまりリスクを知りその対策を取りたい）ということにあります。このような観点から経済現象とリスクとの関係について一緒に考えたいと思います。したがってディスカッションによる授業が中心になります。</p> <p>学生が経済活動とは何か、経済の基礎理論などについて十分知識を有していない場合はそのような経済学の基礎にまで遡って授業を行うことにならざるを得ません。その場合は必ずしも下記のスケジュールにこだわらず授業を行うことにします。</p>									
<p>授業目標：(1)経済におけるリスクと危機の概念を理解する。  (2)経済におけるリスクや危機はどのようなものがあり、それらがどのように分析するか、どのようにコントロールするかを理解する。  (3)経済危機およびその他経済のリスクおよび危機に関連する事項について学ぶ</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画（詳細に記入）			事 前 ・ 事 後 学 習（学習課題）			授 業 形 態		
1	オリエンテーション 経済におけるリスクおよび危機の存在			事前：なし 事後：授業に臨む態度の確認 授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
2	経済リスクマネジメント基本論			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
3	日本経済と経済不況			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
4	日本経済に存在するリスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
5	世界経済に存在するリスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
6	米中覇権争いに伴う経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
7	先進国における経済リスクと国際政治			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
8	開発途上国の経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
9	SDGs 及び環境問題と経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
10	IOT 及 AI と経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
11	人口構成の高齢化と経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
12	地震等災害に伴う経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
13	イノベーションと経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
14	産業構造の変化および未来社会と経済リスク			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
15	全体のまとめ			事前：前の授業で示された予習項目についての調査検討 事後：授業で学んだ内容の確認と示された課題への対応			講義60分、ディスカッション30分		
教 本：	なし			参 考 文 献： リスク危機マネジメントのすすめ（宮林正恭、丸善出版）					
<p>成績評価の方法、評価基準：  中間レポート、期末レポートを含む授業への参加度合いで60(%)、期末試験40(%)等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：  経済の世界は常に動いている。また政治や社会活動とも密接に絡んでいる。それを題材にするので、経済ニュースや政治・社会ニュースに常に興味を持って新聞、テレビ、SNS、雑誌などにより、情報入手し、理解するように努めてほしい。そしてディスカッションに置いて問題提起を行うとともに意見を積極的に述べてほしい。</p>									
<p>オフィスアワー：  別途掲示される予定になっているのでその時間帯にきてください。可能な限り、電話またはショートメールで事前に連絡をくれるとありがたい。  連絡先：080-4732-3423 メールアドレス：mmiyabas@shoin-u.ac.jp、研究室 3810室。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	刑 事 法 I (Criminal Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	山 本 直 毅								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>刑法とは、人のいかなる行為を犯罪とし、いかなる刑罰を科すかを定めた法規範の総称である。本授業では、刑法の基礎理論、特に罪刑法定主義を中心に、刑法の全体像について講義するとともに、具体的事例を挙げながら解説し、学生が体系的に理解できることを目的とする。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>本授業では、(1)刑法の歴史的背景を踏まえて、刑法の基本原則について説明することができること、(2)刑法の基本的問題について、自分の考えを筋道を立てて説明することができること、(3)現代社会との関連で、我が国における犯罪の予防およびその対策について、説明することができることを目標とする。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	基礎概論—刑法と刑法の諸機能					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	刑法と刑法学					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	刑罰の意義および本質					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	刑法の基本原則—罪刑法定主義 I					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	罪刑法定主義 II—法律主義					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	罪刑法定主義 III—派生原則					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	犯罪論体系					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	構成要件該当性—因果関係、不作為犯					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	違法性—正当防衛、緊急逃避等					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	責任—責任能力					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	未遂犯					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	正犯と共犯					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	罪数論					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	刑の適用					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	刑法の適用範囲—場所的、時間的範囲					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
川端博『刑法』(成文堂, 2014)					山口厚 = 佐伯仁志『刑法判例百選 I 総論 [第 7 版]』(有斐閣, 2014),				
佐伯仁志 = 大村敦志『ポケット六法 (令和 4 年版)』(有斐閣, 2021)					大谷實『刑法総論 [第 5 版]』(成文堂, 2018)				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
評価配分は、試験70%程度、平常点(課題、確認テスト、発言などの学習態度)30%程度の合計100%です。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予習は、教科書の該当する章を精読することと課題の実施等を行います。復習は、授業時の板書内容と教科書の内容とを突合せ理解を深めることが中心となります。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に伝える。									

開講年次	2年次 半期	選択・必修	選択	単位数	2	時間数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	刑法法Ⅱ (Criminal Law Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担当教員	山本 直毅								
履修条件	前提科目	刑法法Ⅰ							
	その他								
<p>授業概要：</p> <p>刑法とは、人のいかなる行為を犯罪とし、いかなる刑罰を科すかを定めた法規範の総称である。本授業では、刑法の基礎理論、特に罪刑法定主義を中心に、刑法の全体像について講義するとともに、具体的事例を挙げながら解説し、学生が体系的に理解できることを目的とする。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>本授業では、(1)刑法の歴史的背景を踏まえて、刑法の基本原則について説明することができること、(2)刑法の基本的問題について、自分の考えを筋道を立てて説明することができること、(3)現代社会との関連で、我が国における犯罪の予防およびその対策について、説明することができることを目標とする。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	基礎理論—刑法の位置づけと刑法各論					事前：シラバスの確認 事後：講義内容の復習		講義 90分	
2	刑法の諸機能と法益三分説					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
3	生命と身体に対する罪—殺人					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
4	生命と身体に対する罪—自殺関与、傷害					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
5	生命と身体に対する罪—暴行、過失傷害					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
6	生命と身体に対する罪—墮胎、遺棄					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
7	身体と自由に対する罪—遺棄、逮捕監禁、強迫					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
8	自由に対する罪—略取誘拐					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
9	自由に対する罪—住居侵入、秘密漏示					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
10	名誉と信用に対する罪—名誉棄損					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
11	名誉と信用に対する罪—名誉棄損と真実性の証明					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
12	名誉と信用に対する罪—信用棄損、業務妨害					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
13	財産に対する罪—財産犯総論					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
14	財産に対する罪—窃盗					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
15	財産に対する罪—強盗					事前：教科書予習 事後：講義内容の復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>川端博『刑法』（成文堂、2014） 佐伯仁志＝大村敦志『ポケット六法（令和4年版）』（有斐閣、2021）</p> <p>参考文献：</p> <p>山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論〔第7版〕』（有斐閣、2014）、 大谷實『刑法総論〔第5版〕』（成文堂、2018）</p>									
<p>成績評価の方法、評価基準：</p> <p>評価配分は、試験70%程度、平常点（課題、確認テスト、発言などの学習態度）30%程度の合計100%です。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>予習は、教科書の該当する章を精読することと課題の実施等を行います。復習は、授業時の板書内容と教科書の内容とを突合せ理解を深めることが中心となります。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	契約概論 (Introduction to Contract Law)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
授業概要： 民法典の中に点在する個々の法制度および疑念を契約の成立から終了まで流れ沿って概説します。また、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにし、契約実務等を強く意識したものとします。契約法総論の分野となります。									
授業目標： 契約法について、その概要の理解および法的ものの見方を身につけ、実務への応用を図りうることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）			事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特徴（概要）を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえで心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
2	民法（債権法）のガイダンスを行う。民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について概説する。			事前：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認する。 事後：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
3	契約法理解のため、物権と物権変動について概観する。物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について概説する。			事前：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認する。 事後：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
4	民法の改正と契約現象について概観する。民法の諸改正、債権法の改正について概説する。			事前：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認する。 事後：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
5	契約法の構成について概観する。契約総則、契約各則について概説する。			事前：契約総則、契約各則について確認する。 事後：契約総則、契約各則について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
6	契約の種類について概観する。典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、単発契約と継続契約、事業者契約と消費者契約、当事者契約と多当事者契約等について概説する。			事前：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、当事者契約と多当事者契約等について確認する。 事後：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、当事者契約と多当事者契約等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
7	契約の意義と契約法の形成と思想について概観する。契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について概説する。			事前：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認する。 事後：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
8	契約の自由の原則とその制限について概観する。契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について概説する。			事前：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認する。 事後：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
9	意思自治の原理（契約の拘束力）について概観する。契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について概説する。			事前：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認する。 事後：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
10	契約の完結性について概観する。契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階における課題、契約成立後の課題、契約存続中の課題、契約終了段階での課題、契約と他の契約と関連性（個別性・相対性の例外）、契約の完結性の修正等について概説する。			事前：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認する。 事後：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		

11	契約の成立について概観する。契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について概説する。	事前：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について確認する。 事後：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、定型約款、懸賞広告等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
12	契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、危険負担について概説する。	事前：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認する。 事後：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
13	契約の効力（その2）、契約譲渡について概観する。第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について概説する。	事前：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認する。 事後：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	契約の解除（その1）について概観する。契約の解除とその種類、解除権の行使について概説する。	事前：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認する。 事後：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	契約の解除（その2）について概観する。解除の効果、解除権の消滅等について概説する。	事前：解除の効果、解除権の消滅等について確認する。 事後：解除の効果、解除権の消滅等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
<p>教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	契 約 法 I (Contract Law I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	新 城 将 孝								
履 修 条 件	前 提 科 目	私 法 学 I、私 法 学 II、ビ ジ ネ ス 法 I、ビ ジ ネ ス 法 II (同 時 履 修 も 含 め、好 ま し い。)							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
民法典の中に点在する個々の法制度および概念を契約の成立から終了まで流れに沿って集約し、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにします。									
授 業 目 標 :									
契約法についての概要の理解および法的ものの見方を身に付けることを目標とします。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特徴（概要）を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
2	民法（債権法）のガイダンスを行う。民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について概説する。			事前：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認する。 事後：民法の構成、債権の発生原因、諸制度の趣旨と目的について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
3	契約法理解のため、物権と物権変動について概観する。物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について概説する。			事前：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認する。 事後：物権の意義、物権の種類、物権変動、二重譲渡等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
4	民法の改正と契約現象について概観する。民法の諸改正、債権法の改正について概説する。			事前：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認する。 事後：民法の諸改正、債権法の改正、契約現象について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
5	契約法の構成について概観する。契約総則、契約各則について概説する。			事前：契約総則、契約各則について確認する。 事後：契約総則、契約各則について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
6	契約の種類について概観する。典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、単発契約と継続契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について概説する。			事前：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認する。 事後：典型契約と非典型契約、双務契約と片務契約、有償契約と無償契約、諾成契約と要物契約、事業者契約と消費者契約、二当事者契約と多当事者契約等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
7	契約の意義と契約法の形成と思想について概観する。契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について概説する。			事前：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認する。 事後：契約の意義、近代契約法の形成と思想、現代契約法の形成と思想について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
8	契約の自由の原則とその制限について概観する。契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について概説する。			事前：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認する。 事後：契約の自由の原則と現実のずれ、契約自由の原則と制限等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
9	意思自治の原理（契約の拘束力）について概観する。契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について概説する。			事前：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認する。 事後：契約の意義と契約の拘束力、稀薄な意思による拘束（約款取引）、合意による拘束の限界（事情変更の原則）等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
10	契約の完結性について概観する。契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階における課題、契約成立後の課題、契約存続中の課題、契約終了段階での課題、契約と他の契約と関連性（個別性・相対性の例外）、契約の完結性の修正等について概説する。			事前：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認する。 事後：契約の完結性とその意義、契約の個別性、契約の固定性、契約成立段階・契約成立後・契約存続中・契約終了段階での課題、契約の完結性の修正等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
11	契約の成立について概観する。契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について概説する。			事前：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について確認する。 事後：契約の申込みと承諾による契約の成立、それ以外の方法による契約の成立、約款と定型約款、懸賞広告等について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		

12	契約の効力（その1）について概観する。同時履行の抗弁権、危険負担について概説する。	事前：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認する。 事後：同時履行の抗弁権、危険負担、第三者のためにする契約について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
13	契約の効力（その2）、契約譲渡について概観する。第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について概説する。	事前：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認する。 事後：第三者のためにする契約、契約譲渡（契約上の地位の移転）について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	契約の解除（その1）について概観する。契約の解除とその種類、解除権の行使について概説する。	事前：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認する。 事後：契約の解除とその種類、解除権の行使について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	契約の解除（その2）について概観する。解除の効果、解除権の消滅等について概説する。	事前：解除の効果、解除権の消滅等について確認する。 事後：解除の効果、解除権の消滅等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
<p>教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	契約法Ⅱ (Contract Law II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	新城 将孝								
履 修 条 件	前提科目	私法学Ⅰ・Ⅱ、ビジネス法Ⅰ・Ⅱ 契約法Ⅰ (同時履修も含め、好ましい。)							
	その他	なし							
授業概要： 民法典の中に点在する個々の法制度および疑念を契約の成立から終了まで流れ沿って概説します。また、契約に関する基本的な知識等を修得できるようにし、契約実務等を強く意識したものとします。契約法各論の分野となります									
授業目標： 契約法について、その概要の理解および法的ものの見方を身につけ、実務への応用を図りうることを目標とします。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)			事前・事後学習 (学習課題)			授業形態		
1	ガイダンス：開講にあたり、ガイダンスを行う。受講における約束、テスト、評価等の説明等を行う。契約法の特徴 (概要) を示し、契約法Ⅱを学んでいくうえでの心構え等を説明する。			事前： 事後：次回講義のための準備六法・テキスト等の購入、ビジネス法分野についての事前のチェックをする。契約法とは何かについて考える。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
2	贈与契約について概観する。贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について概説する。			事前：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認する。 事後：贈与の意義、贈与の成立、贈与の効力、特殊の贈与について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
3	売買契約 (その1) について概観する。売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について概説する。			事前：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認する。 事後：売買契約の意義、売買契約の成立、売買契約の効力について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
4	売買契約 (その2) について概観する。買い戻し、特殊の売買について概説する。			事前：買い戻し、特殊の売買について確認する。 事後：買い戻し、特殊の売買について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
5	消費貸借契約について概観する。消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について概説する。			事前：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認する。 事後：消費貸借の意義、消費貸借の成立、消費貸借の効力について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
6	賃貸借契約 (その1) について概観する。賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について概説する。			事前：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について確認する。 事後：賃貸借契約の意義、賃貸借契約の効力、当事者の交替 (転貸)、賃貸借契約の機関と終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
7	賃貸借契約 (その2) について概観する。借地の法律関係、借家の法律関係について概説する。			事前：借地の法律関係、借家の法律関係について確認する。 事後：借地の法律関係、借家の法律関係について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
8	使用貸借契約について概観する。使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について概説する。			事前：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認する。 事後：使用貸借契約の意義、使用貸借契約の効力、使用貸借契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
9	雇用契約について概観する。雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について概説する。			事前：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認する。 事後：雇用契約の意義、雇用契約の効力、雇用契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
10	請負契約について概観する。請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について概説する。			事前：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認する。 事後：請負契約の意義、請負契約の効力、請負契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
11	委任契約について概観する。委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について概説する。			事前：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認する。 事後：委任契約の意義、委任契約の効力、委任契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		
12	寄託契約について概観する。寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について概説する。			事前：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認する。 事後：寄託契約の意義、寄託契約の効力、寄託契約の終了について確認し、ノートにまとめる。			講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。		

13	組合契約（その1）について概観する。組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について概説する。	事前：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認する。 事後：組合契約の意義、組合契約の成立、組合の業務執行について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
14	組合契約（その2）について概観する。組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について概説する。	事前：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認する。 事後：組合の財産関係、組合員の変動、組合の解散および清算について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
15	終身定期金契約、和解契約について概観する。終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について概説する。	事前：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認する。 事後：終身定期金の契約の意義、終身定期金の効力、和解契約の意義、和解契約の効力等について確認し、ノートにまとめる。	講義 75分、質疑応答およびリアクション・ペーパーの記入 15分。
<p>教本： 「ポケット六法」または「デイリー六法」等、六法は必ず準備してください。 参考文献： 初回講義日に伝えます。</p>			
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（25%）、小テスト・レポート等（25%）、定期試験（50%）等で総合評価する。</p>			
<p>学生へのアドバイス： 授業への参加等を積極的とし、特に六法の活用を心掛けてください。予習・復習もお願いします。</p>			
<p>オフィスアワー： 初回講義日に伝えます。</p>			

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	原 価 計 算 論 I (Cost Accounting I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	簿 記 原 理 I ・ II							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 原 価 計 算 論 I で は、工 業 簿 記 と 原 価 計 算 の 基 礎 を 解 説 す る。具 体 的 に は、工 業 簿 記 の 意 義、工 業 簿 記 の 仕 組 み、材 料 費 計 算、労 務 費 計 算、経 費 計 算、製 造 間 接 費 計 算、部 門 費 計 算、個 別 原 価 計 算 お よ び 総 合 原 価 計 算 を 解 説 す る。									
授 業 目 標 : 原 価 計 算 論 I と 次 の 原 価 計 算 論 II は、工 業 簿 記 と 原 価 計 算 の 基 礎 を 完 全 に マ ス タ ー す る こ と を 目 標 と し て い る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	工 業 簿 記 の 意 義 工 業 簿 記 の 意 義 お よ び 工 業 簿 記 と 原 価 計 算 の 関 係 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
2	工 業 簿 記 の 仕 組 み 工 業 簿 記 の 勘 定 科 目 と そ の 記 入 法 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
3	材 料 費 計 算 材 料 費 の 定 義 と 分 類 お よ び 計 算 と 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
4	労 務 費 計 算 (1) 労 務 費 の 定 義 と 分 類 お よ び 賃 金 関 係 の 帳 簿 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
5	労 務 費 計 算 (2) 支 払 賃 金 お よ び 消 費 賃 金 の 計 算 と 労 務 費 の 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
6	経 費 計 算 経 費 の 定 義 と 分 類 お よ び 経 費 の 計 算 と 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
7	製 造 間 接 費 計 算 (1) 製 造 間 接 費 の 定 義 お よ び 製 品 へ の 配 賦 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
8	製 造 間 接 費 計 算 (2) 固 定 予 算 と 変 動 予 算 お よ び 配 賦 差 異 の 原 因 分 析 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
9	部 門 費 計 算 (1) 部 門 費 計 算 の 意 義 と 目 的 お よ び 原 価 部 門 の 設 定 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
10	部 門 費 計 算 (2) 部 門 個 別 費 と 部 門 共 通 費 お よ び 製 造 部 門 へ の 配 賦 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
11	個 別 原 価 計 算 (1) 個 別 原 価 計 算 の 意 義 と 方 法 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
12	個 別 原 価 計 算 (2) 個 別 原 価 計 算 の 記 帳 お よ び 仕 損 費 の 計 算 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
13	総 合 原 価 計 算 (1) 総 合 原 価 計 算 の 特 徴 お よ び 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
14	総 合 原 価 計 算 (2) 総 合 原 価 計 算 と 減 損 お よ び 仕 損 品 の 処 分 価 額 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
15	総 合 原 価 計 算 (3) 等 級 別、組 別 お よ び 工 程 別 総 合 原 価 計 算 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
教 本 : 岡 本 清 ・ 廣 本 敏 郎 編 著 『検 定 簿 記 講 義 2 級 工 業 簿 記』 中 央 経 済 社					参 考 文 献 :				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論 I (Cost Accounting I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	簿記原理 I、II							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品（給付）と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。</p> <p>授業目標：</p> <p>工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	序、工業簿記の特色					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	原価計算基準と原価の一般概念					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	原価の要素・種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	原価の態様、非原価項目					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	原価計算の意義と目的、原価計算の種類					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	工業簿記の構造、材料費の計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	材料費の計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	労務費の計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	労務費の計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	経費の計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	製造間接費の配賦計算 I					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	製造間接費の配賦計算 II					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	製造間接費の配賦計算 III					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	部門別計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	個別原価計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
<p>教本：</p> <p>柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600+税</p>					<p>参考文献：</p> <p>岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義（2級工業簿記）』</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20％）定期試験（80％）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>簿記原理 I・II を理解していることが前提となる。簿記を学んでから履修することを希望する。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	原 価 計 算 論 II (Cost Accounting II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	上 野 清 貴								
履 修 条 件	前 提 科 目	原 価 計 算 論 I							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
原 価 計 算 論 II で は、原 価 計 算 論 I に 引 き 続 き、工 業 簿 記 と 原 価 計 算 の 基 礎 を 解 説 す る。具 体 的 に は、標 準 原 価 計 算、原 価 ・ 営 業 量 ・ 利 益 関 係 の 分 析、原 価 予 測 の 方 法、直 接 原 価 計 算、製 品 の 受 払 い、営 業 費 計 算 お よ び 工 場 会 計 の 独 立 を 解 説 す る。									
授 業 目 標 :									
原 価 計 算 論 II と 前 の 原 価 計 算 論 I は、工 業 簿 記 と 原 価 計 算 の 基 礎 を 完 全 に マ ス タ ー す る こ と を 目 標 と し て い る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	標 準 原 価 計 算 (1) 標 準 原 価 計 算 の 意 義 と 手 続 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
2	標 準 原 価 計 算 (2) 原 価 標 準 の 設 定 と 標 準 原 価 カ ー ド を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
3	標 準 原 価 計 算 (3) 標 準 ・ 実 際 原 価 の 差 異 計 算 お よ び 会 計 処 理 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
4	原 価 ・ 営 業 量 ・ 利 益 関 係 の 分 析 (1) CVP 分 析 の 意 義 お よ び CVP 図 表 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
5	原 価 ・ 営 業 量 ・ 利 益 関 係 の 分 析 (2) CVP 分 析 の 基 本 公 式 お よ び 貢 献 利 益 概 念 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
6	原 価 ・ 営 業 量 ・ 利 益 関 係 の 分 析 (3) 安 全 余 裕 率 と 損 益 分 岐 点 比 率 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
7	原 価 予 測 の 方 法 費 日 別 精 査 法 お よ び 高 低 点 法 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
8	直 接 原 価 計 算 (1) 直 接 原 価 計 算 の 意 義 と 目 的 お よ び 方 法 と 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
9	直 接 原 価 計 算 (2) 期 間 損 益 計 算 の 改 善 お よ び 実 際 配 賦 と 予 定 配 賦 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
10	直 接 原 価 計 算 (3) 固 定 費 調 整 お よ び CVP 分 析 へ の 役 立 ち を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
11	製 品 の 受 払 い 製 品 の 完 成 と 記 帳 お よ び 販 売 と 記 帳 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
12	営 業 費 計 算 営 業 費 の 意 義 と 記 帳 お よ び 分 類 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
13	工 場 会 計 の 独 立 本 社 元 帳 と 工 場 元 帳 お よ び 合 併 財 務 諸 表 の 作 成 を 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
14	基 本 問 題 お よ び 応 用 問 題 の 総 復 習 (1) 重 要 な 基 本 問 題 お よ び 応 用 問 題 を 選 定 し て 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
15	基 本 問 題 お よ び 応 用 問 題 の 総 復 習 (2) 重 要 な 基 本 問 題 お よ び 応 用 問 題 を 選 定 し て 解 説 す る。					事 前 : テ キ ス ト の 該 当 箇 所 を 予 習 す る 事 後 : テ キ ス ト で 授 業 の 復 習 を す る		講 義 70 分 例 題 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
岡 本 清 ・ 廣 本 敏 郎 編 著 『検 定 簿 記 講 義 2 級 工 業 簿 記』 中 央 経 済 社									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (20%)、定 期 試 験 (80%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 電 卓 を 用 意 す る こ と (ス マ ホ な ど の 電 卓 は 認 め な い)。日 々 の 予 習 復 習 を 怠 ら な い こ と。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	原価計算論Ⅱ (Cost Accounting Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	川口 修								
履 修 条 件	前提科目	原価計算論Ⅰ							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 工業簿記は、資本の調達・運用・返還についての記帳は商業と同じであるが、製造過程という内部活動を有していることが特徴である。その製造現場での価値移転の記録計算が必要とされる。すなわち、原価計算の領域である。原価計算では、原価を材料費・労務費・経費の3つに分類して計算把握し、その消費額を製品（給付）と関連づける計算を行う。この原価計算と財務会計との関連について論じ、具体的な計算例を使用して講義する。「工業簿記Ⅰ」で学んだことを基礎にさらに総合原価計算・標準原価計算などを学ぶ。									
<b>授業目標：</b> 工業の簿記会計の理解がテーマである。簿記検定2級工業簿記の範囲を理解することを目標として講義を行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	工業簿記Ⅰの復習					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
2	総合原価計算Ⅰ（総合原価計算の意義）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
3	総合原価計算Ⅱ（単一工程単純総合原価計算、平均法と先入先出法）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
4	総合原価計算Ⅲ（特級別計算・組別計算）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
5	総合原価計算Ⅳ（工程別計算）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
6	総合原価計算Ⅴ（仕損品の処理）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
7	標準原価計算Ⅰ（意義）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
8	標準原価計算Ⅱ（材料費差異・労務費差異）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
9	標準原価計算Ⅲ（間接費差異Ⅰ）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
10	標準原価計算Ⅳ（間接費差異Ⅱ）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
11	CVP分析（損益分岐点分析）					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
12	直接原価計算Ⅰ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
13	直接原価計算Ⅱ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
14	営業費計算					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
15	まとめ					事前：テキストの予習 事後：復習		講義 90分	
<b>教本：</b> 柳田 仁編著『原価計算ガイダンス』中央経済社、¥2,600+税					<b>参考文献：</b> 岡本清・廣本敏郎編著 新検定『簿記講義（2級工業簿記）』				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 平常点（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 工業簿記Ⅰを履修・理解していることが前提となる。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義 ・ 演 習
授 業 科 目 (英 文)	言 語 学 (Linguistics)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	松 浦 恵 津 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	日 本 語 概 論							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 第 1 回 ~ 第 6 回 で 言 語 の 特 性 や 言 語 の 類 型 に つ い て 扱 っ た あ と、分 野 別 に 中 心 的 な 項 目 に つ い て 考 え る。そ し て、ふ だ ん 使 っ て い る 身 近 な 存 在 で あ る 言 語 が、学 問 の 対 象 と し て 豊 か で 奥 深 い 内 容 を 擁 し て い る こ と に 気 づ い て い く。									
授 業 目 標 : 1. 諸 言 語 か ら 共 通 し て 取 り 出 せ る 言 語 の 特 徴 を 理 解 し、ど の よ う な し く み で 人 が 言 語 を 産 出 ・ 理 解 し て い る の か を 学 ぶ。 2. 言 語 学 の 基 礎 的 な 考 え 方、言 語 を 客 観 的 に 観 察 す る た め の 方 法 に つ い て 学 ぶ。 3. 中 学 校 ・ 高 等 学 校 国 語 教 員 志 望 者 の 教 材 研 究 に 必 要 な 知 識 と 方 法 を 身 に つ け る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション 世界の言語 (分布・系統) について知り、日本語を相対的に把握する。					事前：世界の言語を調べる 事後：ノート・プリントの整理		オリ30分 講義40分 考察20分	
2	言語の特性① (記号性・恣意性・分節性) を理解し、具体例を示しながら説明できるようにする。					事前：言語の特性を調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
3	言語の特性② (生産性・体系性等) を理解し、具体例を示しながら説明できるようにする。					事前：言語の特性を調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
4	言語の機能：言語は何のためにあるかを考える。					事前：言語の機能について考える 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
5	言語学の対象 (ラング・パロール・共時態・通時態)：言語学は、どのような言語を考察の対象とするのかについて考える。					事前：キーワードを調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
6	言語の類型：異なる言語間で、共通した特徴や相違点について考える。					事前：2つ以上の言語の比較 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
7	言語学の諸分野：言語はどのような側面から考察できるのかを考える。					事前：言語学の諸分野を調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
8	形態論① (形態素)：意味をもつ最小単位について考える。					事前：形態論、形態素を調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
9	形態論② (文法的意味をもつ形態素)：どの「形」がどんな文法的意味を表し、語形の中にどう現れるのかについて考える。					事前：文法的な意味とは 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
10	形態論③ (語構成)：単語は、意味をもつ単位によってどう構成されているかを考え、例をあげ説明できるようにする。					事前：語構成について調べる 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
11	形態論④ (文法的カテゴリー)：文法的意味の領域ごとに、対立する語形がどのような意味を表すのかについて考える。					事前：文法的カテゴリーとは 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
12	統語論 (文の構造・日本語文法における統語論)：1つの文の構造について分析する。日本語の文構造について考える。					事前：統語論とは 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
13	意味論：単語の意味を考える方法を学ぶ。					事前：意味論とは 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
14	社会言語学：年齢・職業・地域等による言葉のちがいについて考える。					事前：社会言語学とは 事後：プリントの確認		講義50~60分 練習問題・ 考察30~40分	
15	まとめ					事前：疑問点の洗い出し 事後：総復習、期末試験準備		質疑応答	
教 本 : プリントを配布する。									
参 考 文 献 : 佐久間淳一、加藤重広、町田健 (2004) 『言語学入門』 研究社 ¥1,980 唐沢伊都夫 (2016) 『日本語教師のための入門言語学—演習と解説』 スリーエーネットワーク ¥1,980									
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (15%)、提 出 物 等 (40%)、定 期 試 験 (45%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 人 間 の 言 語 の し く み を 考 え ます。日 本 語 や 知 っ て い る 外 国 語 を 具 体 例 と し て 考 え る の で、興 味 が も て る と 思 っ ます。人 間 の 言 語 の、機 能 的 で 精 巧 な つ く り に 驚 か さ れ る で し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現 代 家 族 論 (Contemporary Family Studies)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	野 川 智 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 家族や家庭の姿が多様化している現代において、家庭の意義や機能をあきらかにする。子どもが育つ環境としての家庭内の人間関係や家庭と社会の関わりについて考える。さらに、保護者のワークライフバランスや子育ての問題点を洗い出し、家族のつながり、家族を越えたつながりも含めて家族がよりよく生きる意味を探る。									
授 業 目 標 : 1. 子が育つ家庭の意義と機能や現代家族の人間関係について理解する。 2. 子育ての課題に対するさまざまな社会的な支援について調べたり、討議したりする。 3. 自身の将来におけるワークライフバランスやよりよく生きることを考える。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎						○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンスを行い、個人的な家族観から家族を客観視することができるようにする。家族の定義を話し合う。					事前：なし 事後：課題をまとめる		講義 (45分) 討議 (45分)	
2	家族の人間関係の時代的変化を知り、現代家族の人間関係と子育てへの影響を考える。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義 (90分)	
3	子どもが育つ環境としての家庭が子どもの発達に及ぼす意義と機能について理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義 (90分)	
4	戦後の夫婦関係(親)の変化から、小規模化した現在の子育て期の状況や課題を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義 (45分) 討議 (45分)	
5	母親の子育て、父親の子育てを比較しながら、子どもの社会化、親になることの意味を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義 (45分) 討議 (45分)	
6	親のワークライフバランスについてデータを読み取り、男女共同参画社会における仕事と子育ての意義を話し合う。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義 (45分) 討議 (45分)	
7	家族形態の変化に伴って、子育てに関して家庭支援が求められていることを理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義 (90分)	
8	国や地方自治体の具体的な子育て支援策や次世代育成支援策等を調べてまとめる。					事前：情報収集 事後：発表資料作成		講義 (20分) 演習 (70分)	
9	子育て支援策や次世代育成支援策等の報告を聞き合い、現状を話し合いまとめる。					事前：発表資料作成 事後：課題をまとめる		演習 (90分)	
10	子どもが育つ地域社会の変容に目を向けて、地域と家庭のつながりや地域の役割、地域支援について話し合う。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義 (45分) 討議 (45分)	
11	保育者としての子育て家庭支援の原理を学び、保育の専門性を活かした視点をもつことの意味と限界を理解する。					事前：テキスト予習 事後：ノート整理		講義 (90分)	
12	家族間の問題についてテーマを選んでレポートする。(ドメスティックバイオレンス、虐待、障碍児、母子・父子家庭等)					事前：情報収集 事後：発表資料作成		講義 (20分) 演習 (70分)	
13	レポートを聞き合い、感想交流をして問題意識を共有し、視野を広げる。					事前：発表資料作成 事後：課題をまとめる		演習 (90分)	
14	日本における結婚の実情から、これからの家族のつながりや家族を超えたつながりと幸せについて考える。					事前：テキスト予習 事後：課題をまとめる		講義 (45分) 討議 (45分)	
15	「人生100年表」(仕事、結婚、子ども、介護等)を作成しながら、自分の生き方や人間関係を考える。					事前：ワークシート記入 事後：「人生100年表」提出		演習 (90分)	
教 本 : 「コンパクト保育者養成シリーズ 新版家庭支援論」 谷田貝公昭・石橋哲成監修 一藝社 ¥2,000					参 考 文 献 : 適宜資料配布				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (30%)、定期試験 (40%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 家族に対して社会的な視点を持ち、保育者として子育ての家族問題へ視野を広げていきましょう。 また、課題への答えは一つではないですからいろいろな意見を交流していきましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現代文学研究 A (散文) (Study of Contemporary Japanese Literature A)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 龍 一								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
(1) 現代小説を「第三項 語り論」の「〈読み〉の原理」で読む。 (2) 現代文学の世界観認識を読み解き、現代を生きる人間の問題の認識を深める。									
授 業 目 標 :									
(1) 現代小説の代表的作品を講読し、語り合う。 (2) 現代人の生きる課題を追究し、自らの生き方を問い直す。 (3) レポートディスカッションの表現力、対話力の向上を目指す。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	・ 現代小説の作家たちを紹介し、自分の読書経験を話し合う。					事前：なし 事後：感想200字		講義60分、話し合い30分	
2	・ 「第三項 語り論」とは何か？ 村上春樹「運転手は吸血鬼」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
3	・ 物語と小説の峻別を学ぶ。あまんきみこ童話「おにたのぼうし」を例に検討する。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
4	・ 江國香織「デユーク」を読み、感想交流をする。少年はデユークか？ 現代小説を読むことは「謎解き」である。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
5	・ 再読という考え方を学び、「デユーク」の謎を話し合いで解いてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
6	・ 「メディアミックス」という概念を学び、映画「デユーク」を鑑賞し、原作と比較し話し合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義20分、映画鑑賞40分、話し合い30分	
7	・ 吉本ばなな「みどりのゆび」を読み、感想交流をする。この小説の謎を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
8	・ 再読で「みどりのゆび」の謎を解く。「みどりのゆび」とは何か。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
9	・ 岩波少年文庫「みどりのゆび」を読み、「吉本ばなな「みどりのゆび」と比較する。物語原型を学ぶ。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む60分、話し合い30分	
10	・ 川上弘美「神様」を読み、感想交流をする。ファンタジーを考える。小説は全てファンタジーである。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
11	・ 再再読で「神様」謎を解く。なぜ、題名が「神様」か？					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
12	・ 続編「草上の昼食」を読み、私と熊の愛の結末を語り合う。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む45分、話し合い45分	
13	・ 村上春樹「象の消滅」を読み、感想交流する。この小説の謎、象と調教師の消滅を考える。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		講義30分、作品を読む30分、話し合い30分	
14	・ 「象の消滅」の謎を解く。ノーベル賞と村上春樹について考えてみる。					事前：作品を読んでくる 事後：感想200字		作品を読む30分、話し合い30分、講義30分	
15	・ まとめ「現代小説と〈他者〉」について文章でまとめる。					事前：なし 事後：感想1,200字		講義30分、まとめ60分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
『語り論』が拓く文学の授業 (中村龍一著 ひつじ書房)					・ 授業時に紹介する				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
レポ ー ト 課 題 を し っ か り 提 出 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
水 曜 日 昼 休 み									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	現代文学研究 B (韻文) (Study of Contemporary Japanese Literature B)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	徳本 善彦								
履 修 条 件	前 提 科 目	なし							
	そ の 他	なし							
授業概要： (1) 戦後文学における詩の流れを学び、代表的詩人の作品を鑑賞する。 (2) 作品を精読し、声に出して読むことで言葉の新しい価値を見出し、詩の世界をより深く理解する。									
授業目標： (1) 戦後詩史を踏まえ、現代詩人の代表的作品を鑑賞する。 (2) 基本的な詩の「読み」かたを習得し、レポート課題を通して自分なりの作品論を書く。									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーションとして「詩のことは」について考えます。様々な日常的な言葉と詩的な言葉の違いを話し合います。					事前：詩の言葉を考える 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
2	現代詩の始まりとして、戦争と詩の関わりを戦中・戦後を通じて学びます。問題点を整理し話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
3	原民喜の詩などを題材にして原爆詩について学びます。原爆ちという大きな災禍を詩がどのように描いたのか考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
4	鮎川信夫の詩を基にして、戦争で生き残った詩人が戦死した仲間に対して残した言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
5	田村隆一の詩を題材にして、戦後から立ち直りつつある時期の日本社会と詩の関わりを議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
6	谷川俊太郎の詩を扱いながら、高度経済成長期に向かいつつある日本を詩の言葉から捉えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
7	まどみちおの詩「ぞうさん」などを基に、子供向けの詩について考えます。問題点を考え話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
8	入沢康夫「未確認飛行物体」を題材に、非現実的なモノを空想する人間の想像力と詩を結び付けて考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
9	石牟礼道子の詩を題材にして、水俣病について学びます。社会の問題に対して詩の果たす役割を議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
10	川崎洋の詩を題材にして、方言や挨拶などの日本語の面白さを扱った詩について考えます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
11	茨城のり子と石垣りんという二人の詩人の作品を扱い、それぞれの特徴をとらえ言葉を読み比べます。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
12	伊藤比呂美の詩「カノコ殺し」を題材にして、社会の中で生命が管理されてきた問題について議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
13	1968年に起こった出来事について学び、詩と関連付けて捉えなおします。問題点をあぶり出して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
14	現代の短歌(ライトヴァース)を扱います。社会の中で生きる個人から生み出される詩の言葉について話し合います。					事前：課題作を読んでくる 事後：内容のまとめ		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
15	現代詩という視点からヒップホップの歌詞を精読します。意味とリズムに加え、同時代の文脈を探して議論します。					事前：課題作を読んでくる 事後：レポート準備		講義 60分、グループワーク 20分、発表 10分	
教 本： 『教科書で出会った名詞100選』(石原千秋編 新潮文庫)					参 考 文 献： 教室で提示します。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 平常点 (50%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 授業で詩をじっくり読んで、レポート課題に取り組みましょう。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	憲 法 (Constitutional Law)						科 目 分 類	基 礎 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
この講義では、国家社会の基本法である日本国憲法の基本原理と大綱について理解が得られるように解説をする。ここでは、日本国憲法の基本構造と、その課題を共有し、自らの力で憲法問題を考えることを中心目的とする。前半は、「法的なもの考え方」の習得を目指し基礎理論の理解を目的とした説明を行う。その後、日本国憲法の全体像を把握するため、人権や統治の基本事項を扱う。本講義では、立憲主義の原理原則、制度の背後にある理念、人権思想を基にして、個々の事例について共に考えていきたい。									
授 業 目 標 :									
(1)「法的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の成立過程、日本国憲法の具体的内容(憲法の性格と特色)、問題点などについて共に考えていくこと									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	憲法とは何か —憲法学習の勧め、憲法学習の基礎、憲法と法律の違い—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	国家と国家権力と憲法 —国家と憲法と国家機関の違い、憲法の本質、憲法の前提—					事前：テキスト 1章1節 事後：テキスト 1章1節		講義	
3	憲法の任務 —法の支配と法治主義—					事前：テキスト 1章2節 事後：テキスト 1章2節		講義	
4	大日本帝国憲法の基本構造と日本国憲法の成立過程 —憲法成立の法理—					事前：テキスト 2章 事後：テキスト 2章		講義	
5	憲法9条と自衛隊 —自衛権と憲法9条—					事前：テキスト 5章7節 事後：テキスト 5章7節		講義	
6	憲法9条と安保法制 —集団的自衛権を中心に—					事前：テキスト 5章7節 事後：テキスト 5章7節		講義	
7	個人の尊厳と平等 —マイノリティの人権保障—					事前：テキスト 4章1節～6節 事後：テキスト 4章1節～6節		講義	
8	精神的自由権 —ヘイトスピーチを考える—					事前：テキスト 4章7節 事後：テキスト 4章7節		講義	
9	身体的自由権 —死刑制度を考える—					事前：テキスト 4章9節 事後：テキスト 4章9節		講義	
10	経済的自由権 —経済活動の特別な制限を中心に—					事前：テキスト 4章8節 事後：テキスト 4章8節		講義	
11	社会権 —教育現場における憲法論—					事前：テキスト 4章10節 事後：テキスト 4章10節		講義	
12	国会・内閣・裁判所 —総論—					事前：テキスト 5章2節 事後：テキスト 5章2節		講義	
13	国会・内閣・裁判所 —各論—					事前：テキスト 5章3節～4節 事後：テキスト 5章3節～4節		講義	
14	憲法改正問題(1) —憲法9条改正論、家族条項—					事前：テキスト 5章7節 事後：テキスト 5章7節		講義	
15	憲法改正問題(2) —あるべき憲法を考える—					事前：テキスト 4章1節 事後：テキスト 4章1節		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ—憲法編—』(成文堂)¥1,900+税					授 業 中 に 適 宜 指 示				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
小テスト・レポート等(30%)、定期試験(70%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 示 す。									

開 講 年 次	1 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	憲 法 学 I (Japanese Constitution I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 乗 智 之								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
<p>本講義は、国の根本法といわれる憲法の規定のうち、主として基本的人権の保障について理解が得られるように解説をし、日本国憲法の基本的人権の保障構造、規範内容、実際の運用とその問題点を明らかにすることを目的とする。本講義の中心的目的は、学説・判例理論(具体的事例)の検討を通じて、その論理構造の問題点と課題を明らかにすることに重点をおき、憲法学的思考方法の理解を深めることにある。具体的事例の考察を通じ、自らの力で憲法論を展開し、問題解決能力を養う点にある。</p>									
授 業 目 標 :									
(1)「法的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の人権保障とその課題などについて共に考えていくこと									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			◎			○			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	憲法総論 —憲法学習の基礎、憲法と法律の違い—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	国家と憲法 —国家と憲法と国家機関の違い、憲法の前提、主権概念—					事前：テキスト 1章 事後：テキスト 1章		講義	
3	立憲主義と人権保障 —一人の支配と法の支配、民主政治の原理—					事前：テキスト 1章 事後：テキスト 1章		講義	
4	基本的人権総論(1) —基本的人権の歴史的發展、権利の法的性質—					事前：テキスト 4章1節 事後：テキスト 4章1節		講義	
5	基本的人権総論(2) —基本的人権の限界、公共の福祉の概念—					事前：テキスト 4章1節 事後：テキスト 4章1節		講義	
6	憲法14条と平等原則 —合理的差別と不合理な差別—					事前：テキスト p.79~p.81 事後：テキスト p.79~p.81		講義	
7	精神的自由権(1) —思想良心の自由と起立斉唱職務命令—					事前：テキスト p.82~p.83 事後：テキスト p.82~p.83		講義	
8	精神的自由権(2) —表現の自由とその限界—					事前：テキスト p.88~p.95 事後：テキスト p.88~p.95		講義	
9	精神的自由権(3) —信教の自由と政教分離—					事前：テキスト p.84~p.85 事後：テキスト p.84~p.85		講義	
10	身体的自由権(1) —罪刑法定主義、適正手続主義—					事前：テキスト p.102~p.104 事後：テキスト p.102~p.104		講義	
11	身体的自由権(2) —死刑制度と憲法、罪刑法定主義、適正手続主義—					事前：テキスト p.105~p.111 事後：テキスト p.105~p.111		講義	
12	経済的自由権 —二重の基準論、営業の自由と薬事法—					事前：テキスト p.96~p.98 事後：テキスト p.96~p.98		講義	
13	社会権 —生存権と生活保護、教育を受ける権利と教育権—					事前：テキスト p.112~p.129 事後：テキスト p.112~p.129		講義	
14	参政権 —国民主権と参政権、外国人の参政権問題—					事前：テキスト p.135~p.142 事後：テキスト p.135~p.142		講義	
15	新しい人権					事前：テキスト p.54~p.72 事後：テキスト p.54~p.72		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ—憲法編—』(成文堂) ¥1,900+税、『ポケット六法』(有斐閣) ¥2,090					『憲法判例百選 I』(有斐閣) ¥2,090 授業中に適宜指示				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小テスト・レポート等(20%)、定期試験(80%)等で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初回講義日に示す。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	憲法学Ⅱ (Japanese Constitution II)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高乗 智之								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<b>授業概要：</b> 本講義は、国の根本法といわれる憲法の規定のうち、主として統治機構について理解が得られるように解説をし、日本国憲法下における政治権力のあり方、理念、実際の運用とその問題点を明らかにすることを目的とする。制度は必ず伝統や哲学によって支えられているため、その制度的特徴を理解した上で、憲法解釈論を展開できるようになることを目指す。									
<b>授業目標：</b> (1)「法律的思考」の習得と自らの言葉で憲法論を展開すること、(2)「憲法とは何か」についての理解を深めること、(3)日本国憲法の統治構造とその課題などについて共に考えていくこと									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	憲法総論 —政治・統治・人権保障—					事前：なし 事後：概念の整理		講義	
2	憲法と国家哲学 —国家・憲法・国家機関・国家権力・主権・国民—					事前：テキスト 1章 事後：テキスト 1章		講義	
3	立憲主義と統治機構の淵源 —代表の理念と立憲主義、数の政治と理の政治—					事前：テキスト 1章 事後：テキスト 1章		講義	
4	天皇 (1) —天皇の憲法上の地位、立憲君主制の本質—					事前：テキスト p.143～p.156 事後：テキスト p.143～p.156		講義	
5	天皇 (2) —国事行為の法的性質—					事前：テキスト p.151～p.154 事後：テキスト p.151～p.154		講義	
6	憲法9条 (1) —自衛隊の合憲性—					事前：テキスト p.218～p.222 事後：テキスト p.218～p.222		講義	
7	憲法9条 (2) —自衛権・安全保障法制と憲法9条—					事前：テキスト p.222～p.226 事後：テキスト p.222～p.226		講義	
8	国会 (1) —国会の地位と組織—					事前：テキスト p.157～p.168 事後：テキスト p.157～p.168		講義	
9	国会 (2) —議院の権能とその限界—					事前：テキスト p.169～p.173 事後：テキスト p.169～p.173		講義	
10	内閣 (1) —議院内閣制の本質—					事前：テキスト p.174～p.177 事後：テキスト p.174～p.177		講義	
11	内閣 (2) —内閣の権能とその限界—					事前：テキスト p.178～p.186 事後：テキスト p.178～p.186		講義	
12	裁判所 (1) —司法権の独立—					事前：テキスト p.187～p.194 事後：テキスト p.187～p.194		講義	
13	裁判所 (2) —違憲立法審査権の本質—					事前：テキスト p.194～p.200 事後：テキスト p.194～p.200		講義	
14	地方自治 —地方自治の本旨、地方自治の仕組み—					事前：テキスト p.208～p.217 事後：テキスト p.208～p.217		講義	
15	憲法改正論					事前：テキスト プリント 事後：テキスト プリント		講義	
<b>教本：</b> 高乗正臣・奥村文男編『プラクティス 法学実践教室Ⅱ—憲法編—』（成文堂）¥1,900+税、『ポケット六法』（有斐閣）¥2,090					<b>参考文献：</b> 『憲法判例百選Ⅱ』（有斐閣）¥2,090 授業中に適宜指示				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 社会問題に関心を持ち、自分の見解を表現できるように日頃から訓練をして欲しい。具体的には、ニュースをみる、新聞を読む、考えた事をメモするなどである。当たり前と思っていることに目を向け、共に考えて行きたいと思う。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に示す。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	行動観察法 (Behavior Observation Method)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	菅沼 憲治								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>一般論として観察にはメガネが必要である。先人の心理学者は、理論構築の枠組みを、メガネにし、行動観察の業績を残している。本講義は、ERIC BERNE により生み出された交流分析の基礎理論を学ぶ。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>交流分析 (TRANSACTIONAL ANALYSIS : TA) における行動観察のポイントを学習する。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	TAの発展に関する考察					事前：シラバスの精読 事後：復習する		講義	
2	自律性とはなにか					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
3	TAの定義と哲学 (基本理念)					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
4	脚本の起源					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
5	ストローク					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
6	値引き					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
7	4つの受動的行動					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
8	構造分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
9	交流の分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
10	脚本の発達					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
11	ラケット分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
12	ゲーム分析					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
13	社交上の時間の構造化					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
14	契約的手法					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義と演習	
15	まとめ					事前：資料精読 事後：コメントシート記入		講義	
<p>教本：</p> <p>『TA ベイシックス』、深沢道子監修、日本TA協会</p>					<p>参考文献：</p> <p>『エリック・バーン 人生脚本のすべて』、江花昭一監訳、星和書店</p>				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等 (60%)、小テスト・レポート等 (40%) 等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>自己分析と他者及び状況観察への取り組みが大切な授業です。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝えます。</p>									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	演 習
授 業 科 目 (英 文)	行 動 観 察 法 演 習 (Practical Training of Behavior Observation)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	行 動 観 察 法 を 履 修 済 み で あ る こ と							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : 行 動 観 察 は、心 理 学 の 有 力 な 研 究 方 法 で あ る 以 上 に 心 理 面 接 技 法 と し て 発 展 し て い る。本 講 義 は、心 理 面 接 を 対 象 と し て 行 動 記 録 を 映 像 と 音 声 で 記 録 し 検 討 す る こ と に よ り 行 動 観 察 の ス キ ル を 習 得 す る。									
授 業 目 標 : 心 理 面 接 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 2 側 面 で あ る プ ロ セ ス と コ ン テ ッ ツ を 理 解 す る こ と で 行 動 観 察 リ テ ラ シ ー を 習 得 す る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 精 読 事 後 : 復 習 す る		講 義	
2	心 理 面 接 に 関 す る 包 括 的 問 題 点 と は					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
3	面 接 の 始 ま り と 守 秘 義 務					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
4	ラ ポ ー ル、共 感、リ フ レ ク シ ョ ン					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
5	主 訴 の 歴 史					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
6	病 歴					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
7	精 神 状 態 の 査 定					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
8	イ ン テ ー ク 面 接 の ま と め 方					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
9	防 衛 的 に な る こ と へ の 対 処					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
10	多 弁 な ク ラ イ エ ン ト に 対 処 す る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
11	面 接 を 終 わ ら せ る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
12	い つ 紹 介 す る か を 知 る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
13	治 療 タ ー ゲ ッ ト を 定 め る					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
14	ケ ー ス フ ォ ー ミ ュ レ ー シ ョ ン の 意 味					事 前 : 資 料 精 読 事 後 : コ メ ン ト シ ー ト 記 入		講 義 と 演 習	
15	ま と め					事 前 : 事 後 : 復 習		講 義	
教 本 : 『臨 床 面 接 の す す め 方』、M ハ ー セ ン ・ V. B. ヴ ァ ン ・ ハ ッ セ ン 著、日 本 評 論 社					参 考 文 献 : 授 業 中 に 随 時 紹 介 す る。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (60%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 記 録 し た 資 料 を 分 析 し 気 づ い た 点 を 考 察 す る 姿 勢 を 持 ち つ つ 授 業 に 参 加 す る。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ま す。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	行 動 分 析 学 (Behavior Analysis)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	菅 沼 憲 治								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
私 たち が 日 常 生 活 で 何 気 な く し て い る 行 動 、 ど う し て も や め ら れ な い 行 動 は 、 ど の よ う に し て 形 成 さ れ た も の の だ ろ う か 。 行 動 分 析 学 で は 、 行 動 の 原 因 を 個 体 の 内 部 で は な く 環 境 と の 関 係 か ら 理 解 す る 。 そ の 理 論 は 、 子 ど も の 発 達 支 援 等 、 多 く の 分 野 に 応 用 さ れ て い る 。 本 講 義 で は 、 行 動 分 析 学 に 基 づ き 、 行 動 が ど の よ う に 形 成 さ れ 、 行 動 を ど の よ う な 方 法 で 変 容 さ せ る こ と が で き る の か に つ い て 学 ぶ 。									
授 業 目 標 :									
行 動 形 成 の メ カ ニ ズ ム を 分 析 し 、 行 動 変 容 の 手 段 を 考 え る こ と が で き る よ う に な る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○			○			
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン					事 前 : シ ラ バ ス の 確 認 事 後 : 講 義 内 容 の 復 習		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
2	行 動 と は 何 か					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
3	学 習 理 論					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
4	行 動 随 伴 性					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
5	強 化 子 出 現 に よ る 強 化					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
6	弱 化 子 消 失 に よ る 強 化					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
7	弱 化 子 出 現 に よ る 弱 化					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
8	強 化 子 消 失 に よ る 弱 化					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
9	や め た い の に や め ら れ な い 行 動 、 し な く て は な ら な い の に で き な い 行 動					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		グ ル ー プ デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 60 分 、 講 義 30 分	
10	行 動 を ど の よ う に 変 え る か ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 60 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
11	行 動 を ど の よ う に 変 え る か ②					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 60 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分	
12	行 動 分 析 学 を 用 い た 事 例 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ①					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 20 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 40 分	
13	行 動 分 析 学 を 用 い た 事 例 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ②					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
14	行 動 分 析 学 を 用 い た 事 例 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ③					事 前 : 資 料 確 認 ・ 課 題 検 討 事 後 : 具 体 的 な 事 例 に つ い て 考 え る		講 義 40 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 30 分 、 発 表 20 分	
15	ま と め					事 前 : 授 業 全 般 の 復 習 事 後 : 理 解 の 補 完		講 義	
教 本 :									
杉 山 尚 子 『 行 動 分 析 学 入 門 』 - ヒ ト の 行 動 の 思 い が け な い 理 由 集 英 社 新 書					参 考 文 献 :				
					リ ャ ー ド ・ W ・ マ ロ ッ ト 『 行 動 分 析 学 入 門 』 産 業 図 書				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 参 加 状 況 等 ( 50% ) 、 テ ス ト ( 50% ) で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講 義 に は 、 グ ル ー プ ワ ー ク 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 、 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 等 を 取 り 入 れ る 。 毎 回 の 講 義 終 了 時 に は 、 コ メ ン ト ペ ー パ ー に 講 義 内 容 か ら 考 え た こ と を 書 い て 提 出 し て い た だ く 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	演 習
授業科目(英文)	国語 (子どもとコミュニケーション) (Japanese)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	古金 悦子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 本授業では、母国語の特質とその役割について理解させ、そのうえで母国語の力を育むことの意味を考えさせる。また幼児期の言語力育成の観点から、「話す・聞く・読む・書く」に分けて概説し、幼児教育者に必要な知識・理論を身につけるよう授業を行う。幼児の言葉・コミュニケーション力の発達の過程を理解させ、幼児の母国語力を高めるために必要な知識・理論を教授する。授業形式は、講義と演習を組み合わせで実施する。									
授業目標： ・母国語の重要性を理解し、幼児の言葉の特質及び言葉の教育の持つ意味を理解する。 ・乳幼児の言語・コミュニケーション発達の発達過程を知る。 ・就学までに身につけさせたいコミュニケーション能力と、それを育む教育内容を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎						○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	母国語の特質について学び母国語力を育む意味を考える					事前：シラバスを読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 50分、演習 40分	
2	幼稚園教育要領と小学校学習指導要領「国語」を比較し、母国語の教育について考える					事前：幼稚園教育要領を読んでおく 事後：課題レポートを作成する		講義 30分、演習 30分 発表 30分	
3	幼児の言葉の発達とコミュニケーション力の育ちについて学び、保育者の役割を考える					事前：前時の復習をしておく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 40分、演習 40分 発表 10分	
4	言語の特徴－「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」ことについて演習を通しその関わりを理解する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントをまとめ、理解を深める		講義 20分、演習 70分	
5	会話表現について理解する幼児期の「話す」・「聞く」力をつけるために必要なことを考える					事前：前時の復習をしておく 事後：配布資料をまとめる		講義 20分、演習 70分	
6	乳幼児期の発達の特性を理解し、その会話と援助について考察する					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントの復習		講義 50分、演習 40分	
7	幼児が文字に接するとき日常生活の中でどのような文字との出会いがあるのかペア・ワークで考え発表する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 30分、ペア・ワーク 40分、発表 20分	
8	児童文学に親しむ。様々な児童文化財の中から、絵本の読み聞かせや素話を取り上げ、実践を通して学んでいく					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
9	幼児期に言葉で自分を表現し、自分の気持ちを現すことを支援するために必要なことを考える					事前：配布資料を読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 20分、グループ・ワーク 60分、発表 20分	
10	幼児が触れる美しい文字・正しい表記について演習問題をペア・ワークで考え発表する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 30分、ペア・ワーク 40分、発表 20分	
11	幼児と平仮名、片仮名、漢字表現の関わりについて身のまわりの表現をペア・ワークで確認し発表する					事前：関係資料を読む 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める		講義 30分、ペア・ワーク 40分、発表 20分	
12	幼児が親しむ敬語の種類・敬語の働きについて、演習問題をペア・ワークで考え発表する					事前：身の回りの敬語表現について考える 事後：授業ポイントについて整理し、理解を深める。		講義 30分、ペア・ワーク 40分、発表 20分	
13	幼児のコミュニケーション力と協調性・社会性の関係について事例から検討する					事前：前時の復習をする 事後：授業ポイントをまとめる		グループワーク 60分、 全体討議 30分	
14	人的環境としての保育者の役割を理解しその必要な言語表現力を身に付ける					事前：資料を読んでおく 事後：授業ポイントをまとめる		講義 30分、演習 60分	
15	これまでの学びをもとに就学までに身につけたい言語力について考察し保育者の援助について自分の考えをまとめる					事前：前時までの資料を見直す 事後：これまでの総復習をする		グループワーク 30分、 発表 60分	
教本： 必要に応じて資料を配布する。					参考文献： 幼稚園教育要領・小学校国語学習指導要領 保育者になるための国語表現 田神貞一郎著 萌文書林				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、発表・レポート等（20%）、授業内試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日頃からニュースや新聞など身の回りの言葉に興味を持ち、過ごしてほしい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際開発経済論 I (International Economic Development I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
<p>授業概要：</p> <p>先進国という分類がありますが、その対極に発展途上国ないしは低開発国があります。これらの国は一般に貧困国で、経済発展が困難です。国際開発経済論は主として、こうした貧困の要因と環境を分析するとともに、いかに経済発展の緒につくことができるかを論じます。なお、本講座は総論、「国際開発経済論 II」は各論を扱います。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>1. 発展途上国の現状を理解する。 2. 発展途上国が経済成長・発展するためにどうすべきかを考える。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と範囲について説明。 (2) 予備資料の配布					事前：用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約（A4, 1枚）		講義	
2	発展途上国について： いわゆる先進国と発展途上国、新興国の定義と分類。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	貧困の経済学 1：人口問題 (1) マルサスの『人口論』 (2) 途上国の人口問題					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	貧困の経済学 2：地理的要因 (1) 交通・物流の問題 (2) 低人口密度 (3) 疾病					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	貧困の経済学 3：教育と技術、人的要因 (1) 低所得と低い教育水準、識字率の低さ。 (2) 困難な技術移転。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	貧困の経済学 4：社会・政治的要因 (1) 治安の悪化、テロ。 (2) 災害と自然環境の破壊。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	経済成長・発展論 1：W.W.ロストウの「5段階発展論」 (1) なぜ「テイクオフ」できないか。 (2) 経済成長・発展の条件					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	経済成長・発展論 2：イノベーションとターンバイク (1) J.A.シュンペーターの「経済発展論」 (2) J.V.ノイマンのターンバイク理論 これらの成長論は発展途上国にフィットするか。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	途上国と金融 (1) 累積債務問題にみる途上国の経済発展の難しさ。 (2) 途上国への直接投資					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	途上国の国際経済学 1：資源と貿易 (1) 途上国に偏在する資源の輸出入 (2) エネルギー資源のシフト					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	途上国の国際経済学 2：教育と栄養 たとえば、飢餓を緩和するため途上国に資金援助しても摂取カロリーは増加しないとされている。まさに「ギッフェンの逆説」が現れている。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	途上国から先進国へ1：日本 かつての日本は先進国とはいえない水準の国だったが、高度経済成長期を経て現在は世界第三位の経済大国になった。この日本モデルが途上国に適用できるかを考察する。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	途上国から先進国へ2：中国 世界第二位の経済大国に成長した中国モデルが途上国に適用できるかを考察する。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	

14	援助の経済学：なぜ支援するのか (1) 共通利益と自己利益 (2) 道義的理由他	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
15	持続可能な開発目標（SDGs）の視点： 新技術とインフラ整備、貧困と飢餓の撲滅、質の高い教育、ジェンダー平等、安全な水の確保、再生可能エネルギーの確保、適切な労働環境の確保、不平等の是正等 ( <a href="https://gooddo.jp/magazine/">https://gooddo.jp/magazine/</a> )	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
教本： なし。（適宜、資料を配布します。）		参考文献： なし。（随時情報源を提示します。）	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練をするためです。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」（記述形式）を守ってもらいます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際開発経済論Ⅱ (International Economic Development Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	国際開発経済論Ⅰを履修していることが望ましい。							
授業概要： 国際開発経済論Ⅰでは、発展途上国固有の問題を概説し、なぜ途上国が経済成長できないかを解説しました。本講座は前講座を基礎にして現代の国家間格差問題をさらに掘り下げて論じます。、世界に遍在する発展途上国を取り上げ、どのような問題があるか。経済成長するためには何が必要か。何を換えればよいかを説明します。									
授業目標： 世界経済を理解する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と範囲の説明 (2) 評価の方法 (3) 予備資料の配布					事前：用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約（A4、1枚）		講義	
2	貧困の経済地理学：発展途上国の地理的分布 主に先進国は北半球に発展途上国の多くが南半球に位置していることから、この経済格差を「南北問題」と呼ぶことがある。 どこに貧困があるかを地理的に提示する。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	国連開発計画委員会による後開発途上国 <sup>1)</sup> 1：アフリカ アンゴラ（2021年に卒業予定）、ベナン、ブルキナファソ、ブルンジ、中央アフリカ、チャド、コモロ、コンゴ民主共和国、ジブチ、エリトリア、エチオピア、ガンビア、ギニア、ギニアビサウ、レソト、リベリア、マダガスカル、マラウイ、マリ、モーリタニア、モザンビーク、ニジェール、ルワンダ、サントメ・プリンシペ（2024年に卒業予定）、セネガル、シエラレオネ、ソマリア、南スーダン、スーダン、トーゴ、ウガンダ、タンザニア、ザンビア（以上からいくつか取り上げる。）					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	国連開発計画委員会による後開発途上国 2：アジア アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン（2023年に卒業予定）、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ネパール、イエメン、東ティモール（以上からいくつか取り上げる。）					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	国連開発計画委員会による後開発途上国 3：大洋州 キリバス、ソロモン諸島（2024年に卒業予定）、ツバル					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	世界銀行経済グループ分類 4：中南米 ハイチ					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	工業：途上国の工業化による経済成長 (1) 従属理論 (2) 多国籍企業					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	農業：飢餓をゼロに (1) 「緑の革命」 (2) 様々な支援策					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	エネルギー：電力 (1) 三つのL (Low Cost, Low Carbon, Low Risk) (2) エネルギー・アクセスの向上					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	投資：社会貢献型金融商品 (1) グリーン・ボンド、マイクロファイナンス、ワクチン債 (2) 途上国への直接投資					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	情報ネットワーク： (1) デジタル・デバイド (2) 政治問題としてのネットワーク化					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	貿易にみる途上国との関係：高まる途上国依存 (1) わが国の産業を支える発展途上国 (2) わが国のエネルギーを支える発展途上国					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	

1) 外務省 HP ([https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ohrlls/ldc\\_teigi.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/ohrlls/ldc_teigi.html))

13	日本企業の途上国への進出事例1：TOWA JAPANグループ 1995年ベトナムに、2003年中国上海に進出。	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
14	日本企業の途上国への進出事例2：スズキ自動車 1981年インドに進出。シェア38%	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
15	海外進出とODA：JETROとJICA わが国の海外進出支援組織	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
教本： なし。（適宜、資料を配布します。）		参考文献： 随時情報源を提示します。 DVD映画『ホテル・ルワンダ』2004	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にします。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」（記述形式）を守ってもらいます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 関 係 論 I (International Relations I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	世 界 史、日 本 史 の 基 礎 的 な 知 識 が 必 要 で す。							
授 業 概 要： 国際関係論の入門を身近な素材を使いながら進めます。国際情勢を理解することから始め、国際関係の基本概念を学んでいきます。そして現実主義や自由主義の国際関係論のパースペクティブから国際関係を見る訓練を行います。									
授 業 目 標： 1. 国際関係の諸問題への関心を高める。 2. 国際関係論のパースペクティブである現実主義と自由主義の概略を知る。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：国際関係論はどのようなことを学ぶのか、なぜ生まれたのかを中心にお話します。					事前：特になし 事後：配布物精読		講義（対話式を講義の半分に採用）	
2	日本の周りの国際情勢①：日本の周りの国際関係の変化に関し、主として安全保障の面からお話します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
3	日本の周りの国際情勢②：日本の周りの国際関係の変化に関し、主として国際政治経済の面からお話します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
4	国家と国際システム：国家と国際システムという国際関係論の枠組みについて学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
5	ウェストファリア体制：ウェストファリア体制とは何か、その意味と由来について考えます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
6	グローバル政治とポスト・ウェストファリア体制：ウェストファリア体制の揺らぎと今日の変化について考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
7	ミニ・テスト ① 前半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テスト 解説	
8	現実主義のパースペクティブ①：現実主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
9	現実主義のパースペクティブ②：現実主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
10	現実主義のパースペクティブ③：現実主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
11	自由主義のパースペクティブ①：自由主義の思想家の考え方を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
12	自由主義のパースペクティブ②：自由主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
13	自由主義のパースペクティブ③：自由主義の理論のポイントを考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
14	ミニ・テスト②：後半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テスト 解説	
15	国際関係の諸課題をどう見るか：国際関係を見るために我々が持つべき視点を整理します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義45分 対話式45分	
教 本： 毎回ハンドアウト（配布資料）に従って進めます。					参 考 文 献： 各回の講義の中で必要に応じお知らせします。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準：到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (40%)、定 期 試 験 (10%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス： 国際関係論はこれからの時代にとっても重要なものです。講義の効果を上げるためには、普段からテレビ、新聞、ネットでの国際関係に関するニュースに気に留めておくことが大事です。									
オ フ ィ ス ア ワ ー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 関 係 論 II (International Relations II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	で 可 能 ば 国 際 関 係 論 I を 履 修 済 だ る こ と。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>経 営 や 国 際 経 済 の 背 景 に 考 え る べ き 「 国 際 政 治 経 済 」 分 野 に 焦 点 を 当 て 、 国 際 関 係 論 を 基 礎 か ら 学 び ま す 。 最 近 の 国 際 政 治 経 済 に お け る 重 要 な 事 例 を 使 い な が ら 、 そ の 背 景 の 解 説 と 皆 さ ん と の や り 取 り を 通 じ 、 今 の 国 際 関 係 の 姿 を 明 ら か に し て い き ま す 。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 国 際 関 係 論 の 国 際 政 治 経 済 分 野 を 体 系 的 に 学 習 す る 。 2. 国 際 関 係 の 問 題 を 「 知 る 」 に 留 ま ら ず 、 ど の よ う に 「 解 決 す べ き か 」 と い う 点 か ら 考 え る 。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン : 講 義 全 体 の 流 れ と 、 国 際 関 係 論 の 諸 分 野 の 概 略 と 、 そ の 経 営 学 、 経 済 学 と の 関 係 を お 話 し し ま す 。					事 前 : 特 に な し 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 ( 対 話 式 を 講 義 の 半 分 に 採 用 )	
2	国 際 政 治 と 国 際 経 済 ① : 国 際 経 済 の 背 景 に あ る 国 際 政 治 に 関 し 、 第 一 次 世 界 大 戦 前 か ら 第 二 次 世 界 大 戦 後 で の 関 係 を 中 心 に 重 要 な 事 例 を 使 っ て お 話 し し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
3	国 際 政 治 と 国 際 経 済 ② : 政 治 と 市 場 の 関 係 を 、 第 2 回 の 話 を 確 認 し な が ら 整 理 し て い き ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
4	国 際 政 治 経 済 ① : 1929 年 か ら の 世 界 恐 慌 と そ の 後 の ブ ロ ッ ク 経 済 に つ い て 、 国 際 政 治 と 国 際 経 済 の 関 係 か ら 概 略 し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
5	国 際 政 治 経 済 ② : 第 二 次 世 界 大 戦 後 の プ レ ト ン = ウ ヅ 体 制 の 成 立 の 背 景 に あ る 国 際 政 治 の 動 き を 見 て い き ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
6	国 際 政 治 経 済 ③ : 1970 年 代 の ニ ッ ソ ン ・ シ ョ ッ ク と そ の 後 の 変 動 相 場 制 、 ま た 日 本 の 台 頭 を 、 国 際 政 治 で の 力 の 変 化 と 国 際 経 済 の 関 係 か ら 見 て い き ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
7	国 際 政 治 経 済 ④ : 1980 年 代 か ら 現 在 に 至 る 日 本 の 力 の 衰 退 と 、 米 中 2 極 化 へ の 変 化 を 国 際 政 治 と 国 際 経 済 の 関 係 か ら 概 略 し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
8	ミ ニ テ ス ト ① : 前 半 の ま と め の テ ス ト を し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		テ ス ト と 解 説	
9	覇 権 安 定 論 と 国 際 レ ジ ム 論 ① : 国 際 政 治 の で の パ ワ ー と 国 際 経 済 シ ス テ ム の 関 係 に つ き 、 2 つ の 重 要 な 理 論 を 学 び ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
10	覇 権 安 定 論 と 国 際 レ ジ ム 論 ② : 国 際 政 治 の で の パ ワ ー と 国 際 経 済 シ ス テ ム の 関 係 に つ き 、 2 つ の 重 要 な 理 論 を 学 び ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
11	2 国 間 主 義 と 多 国 間 主 義 : 世 界 の 自 由 貿 易 体 制 の 構 築 へ の 2 つ の 考 え 方 を 比 較 し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
12	EU : ヨ ー ロ ッ パ の 経 済 統 合 の 形 で あ る EU の 歴 史 と 現 状 を 学 び ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
13	ア ジ ア 太 平 洋 ・ イ ン ド 太 平 洋 で の 経 済 統 合 (APEC、RCEP) : 日 本 の 周 り の 経 済 統 合 と し て 、 APEC の 歴 史 を 追 い な が ら 、 そ の 産 物 で あ る RCEP、TPP に つ い て 学 び ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
14	ミ ニ テ ス ト ② : 後 半 の ま と め の テ ス ト を し ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		テ ス ト と 解 説	
15	ま と め : 学 習 し た 内 容 を 踏 ま え 、 グ ロ ー バ ル 化 し た 国 際 関 係 の 中 で の 経 営 を 考 え て み ま す 。					事 前 : 指 定 教 材 学 習 事 後 : 配 布 物 精 読		講 義 50 分 、 デ ィ ス カ ッ シ ョ ン 40 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎 回 ハ ン ド ア ウ ト を 配 布 し ま す 。					毎 回 ハ ン ド ア ウ ト を 配 布 し ま す 。				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 参 加 状 況 等 ( 50% ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 10% ) 、 定 期 試 験 ( 40% ) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
国 際 関 係 論 I を 更 に 深 め ま す 。 日 本 の 周 り の 国 際 環 境 は 大 き く 変 わ ろ う と し て い ま す 。 こ の 講 義 は 国 際 関 係 を 考 え る た め の 視 点 を 養 う こ と に 力 点 を 置 い て い ま す 。 自 ら 考 え て い く こ と が 将 来 の 皆 さ ん に 重 要 な こ と で す 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際観光論 I (International Tourism I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際観光（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際観光の促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論 I では、国際観光とは何か、国際観光の意義、世界および日本における国際観光の現状、観光・マーケティング、日本の国際観光政策など、国際観光についての基礎を学ぶ。									
授業目標： 1. 国際観光（国際観光）の意義と世界における現状を理解すること 2. 日本における国際観光の現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	第1章 ツーリズム（観光）とは何か：ツーリズムの定義、ツーリズムの形態、ツーリズムの構成要素、ツーリズム研究の方法等、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	第2章 国際観光の意義：経済効果と雇用促進、相互理解の増進による世界平和への貢献、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	第3章 世界の国際観光の動向と変遷：世界の国際観光の変遷					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	第3章 世界の国際観光の動向と変遷：世界の国際観光の動向（国際旅行客数と国際観光収入・支出）、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	第4章 日本の国際観光の動向と変遷：訪日外国人旅行（変遷、現状）					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	第4章 日本の国際観光の動向と変遷：訪日外国人旅行（現状）、日本人海外旅行、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	第5章 ツーリズム・マーケティング：デスティネーション・マーケティングとは、魅力あるデスティネーションづくり					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	第5章 ツーリズム・マーケティング：効果的な宣伝、ターゲット・マーケットの選定、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本の国際観光政策					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本の国際観光政策、ビジット・ジャパン事業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	第6章 日本の国際観光政策と日本政府観光局：日本政府観光局、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ：第1章～6章全体を振り返り、重要なポイントを説明					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 世界の他の国々と同様に日本においても国際観光はますます重要な産業となってきた。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際観光論Ⅱ (International Tourism Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	国際観光論Ⅰを修得していること							
	その他	なし							
授業概要： 国際観光（国際観光）には、経済効果・雇用促進効果と国際相互理解（ひいては世界平和）への貢献という大きな意義があり、各国が国際観光の促進に力を入れている。日本も例外ではない。国際観光論Ⅱでは、主要訪日旅行マーケットの現状、国際会議誘致、地方における国際観光への取り組み、観光産業における国際観光など、国際観光に関する具体的かつ詳細な内容について学び、日本の国際観光を発展させるためにどのようなことができるかを考える。									
授業目標： 1. 訪日旅行マーケット、国際会議等、地方の取り組み、観光産業での国際観光、国際観光と環境を理解すること 2. 日本にとっての国際観光の重要性を認識し、日本の国際観光を発展させるためにはどうしたらよいかを考えること									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：韓国・台湾マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：中国・香港マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：タイ・シンガポール・豪州マーケット					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	第1章 主要訪日旅行マーケットの規模と特性：米国・カナダ・英国・フランス・ドイツマーケット、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	第2章 国際会議・インセンティブトラベル（報奨旅行）：MICEの意義、世界における国際会議、日本における国際会議					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	第2章 国際会議・インセンティブトラベル（報奨旅行）：インセンティブトラベル（報奨旅行）、MICEの誘致、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	第3章 地方における国際観光に対する取り組み、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	第4章 国際観光と交通産業・宿泊業・旅行業：交通産業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	第4章 国際観光と交通産業・宿泊業・旅行業：宿泊業					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	第4章 国際観光と交通産業・宿泊業・旅行業：旅行業、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	第5章 観光調査：観光調査とは、観光調査のプロセス、観光調査の方法、日本の観光調査統計、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	第6章 国際観光と環境：エコ観光、持続可能な発展のための実践の現状、日本の取り組み、まとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ：第1章～6章全体を振り返り、重要なポイントを説明					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。必要に応じプリントを配布する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（30%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 世界の他の国々と同様に日本においても国際観光はますます重要な産業となってきた。学生諸君も日本の国際観光の発展のために何ができるかを考えてみよう。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国際経営論 I (International Management I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐久間 信夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	特になし							
	そ の 他								
<p>授業概要：</p> <p>今日、日本では中小企業にいたるまで、国際化が進展している。企業の国際的な取引はもちろん、人材の国際化により、外国人労働者も増加している。社会生活を営むうえでも国際経営の知識は不可欠になっている。</p>									
<p>授業目標：</p> <p>(1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。</p> <p>(2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。</p>									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTDやディスカッションについても説明する。					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	国際経営の主要理論 フェアウェザーの国際経営の枠組み ダニングの折衷理論					事前：国際経営の次元 事後：EPRGをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	グローバル組織の発展過程 国際事業部 グローバルな事業部 グローバルなマトリックス組織					事前：国際事業部の下読み 事後：地域統括会社をまとめる		講義 90分	
4	国際経営とグローバル人材の育成 国際人的資源管理とグローバル人材の育成 日本企業におけるグローバル人材育成					事前：国際経営環境の変化 事後：グローバル人事制度		講義 90分	
5	経営管理手法の国際移転 日本企業のグローバル化と生産システム 海外拠点の管理手法					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	国際経営の立地展開と多国籍化 メコン地域における拠点立地環境 生産分業に関わる陸上交通網					事前：メコン地域の下読み 事後：消費の拡大のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	グローバル・マーケティング戦略 グローバル・マーケティング戦略の枠組み マーケティング・マネジメント					事前：OEMについて下読み 事後：内部化理論をまとめる		講義 90分	
8	グローバル・アライアンス戦略 アライアンスの種類と目的 内部化理論とグローバル・アライアンス					事前：アライアンスの下読み 事後：内部化理論をまとめる		講義 45分、LTD 45分	
9	グローバルM&A戦略 成長戦略としてのクロスボーダーM&A 日本電産のM&A戦略					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
10	EUの深化と国際経営 EU統合の歴史 EUの危機とドイツの躍進					事前：東方拡大の下読み 事後：ブレグジットをまとめる		講義 90分	
11	NAFTAにおける経済政策の変化と国際経営 NAFTAの創設とその内容 NAFTAの発展と国際分業					事前：NAFTAの下読み 事後：NAFTA再交渉		講義 90分	
12	アジアをつなぐAECと国際経営 ASEANの成立からAEC設立へ					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
13	RCEPとインドの役割 ASEANの発展とRCEPの創設 AFTAとAFTAプラス					事前：RCEPを下読み 事後：AFTAプラスをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
14	異文化マネジメント 国際経営と文化 組織における異文化マネジメント					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
15	多国籍企業のCSR戦略 CSR戦略 CSRの歴史的展開と新パラダイム					事前：国際機関の指針を下読み 事後：企業の事例をまとめる		LTD 90分	
教本： 佐久間信夫編著『現代国際経営要論』創成社					参考文献： 佐久間信夫責任編集『現代経営用語の基礎知識』学文社				
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（70%）等で総合評価する。</p>									
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>企業も市民の生活もグローバル化する中で、仕事や働き方がこれからどう変わっていくのか考えて行きましょう。</p>									
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 営 論 II (International Management II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	佐 久 間 信 夫								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
市民の活動や企業の活動はグローバル化が進んでいる。国際化する社会で活動するためには国際経営についての知識が必要である。本講義では、国際経営についての基礎的な知識と理論および身近な事例について学習する。									
授 業 目 標 :									
(1) 学生が、国際経営を多国籍企業論との関係から体系的に把握し、これらに関する理論や学説などについて説明できる。									
(2) 学生が、特定のケースに適した経営戦略のあり方はいかなるものであるかを考えることができる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	ガイダンス 授業の進め方、到達目標、成績評価基準などについて説明する。企業の事例を取り上げながら解説する。LTDとディスカッションについても説明する。					事前：テキストの確認 事後：講義計画の確認		講義 90分	
2	多国籍企業概念と多国籍企業発展モデル① EPRG プロファイル ストップフォード=ウェルズのモデル					事前：EPRGを下読み 事後：発展モデルをまとめる		講義 45分、LTD 45分	
3	多国籍企業概念と多国籍企業発展モデル② 集権化、分権化、プロダクト・ライフ・サイクル					事前：PLC理論の下読み 事後：集権化をまとめる		講義 90分	
4	多国籍企業の理論的発展過程① 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト					事前：産業組織論的アプローチ 事後：取引コストをまとめる		講義 90分	
5	多国籍企業の理論的発展過程② 産業組織論的アプローチ、内部化理論、市場の不完全性、取引コスト					事前：プレゼンの準備 事後：プレゼンのまとめ		プレゼンテーション 90分	
6	多国籍企業と海外直接投資の歴史と現状 海外直接投資、資源開発型の海外直接投資、市場志向型の海外直接投資					事前：歴史と現状の下読み 事後：海外直接投資のまとめ		講義 45分、LTD 45分	
7	多国籍企業の集権化と分権化 本社機能と地域統括会社分化ネットワーク、地域統括会社					事前：地域統括会社の下読み 事後：分化ネットワーク		講義 90分	
8	多国籍企業と所有政策 非持分形態型進出、華人資本、商社参加型合弁					事前：所有政策の下読み 事後：非持分形態型進出		講義 45分、LTD 45分	
9	多国籍企業の研究開発戦略 基礎研究、応用研究、開発研究、研究開発の分散と集中、研究者のマネジメント					事前：研究開発戦略 事後：研究者のマネジメント		プレゼンテーション 90分	
10	多国籍企業のロジスティックス戦略 QR、ECR、貨物追跡システム、集荷指令システム					事前：QR、ECRの下読み 事後：ロジスティックス戦略		講義 90分	
11	多国籍企業と企業倫理 企業倫理、倫理相対主義、企業倫理の制度化					事前：企業倫理の制度化 事後：倫理相対主義をまとめる		講義 90分	
12	EU 統合と多国籍企業の活動① EU 統合の歴史 欧州石炭鉄鋼共同体 EEC 通貨統合					事前：統合の歴史を下読み 事後：通貨統合をまとめる		プレゼンテーション 90分	
13	EU 統合と多国籍企業の活動② EU 統合、M&A 全型式認定、GSM 統一規格、公正さと調和の原則					事前：M&Aを下読み 事後：公正さと調和の原則		講義 45分、LTD 45分	
14	NAFTA と多国籍企業の活動 NAFTA、米加自由貿易協定、原産地規則、米州自由貿易圏					事前：NAFTAを下読み 事後：FTAについてまとめる		プレゼンテーション 90分	
15	NAFTA と多国籍企業の活動 アセアン (ASEAN)、産業集積 メコン経済圏 経済特区 東西経済回廊					事前：東西経済回廊を下読み 事後：AECをまとめる		LTD 90分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
佐久間信夫編著『現代の多国籍企業論』学文社					佐久間信夫責任編集『現代経営用語の基礎知識』学文社				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 参 加 状 況 等 (20%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (70%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 企 業 活 動 が グ ロ ー バ ル 化 を 進 め る 中 で、日 本 企 業 の 果 た す 役 割 の 変 化 に つ い て 学 ん で い き ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 経 済 論 I (International Economics I)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	宮 崎 隆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
マクロ経済学は消費や投資、経済政策などの相互関係を学びますが、これに貿易が加わった国際経済学はさらに多くの経済変数の相互依存関係を考えなければなりません。古くは国家間のモノの貿易だけでしたが、現在はサービス貿易の比率も上がり、円滑な取引を求めよりよい制度を模索しています。本科目は歴史と制度、理論の3分野を講義します。									
授 業 目 標 :									
メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	ガイダンス： (1) 講義の進め方と情報収集法の説明。 (2) 経済学体系の概説と国際経済学のカテゴリライズ。					事前：経済用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約 (A4, 1枚)		講義	
2	世界の中の日本経済：“Japan as No.1” わが国は高度経済成長を経て戦後23年でアメリカに次ぐGNP世界第二位まで成長する。この過程と要因とを解説する。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	ブレトンウッズ体制：国際通貨基金 (IMF) と世界銀行、GATT、戦後の体制づくりとそのシステム。金本位制。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	固定相場制から変動相場制へ：ニクソン・ショック かつて日本の円は360円/ドルであった。それが米大統領R.ニクソンの「金とドルの兌換停止」宣言で世界経済は大混乱に陥った。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	為替レートの決定：為替リスクとは何か 円/ドル・レートは日々変動する。その理由と影響を説明する。 (1) 購買力平価説 (2) ファンダメンタルズ					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	国際収支とマクロ経済：「双子の赤字」とレーガノミクス 米大統領R.レーガンの経済政策により、アメリカ経済は好転する。 (1) アメリカ経済と国際関係 (2) 国際協調					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	国際貿易の内訳：モノとサービス 近年はサービス収支(輸送や旅行、金融、特許権・著作権の使用量等)が増大している。その背景と動向を概説する。 (1) 世界と日本の経常収支 (2) Jカーブ効果					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	開放下の経済政策：マンデル・フレミング・モデル 閉鎖経済を前提としたケインズ・モデルを開放経済で拡張。財政政策と金融政策はどう変わるか。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	貿易の基礎理論：なぜ貿易するのか。 D.リカードによる比較優位論(1817)はその後の国際経済学の基礎となっている。 (1) 比較優位理論 (2) 要素価格均等化理論					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	わが国の貿易政策：貿易立国と呼ばれているが。 行政が特定産業を誘導することを産業政策とよび日本経済の一つの特徴となっている。国際経済学においてどのような産業政策をとったか。 (1) 幼稚産業保護政策と産業政策 (2) 集中豪雨の輸出					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	貿易問題：品目と交渉の歴史 国際貿易は紛争の歴史でもある。主要な貿易摩擦をあげ、どのように解決してきたかを説明する。 (1) 日米貿易摩擦 (2) 繊維、家電、自動車他					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約 (A4, 1枚)		講義60分とディスカッション15分、発表15分	

12	産業構造調整：貿易が産業に及ぼす影響 わが国の行政の特徴でもある、いわゆる護送船団方式は機能してきたであろうか。 (1) 衰退産業と保護政策 (2) 産業のセットアップ	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
13	世界貿易機関（WTO）について：GATTの後継機関 自由貿易を目的として1995年設立。歴史と設立の背景を解説。	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
14	多国籍企業：複数の国で開発・生産・販売 合理的経営を目的として企業は自国外に経営・生産・販売基盤を求める。 (1) アメリカの多国籍企業 (2) 日本の多国籍企業	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
15	拡大する国際金融市場：バブル景気を契機としたリスク問題 戦後のわが国の経済史の中で、バブル経済は大きな転機となった。 (1) 拡大の経緯 (2) ジャパン・マネーの拡大と衰退	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4, 1枚）	講義60分とディスカッション15分、発表15分
教本： なし。適宜、資料を配布します。		参考文献： なし。関連情報源を随時提示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練にするためです。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんがプレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」（記述形式）を守ってもらいます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際経済論Ⅱ (International Economics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	宮崎 隆								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	国際経済論Ⅰを履修していることが望ましい。							
授業概要： 国際経済論Ⅰは主として国際経済学の制度と歴史、理論について扱いましたが、本講座は当該分野における近年のトピックスを取り上げます。また、国際経済学は国際政治と密接に関連していますので、随時政治問題にもふれます。									
授業目標： メディア経済情報のリテラシーを高めて下さい。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	ガイダンス：講義の進め方と範囲、評価の方法等を説明。予備資料の配布等。					事前：経済用語表を作成しておく。 事後：講義内容の要約（A4、1枚）		講義	
2	世界の主要な経済連携1：ECC、EU マーストリヒト条約に基づいて設立された背景、イギリスの脱退等について概説					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
3	世界の主要な経済連携2：APEC 1989年発足のアジア太平洋経済協力。現在21か国加盟。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
4	世界の主要な経済連携3：ASEAN 1967年発足の東南アジア諸国連合。現在10か国加盟。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
5	世界の主要な経済連携4：TPP 2016年発足の経済連携協定。正式名称は「環太平洋パートナーシップ協定」					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
6	貿易の実態1：アメリカ 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
7	貿易の実態2：中国 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
8	貿易の実態3：欧州 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
9	貿易の実態4：アジア他 輸出・入相手国と貿易統計、特徴を解説。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
10	わが国の貿易1：特徴と動向 繊維から鉄鋼、船舶、家電、自動車他、いわゆる重厚長大から軽薄短小までの変遷。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
11	わが国の貿易2：特徴と動向 サービス貿易の実態と動向。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
12	エネルギー問題：原油と天然ガス他 地球温暖化問題から原油需要は低下しつつある。次世代エネルギーの電力をつくるために貿易構造も変化せざるを得ない。 経済成長とエネルギー消費の推移。発電とエネルギー問題。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
13	自動車の大変革と国際経済：電気自動車 2030年から世界的に自動車が現行のレシプロ・エンジン方式からモーター駆動にかわる。これが世界経済をどうかえるか。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	
14	暗号資産（仮想通貨）問題：インターネット利用の通貨 仮想通貨は果たして貨幣だろうか。貨幣的経済学から仮想通貨を考える。					事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容の要約（A4、1枚）		講義60分とディスカッション15分、発表15分	

15	インターネットと国際経済：GAFAsの台頭と国際経済 巨大なITサービス企業が世界経済のシステムを変えつつある。	事前：配布資料を精読しておく。 事後：講義・ディスカッション内容 の要約（A4、1枚）	講義60分とディスカ ッション15分、発表 15分
教本： なし。適宜、資料を配布します。		参考文献： なし。関連情報源を随時提示します。	
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 小テスト・レポート等（20%）、定期試験（80%）等で総合評価する。なお、指定のレポートの他に追加の自主レポートの提出を認め、成績に加算します。			
学生へのアドバイス： 数回レポートを提出して戴きます。本講座の理解を深め、経済(学)的に社会をとらえる訓練に するためです。レポート・テーマはまとめやすいように簡潔にしますが、将来皆さんが プレゼンや研究報告に役立つよう「スタイル」（記述形式）を守ってもらいます。			
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。			

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際政治学 I (International Politics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際政治学 I では国民国家の発達とその問題点について講義し、国際政治を考察するための哲学的モデルを提示する。ここでは具体的に近代に起こった戦争を取り上げ、戦争の結果世界秩序がどのように変化したかを授業の中で解明する。									
授業目標： 国際政治学のキーファクターは、アクターとしての国家である。国家は「くに」という形式で有史以来存在し、発展してきた。ここでは国民国家を中心にした国際政治の支配と服従、戦争と平和、そして植民地の歴史的経緯について理解できるように講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	19世紀の国際政治と植民地				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
2	20世紀の国際政治と戦争				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
3	明治維新と国際政治				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
4	日清戦争の原因				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
5	日清戦争の結果				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
6	日露戦争の原因				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
7	日露戦争の結果				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
8	第二次世界大戦と日本				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
9	第二次世界大戦と世界秩序				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
10	朝鮮戦争の原因				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
11	朝鮮戦争の結果				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
12	ベトナム戦争の原因				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
13	ベトナム戦争の結果				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
14	国際政治と政治的秩序				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
15	まとめ				事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
教本： 1. 吉村昭『ポーツマスの旗』新潮文庫、¥552					参考文献： 1. 松岡完『ベトナム戦争』中公新書、¥945				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際政治学 I (International Politics I)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	高橋 敏哉								
履 修 条 件	前提科目	特に限定はしませんが、できるだけ国際関係論 I の履修が済んでいる方が望ましいです。							
	その他								
授業概要： 国際政治学の入門を国際秩序の理論的な枠組みを学びながら行います。19世紀からの国際政治秩序を現代まで追っかけていきます。同時に戦争・平和、安全保障の話の時事的な問題にも触れながら探究していきます。									
授業目標： 1. 国際政治の背景にある秩序の変化を知る。 2. その変化の中で、国際経済・経営の現象を理解し考えることができる素地を作る。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	オリエンテーション：講義の概要や進め方について説明します。					事前：特になし 事後：ハンドアウト復習		講義	
2	18世紀、19世紀の近代ヨーロッパ国際システム：近代ヨーロッパの国際関係秩序を概略します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
3	第一次世界大戦：第一次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
4	ベルサイユの平和：第一次世界大戦後の平和体制であるベルサイユ体制について見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
5	戦間期とイデオリズム：集団的安全保障と戦争の違法化戦間期の理想主義であるイデオリズムを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
6	イデオリズムの陥穽：戦間期のイデオリズムの失敗を、E.H.カーの『危機の20年』に触れながら見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
7	ミニテスト①：前半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
8	第二次世界大戦：第二次世界大戦の原因、経緯、その結果について分析をしていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
9	サンフランシスコの平和と冷戦の始まり：国連等を中心に第二次世界大戦後の国際関係秩序について見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
10	冷戦と東西の熱戦（朝鮮戦争・ベトナム戦争）：冷戦の仕組みと代理戦争であった朝鮮戦争、ベトナム戦争を分析します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
11	冷戦と多極化：中ソ対立、欧州や日本の経済的台頭による国際秩序の変化に触れます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
12	冷戦の終焉：冷戦の終わりはなぜ起きたのか、その変化の原因について学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
13	冷戦後の世界秩序：アメリカ一極体制から、多極化あるいは米中2極と言われる変化を追います。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
14	ミニテスト②：後半のまとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
15	民主主義の危機と国際政治における変化：ポスト・ファクト（事実）あるいはフェイクニュース、偏狭なナショナリズムの高揚と移民排斥の現象の中で、国際政治の秩序はどうなっていくのか、何をすべきか考えてみます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
教本： 資料を配布します。（オンライン配布も検討します）					参考文献： 各回の講義の中でハンドアウトを配ります。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価します。 授業参加状況等（50%）、小テスト・レポート等（10%）、定期試験（40%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 日本の周辺で起きている国際政治を理解し、自分なりの意見を持てるようにするための講義です。少しでも関心を持ってそうでしたら講義に参加してみてください。暗記より考えることを重視した講義になります。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	国際政治学Ⅱ (International Politics Ⅱ)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	伊藤 重行								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 国際政治学Ⅱでは国民国家の発達とその問題点について講義し、国際政治を考察するための哲学的モデルを提示する。特に国際政治学ではウエストファリア講話条約を理解し、それに基づく国民国家の形成について講義する。									
授業目標： 国際政治学のキーファクターは、アクターとしての国家である。国家は「くに」という形式で有史以来存在し、発展してきた。ここでは国民国家を中心にした国際政治の支配と服従、戦争と平和、そして植民地の歴史的経緯について理解できるように講義する。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態	
1	国際政治学入門				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
2	主権と国家				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
3	主権と国民国家				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
4	ウエストファリア講和条約と国民国家				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
5	国民国家と哲学モデル				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
6	システム哲学と国際連合				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
7	モデルー全体、秩序、非還元性				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
8	モデルー自己安定性				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
9	モデルー自己組織性				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
10	モデルー重箱型階層性				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
11	国際政治と自由論				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
12	国際政治と価値論				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
13	システム哲学と地球社会の政治				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
14	地球社会の政治の目標				事前：教科書を読む。 事後：ノートにまとめる。			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
15	まとめ				事前：講義報告の構想 事後：講義報告の提出			10分小論文、20分その解説、 60分講義まとめ	
教本： 1. 伊藤重行『自己安定・自己組織システム』志学社、¥2,000					参考文献： 1. 松岡完『ベトナム戦争』中公新書、¥945				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等（10%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： テキストや参考文献などを購入し、よく読む努力をして欲しい。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	国 際 政 治 学 II (International Politics II)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	高 橋 敏 哉								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に ない が、国 際 政 治 学 I や 国 際 関 係 論 I の 事 前 受 講 が 望 ま し い。							
	そ の 他								
授 業 概 要 :									
<p>日本の経営や経済を深く見ていくには、国際政治での重要な事例での意思決定や日本の外交史の知識も必須です。本講義は国際関係論における意思決定論(外交政策)と日本外交の歴史を概略し、基本的な事例を通じ、意思決定の重要性と限界を見ていきます。</p>									
授 業 目 標 :									
<p>1. 意思決定論の概要と重要な事例の背景を理解する。 2. 戦後日本経済を発展させてきた日本外交の流れを知る。</p>									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション：講義の概略を説明し、意思決定論と外交史の位置づけをします。					事前：特になし 事後：資料熟読		講義	
2	歴史的な意思決定の事例①：キューバ・ミサイル危機の事例をアリソンの3つのモデルとともに紹介します。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
3	歴史的な意思決定の事例②：第1次世界大戦の始まりでの欧州列強諸国の意思決定の問題を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
4	歴史的な意思決定の事例③：真珠湾攻撃への日本の意思決定の問題点を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
5	戦前日本外交の意思決定①：日本の戦前の意思決定モデルにつき学術の議論を紹介し、満州事変の事例を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
6	戦前日本外交の意思決定②：日中事変とノモンハン事件の事例を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
7	戦前日本外交の意思決定③：なぜ太平洋戦争を途中で止められなかったか、日本の意思決定の仕組みの問題を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
8	ミニテスト：前半の復習をします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		テストと解説	
9	戦後日本外交①：戦後の経済中心・軽武装路線である吉田外交を、吉田の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
10	戦後日本外交②：戦後の再武装・独自外交路線である鳩山外交を鳩山の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
11	戦後日本外交③：戦後の再武装・独自外交路線である岸外交を岸の戦前・戦中のキャリアとともに見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
12	高度経済成長と日本外交：高度経済成長を支えた戦後日本の外交路線を見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
13	アジア太平洋での日本のリーダーシップと多国間主義外交：戦後日本の新たなアジア太平洋外交の流れを見ていきます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
14	米中対立の中の日本外交：米中対立の流れ、その本質、今後の展開につき視点を学びます。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
15	まとめ：全体の総まとめをします。					事前：指定教材学習 事後：配布物精読		講義60分 ディスカッション30分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
毎回ハンドアウト(配布資料)に従って進めます。					講義の中で必要に応じ紹介します。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授 業 参 加 状 況 等 (50%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (10%)、定 期 試 験 (40%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
<p>国際関係論より覚える知識を増やしている講義ですが、力点は単なる暗記より考える部分に置いています。ここで学ぶ知識は将来必ず役に立つものから、是非、頑張って受講してみましょう。</p>									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	古 典 文 学 研 究 A (散 文) (Classical Literature Research A (Prose))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞆								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
物語の発生からその展開について解説する。特に古代以来の言語伝承である神話、伝説等を理解する。長編物語と短編物語、男性の物語と女性の物語の比較、また日記文学や随筆について講義・演習を通じて古典文学を深く理解する。講義のほか、学生の研究発表の形式を採る。									
授 業 目 標 :									
1. 日本の古典文学(散文)について、時代別、ジャンル別・作品別にその特質を理解する。古典の形態や表現の特徴を理解し、理解に必要な方法や知識を習得する。古典の生成と展開を把握し、その全体像を理解する。古典の発生と歴史を作者や作品に即して理解する。									
2. 古典の理念と変遷を理解する。古典の背景としての歴史・環境・風土を理解する。古典の各分野(物語・和歌・随筆・日記等)の展開や価値を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 文 学 の 発 生、「古 事 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	「日 本 書 紀」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	「風 土 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	「日 本 靈 異 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	「竹 取 物 語」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	「伊 勢 物 語」を 読 む					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	「源 氏 物 語」を 読 む 1 (概 論、成 立、作 者 紫 式 部、男 源 氏、女 源 氏)					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	「源 氏 物 語」を 読 む 2 (桐 壺 卷)					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	「平 家 物 語」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	「大 鏡」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	「土 佐 日 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	「更 級 日 記」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	「枕 草 子」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	「方 丈 記」「徒 然 草」を 読 む。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	散 文 文 学 の ま と め を 行 う。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
授 業 時 に プ リ ン ト を 配 布。					1. 『日本の原点』石上七鞆著 マイナビ新書 ¥872 2. 『日本文学史の基礎知識』秋山虔ほか著 有斐閣ブックス ¥2,520				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 小 テ ス ト (15%)、授 業 へ の 参 加 度 (25%)、試 験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と。欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す。最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 水 曜 日 昼 休 み。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	古 典 文 学 研 究 B (韻 文) (Classical Literature Research B (Verses))						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	石 上 七 鞘								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
詩 歌 の 発 生 や 作 品 に 見 ら れ る 文 学 歌 謡 を 理 解 す る 。 講 義 の ほ か 、 学 生 に よ る テ ー マ 発 表 を 行 う 。									
授 業 目 標 :									
1. 日 本 の 文 学 史 に つ い て 、 時 代 や ジ ャ ン ル 別 ・ 作 品 別 理 念 と そ の 特 質 を 理 解 す る 。									
2. 古 典 文 学 の 形 態 や 表 現 の 特 徴 を 理 解 し 、 理 解 に 必 要 な 応 報 や 知 識 を 習 得 す る 。 古 典 文 学 の 生 成 と 展 開 を 把 握 し 、 そ の 全 体 像 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 発 生 と 歴 史 を 作 者 や 作 品 に 即 して 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 理 念 と 変 遷 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 背 景 と し て の 歴 史 ・ 環 境 ・ 風 土 を 理 解 す る 。 古 典 文 学 の 各 分 野 (物 語 ・ 和 歌 ・ 随 筆 ・ 日 記 等) の 展 開 や 価 値 を 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	日 本 文 学 の 発 生 、 「古 事 記」 歌 謡 を 読 む 。 神 話 と 歌 話 に つ い て 考 え る 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
2	「日 本 書 紀」 歌 謡 を 読 む 。 郷 土 を 探 る 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
3	「風 土 記」 歌 謡 を 読 む 。 土 地 柄 を 知 る 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
4	「万 葉 集」 を 読 む 1 (概 論 、 成 立 、 編 者 、 部 立 、 万 葉 仮 名) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
5	「万 葉 集」 を 読 む 2 (卷 一 、 卷 二 、 卷 十 四 、 卷 十 六) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
6	第 6 回 : 「古 今 和 歌 集」 を 読 む 。 時 代 性 を 知 る 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
7	第 7 回 : 「新 古 今 和 歌 集」 を 読 む 。 時 代 性 を 知 る 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
8	第 8 回 : 「百 人 一 首」 を 読 む 1 ((概 論 、 成 立 、 編 者) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
9	第 9 回 : 「百 人 一 首」 を 読 む 2 (天 智 天 皇 、 持 統 天 皇 他) 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
10	第 10 回 : 「梁 塵 秘 抄」 を 読 む 。 民 衆 の 気 持 ち を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
11	第 11 回 : 「閑 吟 集」 を 読 む 。 民 衆 の 気 持 ち を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
12	第 12 回 : 「奥 の 細 道」 を 読 む 。 江 戸 時 代 の 人 々 の 心 を 読 む 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
13	第 13 回 : 学 生 の 発 表 ①					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
14	第 14 回 : 学 生 の 発 表 ②					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義 と 演 習	
15	第 15 回 : 韻 文 文 学 の ま と め を 行 う 。					事 前 : 指 定 資 料 の 予 習 事 後 : 授 業 の 復 習		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
な し 、 プ リ ン ト 配 付 。					1. 『日 本 古 典 文 学 史 の 基 礎 知 識』 秋 山 虔 ほ か 著 、 有 斐 閣 ブ ッ ク ス 、 ¥ 2,520 2. 『日 本 の 原 点』 石 上 七 鞘 著 マ イ ナ ビ 新 書 ¥ 830 + 税 3. 『日 本 古 典 文 学 大 系』 岩 波 新 書 『日 本 古 典 文 学 全 集』 小 学 館				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
小 テ ス ト (15%)、 授 業 内 容 へ の 参 加 度 (25%)、 試 験 (60%)									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
予 習 ・ 復 習 を 行 う こ と 。 欠 席 を し な い こ と が 大 前 提 と な り ま す 。 最 後 ま で 取 り 組 み ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
水 曜 日 昼 休 み 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	言葉で遊ぶ(言語表現)(Play with Words (Expression in Language))						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	古金 悦子									
履 修 条 件	前提科目	保育内容(言葉)								
	その他	なし								
授業概要： 乳幼児期の言語発達の道筋や特徴などについて学び、子どもの「言葉」を育てるための「言葉遊びや」言語表現を用いた様々な教材を体系的に理解する。保育者として表現技術指導の基礎的知識を身に付け、実際に活用するための基礎力を要請する。入門的言語表現教材の開発の理論と知識を学ぶ。										
授業目標： 乳幼児の言葉の獲得や発達の過程を知り、保育者として感性を豊かにすると共に、言語表現に関する教材や児童文化財の活用のための理論を理解し、指導力と実践力を身に付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標(最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画(詳細に記入)					事前・事後学習(学習課題)		授業形態		
1	ガイダンス 授業の進め方、概要、受講上の注意など					事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
2	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 言葉のリズムを楽しむわらべ歌の様々な遊び方を工夫する					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
3	乳児の言葉の発達と「言葉遊び」 話し言葉・書き言葉を育てる言葉遊びを知り、経験する					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
4	絵本と紙芝居 それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
5	パネルシアター ① パネルシアターの仕組みや活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
6	パネルシアター ② パネルシアターの作り方を学び、実践できるようにする					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 10分、 作品制作 80分		
7	パネルシアター ③ 教材としてのパネルシアターの扱い方を身につける					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 20分、 作品発表70分		
8	様々な児童文化財を知る ① それぞれの特質を知り、活用の仕方を考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
9	様々な児童文化財を知る ② かるたについて学ぶ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 グループワーク60分		
10	素話の技術を身につけ。実践する① 言語表現の実際を知り、指導について考える					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
11	素話の技術を身につけ。実践する②					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分		
12	素話の技術を身につけ。実践する③					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分		
13	素話の技術を身につけ。実践する④					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分		
14	素話の技術を身につけ。実践する⑤					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 30分、 発表 60分		
15	学修のまとめ					事前：前時の復習 事後：授業内容の確認と復習		講義 60分、 グループワーク 30分		
教本： 必要に応じて資料を配付します。					参考文献： 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園要領					
成績評価の方法、評価基準： 授業内発表等(50%)、小テスト・レポート等(30%)、作成教材(20%)等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 積極的に参加することで実践力を身に付けて下さい。子ども学科の学生は途中、幼稚園実習が入りますので、他の回は休まないようにして下さい。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	子ども教育原理 (Principles of Childhood Education)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大沢 裕									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<p>授業概要：</p> <p>教育の理念と意味、教育思想の歴史の変遷（我が国と欧米の場合）、教育の目的・内容・方法の関連、教育制度・法規の実際、生涯学習社会における教育のあり方、現代の教育の喫緊の課題などを、特に幼児の教育に視点を合わせて理解させる。この過程を通して、教育に関する基礎的・基本的概念の習得をさせ、教育活動における実践原理の体系的な理解を促す。教育現場との関連性を意識しながら教授する。授業形態は、講義の他に、グループ討論と発表、VTR視聴とその検討を含む。</p>										
<p>授業目標：</p> <p>子どもの教育の意義、理念について理解し、教育の思想と歴史の変遷について学び、子ども教育の基礎的理論を理解する。子どもの教育の制度・法規について理解する。教育実践の様々なあり方を知る。生涯学習社会の教育の現状と課題について認識する。</p>										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
○			◎							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	子どもの教育の本質と意義					事前：教育の記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
2	教育の目的・理念					事前：望ましい人間像を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
3	家庭教育（家族の教育）					事前：家庭で受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す		VTR 視聴 45分、 グループ討論 45分		
4	学校教育					事前：家庭と学校の違いを考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
5	社会教育					事前：地域の行事を考える 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
6	諸外国の子どもの教育思想と歴史（古代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
7	諸外国の子どもの教育思想と歴史（中世とルネッサンス期）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
8	諸外国の子どもの教育思想と歴史（近代）					事前：世界史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
9	我が国の子どもの教育思想と歴史					事前：日本史を復習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
10	子どもの人権教育					事前：人権に関する新聞記事を読む 事後：討論の結果を振り返る		グループ討論 60分 発表 30分		
11	近代の教育制度・教育法規の基礎					事前：教育法規を調べておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
12	子どもの教育の内容					事前：望ましい経験について考えておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
13	子どもの教育の方法					事前：教育方法について事前学習する 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
14	子どもの教育実践の様々な取り組み					事前：PCで世界の教育を調べてみる 事後：討論の結果を振り返る		VTR 視聴 45分、 グループ討論 45分		
15	生涯学習と現代の教育課題					事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：		グループ討論 45分 講義 45分		
<p>教本：なし</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』（最新版） 『教育の知恵 60』（大沢裕編著、一藝社）</p>					<p>参考文献：</p> <p>適宜、授業時に指示する。</p>					
<p>成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。</p> <p>幼児教育者として必須の、子どもの教育に関わる基礎的事項が理解でき、教育的なものの方・考え方が身についているかを討論の発表内容、複数回提出させるレポートの内容、筆記試験によって総合的に評価する。</p>										
<p>学生へのアドバイス：</p> <p>教育の時事問題に関心を持つこと。</p>										
<p>オフィスアワー：</p> <p>初回講義日に伝える。</p>										

開 講 年 次	3 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 社 会 学 (Sociology of Child Education)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	深 谷 野 亜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 : この授業では、現代の公教育を支える社会構造を理解した上で、学生一人一人が主体的に考え、答えを導き出す姿勢を身につけることを促していく。授業ではグループディスカッションやプレゼンテーションを多用し、参加型の授業を目指していきたい。									
授 業 目 標 : 教育がどのような制度／法律下でこどもの教育に携わるのかを理解し、各自が自らの見識を持てるようにすることを目的としている。具体的には以下の5つを目標とする。①学校教育に与える社会の影響を理解する②制度や法律と学校教育のかかりについて理解する③学校改善のための取組について理解する④地域と学校の連携の重要性を理解する⑤安心・安全な学校作りへの取組を理解する。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ◎ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	社会変化と学校 情報化を取り上げながら、社会変化が学校教育にどう影響を与えているかを考えていきます。					事前：なし 事後：次回の配布資料を読む		講義 70分・ ディスカッション 20分	
2	家族変化と学校： 少子化が子どもの成長・教育に対してどういう影響を与えているかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
3	公教育の原理について考える 公教育としての学校について、日本の学校の特徴や学校教育における公共性の問題を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
4	日本の教育制度とは何か： 明治以降の教育制度の変遷をたどりながら、制度と教育の関連について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 70分・ グループワーク 20分	
5	諸外国の教育改革と課題を考える： 諸外国の教育改革を理解し、その上で日本の教育改革の現状と課題を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
6	教育政策と教育行政： 教育政策や教育行政の原理を理解し、課題と改善策を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 70分・ グループワーク 20分	
7	日本国憲法と教育基本法 日本国憲法と教育基本法の関係を理解すると共に、教育基本法がどう改正されたかを考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 80分・ グループワーク 10分	
8	学校教育法と関連法規 学校に関連するさまざまな関連法規について理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
9	学級経営とは何か 生徒たちが主体的に学習する組織にするために、学級経営の在り方について考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
10	教育評価と学級経営 学級経営を評価し、次年度以降の改善にどうつなげているのか、その方法を理解していきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
11	評価というシステムーPDCA サイクルを理解するー PDCA サイクルを理解し、自ら実践できるようにします。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 20分・ グループワーク 50分・ 発表 20分	
12	チームとしての学校という視点 中教審答申を中心に、チームとしての学校という視点を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ グループワーク 30分	
13	開かれた学校Ⅰ（地域の教育力の活用） 学校・家庭・地域社会の連携の在り方を理解します。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
14	開かれた学校Ⅱ（学校評議委員・学社連携の模索） 地域から信頼できる学校作りのための実践例を学習し、課題について考えます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		講義 60分・ ディスカッション 20分・ 発表 10分	
15	開かれた学校と安心・安全な学校作り 「開かれた学校」と生徒にとっての安全な学校作りの兼ね合いは非常に難しい。いくつかの実践例から、課題を考えていきます。					事前：配布資料を読む 事後：配布プリントのキーワードを調べ、考えをまとめる		発表 60分・講義 30分	
教 本 : な し 毎 回 、 作 成 し た プ リ ン ト を 配 布 し 、 そ れ に そ っ て 授 業 を す ず め て い っ け ます 。 参 考 文 献 : 高 妻 紳 次 郎 『 新 ・ 教 育 制 度 論 : 教 育 制 度 を 考 へ る 15 の 視 点 』 ミ ネ ル ヴ ァ 書 房 、 2014 年 。 そ の 他 授 業 中 に 適 宜 紹 介 し ます 。									
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 授 業 参 加 状 況 等 ( 50% ) 、 小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 ( 20% ) 、 定 期 試 験 ( 30% ) 等 で 総 合 評 価 し ます 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 社 会 学 的 思 考 を 自 ら 実 践 で き る よ う に な る こ と を 目 的 と し て い っ け ます 。 授 業 に は 積 極 的 に 参 加 し て く だ さ い 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え ます 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	子ども教育制度論 (Childhood Education System)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	野川 智子								
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要： 現代の学校教育と幼児教育の法と制度の基礎を理解するとともに、教育を支える学校組織、教育行政、家庭や地域の実情と連携について相互に関連しながら教育や保育が実践されていることを理解する。また、今日的な課題について調べて発表することを通して望ましい教育や保育の在り方について考えを深める。									
授業目標： ①教育・保育の法と制度について変遷と現状を理解する。 ②教育・保育を支える仕組みを学校経営や家庭・地域の連携、行政の役割など多面的に理解し、教育・保育の在り方を考える。 ③特別支援教育、社会教育、教育の方法などを理解した上で、今日的な課題についてのプレゼンテーションを行う。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	現行の教育の法と制度の概要について講義を聞いて理解する					事前：なし 事後：配布資料まとめ		講義(90分)	
2	明治以降の学校制度の変遷について講義を聞いて理解する 小学校の法と制度の資料をまとめる					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(45分) 演習(45分)	
3	教育基本法と学習指導要領から教育の目的・目標についてノートにまとめながら理解する					事前：教育法規を調べる 事後：テキストまとめ(4章)		講義(45分) 演習(45分)	
4	学校教育の内容について教育活動と教育課程の構成原理を講義で理解する					事前：テキスト下読み(6章) 事後：ノート整理		講義(90分)	
5	学校教育を支える教職員の組織、教員に求められる資質や能力、社会環境について討議する					事前：テキスト下読み(8章) 事後：レポート①		講義(45分) 討議(45分)	
6	学校教育を支える学級担任の役割、学級経営の充実のための諸課題について理解し、望ましい教師像を描く					事前：テキスト下読み(9章) 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
7	就学前教育・保育の現状と課題を出し合い、社会や家庭、園との関わりについて話し合う					事前：ニュースを調べる 事後：ノート整理		講義(45分) 討議(45分)	
8	少子化と家庭教育、幼児教育・保育の関係について現状を理解する 家庭の役割について話し合う					事前：少子化調べをする 事後：テキストまとめ(2章)		講義(45分) 討議(45分)	
9	保育所保育指針、幼稚園教育要領等から就学前教育の目標について「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」についてまとめる					事前：参考資料の下読み 事後：レポート②仕上げ		発表(20分)講義(40分) レポート(30分)	
10	幼児期の教育の制度や幼稚園・保育所の歴史を理解して、幼児期の教育の課題を話し合う					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(60分) 演習(30分)	
11	特別支援教育制度の概要を理解し、現状の課題を明らかにしてこれからの特別支援教育を考える					事前：配布資料の下読み 事後：レポート③仕上げ		講義(60分) レポート(30分)	
12	学校保健安全法に基づいて子どもの健康と安全が守られていることを理解して、教員・保育者としての留意点を話し合う					事前：学校事故情報を収集 事後：ノート整理		発表(20分)講義(40分) 討議(10分)	
13	学校保健安全法における災害に対する危機管理の内容を理解し、学校経営・学校組織との関係を考える					事前：配布資料の下読み 事後：ノート整理		講義(90分)	
14	国、地方公共団体が行う教育行政の組織と機能から公教育としての義務教育、教育財政について理解する					事前：配布資料の下読み 事後：レポート③		講義(90分)	
15	現代の学校の課題（いじめ、保護者、教師普請等）についてレポートを発表する					事前：レポートの確認 事後：なし		演習(90分)	
教本： 「子どもと教育」林邦雄・谷田貝公昭 監修一藝社 ￥1,800					参考文献： 「教育の法と制度」藤井穂高編著 ミネルヴァ書房 ￥2,200				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（30%）、定期試験（50%）等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 専門科目なので初めての言葉や内容が多くあります。正しく理解して基礎知識を身につけていきましょう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 ども 教 育 相 談 (Educational Counseling of Children)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	中 村 淳 子								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本 講 座 で は、子 ども ・ 児 童 生 徒 が 人 と し て 望 ま し く 成 長 す る た め の 支 援 方 法 と し て 保 育 ・ 教 育 者 が 身 に つ け る べ き 教 育 相 談 活 動 に つ い て 基 本 的 な 理 論 や 知 識 を 学 ぶ て い く。さ ら に は 相 談 活 動 に 必 要 な カ ウ ン セ リ ン グ の 方 法 を ロ ー ル プ レ イ や グ ル ー プ ワ ー ク な ど で 体 験 的 に 学 習 し て い く。									
授 業 目 標 :									
1. 教 育 相 談 の 基 礎 的 な 知 識 や 理 論 等 を 学 び、子 ども ・ 児 童 生 徒 の 支 援 に つ い て 考 え る。									
2. 子 ども ・ 児 童 生 徒 の 悩 み や 問 題 行 動 に つ い て 理 解 し、教 育 者 と し て 対 処 で き る 相 談 技 術 を 習 得 す る。									
3. 個 別 的 な 対 応 だ け で な く 集 団 へ の 対 応 を も 視 野 に 入 れ た 相 談 活 動 を 習 得 し、各 専 門 機 関 な ど と の 連 携 を 学 ぶ。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に ◎、重 要 に ○ 1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
			○			◎			
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)				事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態	
1	教 育 相 談 と は — 保 育 ・ 教 育 相 談 の 意 義				事 前 : 事 後 : 復 習 (教 育 相 談 の 定 義、ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
2	教 育 相 談 に 関 わ る 心 理 学 の 基 礎 理 論				事 前 : 予 習 (心 理 学 と 教 育 相 談 に つ い て 考 え る) 事 後 : 復 習 (教 育 相 談 と 心 理 学 基 礎 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
3	教 育 相 談 と カ ウ ン セ リ ン グ マ イ ン ド — 保 育 所 ・ 幼 稚 園、学 校 場 面				事 前 : 予 習 (カ ウ ン セ リ ン グ マ イ ン ド を 調 べ る) 事 後 : 復 習 (カ ウ ン セ リ ン グ マ イ ン ド ま と め)			講 義 60 分 グ ル ー プ ワ ー ク 30 分	
4	カ ウ ン セ リ ン グ の 基 礎 — 代 表 的 な カ ウ ン セ リ ン グ 理 論 と 技 法 (傾 聴、受 容、共 感 的 理 解)				事 前 : 予 習 (カ ウ ン セ リ ン グ に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (カ ウ ン セ リ ン グ 理 論 の ま と め)			講 義 60 分 討 議 30 分	
5	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (1) — 発 達 ・ 成 長 を 見 据 え た 支 援				事 前 : 予 習 (子 ども の 成 長 に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (子 ども の 成 長 へ の 支 援 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
6	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (2) — 問 題 行 動 発 生 の メ カ ニ ズ ム				事 前 : 予 習 (問 題 行 動 に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (問 題 行 動 の メ カ ニ ズ ム の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
7	子 ども ・ 児 童 生 徒 の 理 解 の 方 法 (3) — ア セ ス メ ン ト の 方 法 — SOS (シ グ ナ ル) を 察 知 す る 力				事 前 : 予 習 (ア セ ス メ ン ト に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (ア セ ス メ ン ト の 方 法 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
8	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (1) 発 達 障 害 へ の 対 応				事 前 : 予 習 (発 達 障 害 に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (発 達 障 害 へ の 対 応 の ま と め)			講 義 30 分 発 表 60 分	
9	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (2) 虐 待、い じ め へ の 対 応				事 前 : 予 習 (い じ め に つ い て 考 え る) 事 後 : 復 習 (虐 待 や い じ め へ の 対 応 の ま と め)			講 義 30 分 発 表 60 分	
10	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (3) 不 登 校 (登 園 し ぶ り)、学 業 不 振 (知 的 晩 稲) へ の 対 応				事 前 : 予 習 (登 園 し ぶ り を 調 べ る) 事 後 : 復 習 (登 園 し ぶ り な ど 対 応 の ま と め)			講 義 30 分 発 表 60 分	
11	教 育 (保 育) 相 談 活 動 の 実 際 (4) 支 援 目 標、立 案、支 援 計 画 の 策 定				事 前 : 予 習 (支 援 計 画 を 調 べ る) 事 後 : 復 習 (支 援 計 画 を な ど の ま と め)			講 義 30 分 発 表 60 分	
12	保 護 者 支 援 の あ り 方 — 保 護 者 と の 連 携 と 支 援				事 前 : 予 習 (保 護 者 対 応 に つ い て 考 え る) 事 後 : 復 習 (保 護 者 支 援、連 携 の ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
13	教 育 相 談 に 活 か す グ ル ー プ 体 験 — グ ル ー プ 体 験 の 基 礎 知 識				事 前 : 予 習 (グ ル ー プ 体 験 を 調 べ る) 事 後 : 復 習 (教 育 草 案 に 活 か す グ ル ー プ 体 験 の ま と め)			講 義 20 分 グ ル ー プ ワ ー ク 70 分	
14	教 育 相 談 に 活 か す 多 職 種 及 び 他 機 関 と の 連 携 (1) 医 療 ・ 福 祉 ・ 心 理 職 者 と の 連 携				事 前 : 予 習 (多 職 種 と は 何 か 調 べ る) 事 後 : 復 習 (多 職 種 と の 連 携 に つ い て ま と め)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
15	教 育 相 談 に 活 か す 多 職 種 及 び 他 機 関 と の 連 携 — (2) 地 域、自 治 体 の 機 関、児 童 相 談 所 他 専 門 機 関 と の 連 携				事 前 : 予 習 (児 童 相 談 所 に つ い て 調 べ る) 事 後 : 復 習 (様 々 な 相 談 機 関 と の 連 携 に つ い て ま と め る)			講 義 70 分 振 り 返 り 20 分	
教 本 :					参 考 文 献 :				
使 用 し な い。適 宜、参 考 資 料 を 配 布。					田 中 智 志 / 橋 本 美 保 監 修 羽 田 紘 一 編 著 新 ・ 教 職 課 程 シ リ ー ズ 教 育 相 談 一 藝 社 ¥2,200 他				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 : 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る。 授 業 内 容 へ の 参 加 状 況 等 (40%)、小 テ ス ト ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (30%) 等 で 総 合 評 価 す る。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
授 業 で は、一 方 的 な 講 義 で は な く、学 生 に 考 え て も ら い ま す。単 元 に よ っ て は 発 表 者 を 決 め て お き、プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン を 行 っ て も ら う こ と も あ り ま す。受 け 身 な 態 度 で は な く、自 身 の 考 え を 表 現 で き る よ う に 心 が け て く だ さ い。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義	
授業科目(英文)	子ども教育方法論 (Curriculum Method of Teaching)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	野末 晃秀									
履 修 条 件	前提科目	なし								
	その他	なし								
<b>授業概要：</b> 現代の我が国における教育、保育の現状及び子どもの実情を理解し、その状況に適合し合致するような、それぞれの機関における教育の方法に関する基礎的な理論や技術を学ぶ。その具体的な内容としては、年齢や学力に合わせた指導案（及びカリキュラム）の計画・立案方法を学び、それぞれが立案できるようにする。またその案を使用しての模擬保育にも発展させる。また現在不空している様々な最新の情報機器などの種類や活用方法についても学ぶ。それぞれが自分独自の教育方法を模索しながら、自分の教育・保育方法を立案し、展開ができるように展開していきたい。										
<b>授業目標：</b> 「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示された内容を理解し、実践例を参考にしながら具体的な教育方法についての専門的な知識の習得、及び認識を深める。また各自が具体的な指導案の作成方法や、教材研究の方法の習得を目指す。さらに現在必須の情報通信機器も使用し、教育方法のひとつとして実際の教育現場において活用し、実践できる能力を身に付ける。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態		
1	本授業のガイダンス 教育方法とは何か					事前：教育の様々な記事を読んでおく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
2	「幼稚園教育要領」とは何か またそこに示される教育方法とは					事前：幼稚園とは何かを事前に知っておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
3	「保育所保育指針」に示される教育方法とは何か					事前：自分が受けた教育を思い出しておく 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
4	現在の保育施設における様々な教育方法の実践例					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
5	幼稚園における年齢別の教育方法、環境構成の意義と、教育方法の種類					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
6	現代の子どもに育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
7	興味・関心を促進するような教育方法、教育評価、評価方法					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
8	幼稚園における様々な教育方法と、その活用方法					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
9	幼稚園・保育所における理解者に対する基礎的な対応					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
10	保育における遊びと環境を通じた教育方法の実践例					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
11	各地域における連携と特色のある教育方法とその実践例					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
12	保育における計画の立案と指導案の重要性（日案、週案などの作成）					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
13	教育現場における様々な情報機器の操作と活用方法（その諸注意、実践例など）					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		講義 90分		
14	情報機器を活用した教材の作成と実践					事前：前回までの授業の振り返り 事後：ノートを読み返す		グループ討論 60分、 発表 30分		
15	良い教育方法とは何か、またその今後の課題について考える					事前：教育の時事問題を調べてみる 事後：ノート整理・復習		グループ討論 45分、 講義 45分		
<b>教本：</b> 谷田貝公昭 監修 大沢裕 藤田久美編著、保育士を育てる③ 『子どもの理解と援助』一藝社（ISBN 9784863592025）					<b>参考文献：</b> ・文部科学省『幼稚園教育指導資料集第5集「指導と評価に生かす記録」』チャイルド本社・『幼稚園教育要領』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省					
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート等（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。										
<b>学生へのアドバイス：</b> 授業時間だけでなく教育の時事的問題に関心を持ちインターネットで調べてみたりする習慣を身につけること。										
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年次 半期	選択・必修	必修(保育)	単 位 数	2	時 間 数	60	授業形態	演 習	
授業科目(英文)	子どもの食と栄養 (Food and Nourishment for Children)						科目分類	専 門 科 目		
担 当 教 員	ヒューズ 美代									
履 修 条 件	前提科目	乳幼児の食事 (講義) を修得していること								
	そ の 他	なし								
授業概要： 乳幼児の食事 (講義) の内容をふまえ、演習を通して、乳幼児の食に関する知識や技術についてより実践的、応用的に活用できる力を養う。さらに保育所における食育の意義と実践についても学び、展開できる力を深めていく。										
授業目標： 1. 乳幼児期に必要な栄養についての基礎的知識を活用できる。 2. 保育所における食育について理解し、基礎的力を持つ。										
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態		
1・2	乳幼児の食事 (演習) の概要と目標について					事前：なし 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
3・4	乳幼児の心身の発達と食生活について					事前：テキスト精読 (p 1～p 16) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
5・6	調乳、授乳の意義と実践					事前：テキスト精読 (p 89～p 107) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
7・8	離乳食の意義と実践					事前：テキスト精読 (p 107～p 129) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
9・10	乳幼児期の間食の意義と実践					事前：テキスト精読 (p 141～p 146) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
11・12	献立、調理の基本と幼児のお弁当作成					事前：テキスト精読 (p 49～p 71) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
13・14	乳幼児期の食の問題に関する演習 ①					事前：テキスト精読 (p 148～p 155) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
15・16	乳幼児期の食の問題に関する演習 ②					事前：テキスト精読 (p 161～p 166) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
17・18	特別な配慮を要する子どもの食と栄養に関する演習 ① 食物アレルギーへの対応					事前：テキスト精読 (p 256～p 263) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
19・20	特別な配慮を要する子どもの食と栄養に関する演習 ② 障害のある子どもへの対応					事前：テキスト精読 (p 264～p 276) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
21・22	食育の意義と実践に関する演習 ①					事前：テキスト精読 (p 177～p 210) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
23・24	食育の意義と実践に関する演習 ②					事前：テキスト精読 (p 177～p 210) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
25・26	食育の意義と実践に関する演習 ③					事前：テキスト精読 (p 177～p 210) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
27・28	食育の意義と実践に関する演習 ④					事前：テキスト精読 (p 177～p 210) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
29・30	総括					事前：テキスト精読 (p 177～p 210) 事後：授業内容復習		講義 90分 演習 90分		
教本： 「子育て・子育てを支援する」子どもの食と栄養 (萌文書林、堤ちはる 編)         参考文献：										
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業内容への参加状況等 (30%)、試験 (70%) で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 保育活動における食育の重要度は近年ますます高まっています。保育士を目指す学生として、身近な食の問題に関心を持ち、授業で身に付けた知識や技術を日常の食生活にも取り入れ活かしてください。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	必 修	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	子 童 小 童 の 保 健 (Child Health)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	大 腦 淳 子 ・ 大 門 明 美								
履 修 条 件	前 提 科 目	特 に な し							
	そ の 他	特 に な し							
授 業 概 要 :									
子 童 小 童 の 心 身 の 健 康 ・ 発 育 と 発 達 ・ 病 気 や 事 故 の 予 防 な ど 安 全 な 保 育 環 境 つ い て 概 説 し ・ 保 育 の 専 門 家 と し て ・ 地 域 の 多 職 種 と の 連 携 と 協 働 に よ る 子 童 小 童 の 健 や か な 発 育 ・ 発 達 の 支 援 に 必 要 な 基 礎 的 知 識 を 修 得 す る 。									
授 業 目 標 :									
1. 子 童 小 童 の 心 身 の 健 康 増 進 を 図 る 保 健 活 動 の 意 義 を 理 解 す る 。									
2. 子 童 小 童 の 身 体 的 な 発 育 ・ 発 達 と 保 健 に つ い て 理 解 す る 。									
3. 子 童 小 童 の 心 身 の 健 康 状 態 と そ の 把 握 の 方 法 に つ い て 理 解 す る 。									
4. 子 童 小 童 の 疾 病 と そ の 予 防 法 及 び 他 職 種 間 の 連 携 ・ 協 働 の 下 で の 適 切 な 対 応 に つ い て 理 解 す る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1 つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
◎			○						
授 業 計 画 ・ 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 ・ 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			授 業 形 態
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明 子 童 小 童 の 心 身 の 健 康 と 保 健 の 意 義 : 健 康 の 概 念 と 保 健 活 動					事前: シラバスの確認、第 1 章の予習 事後: 学修の流れの確認			講義 90分
2	子 童 小 童 の 発 育 ・ 発 達 と 保 健 ① : 身 体 の つ く り と 身 体 発 育					事前: 第 2 章の予習 事後: 成長・発達の特徴の復習			講義 90分
3	子 童 小 童 の 発 育 ・ 発 達 と 保 健 ② : 生 理 機 能 ・ 視 覚 ・ 聴 覚 の 発 達					事前: 第 2 回授業の振り返り 事後: 生理機能、視覚・聴覚の発達の復習			講義 90分
4	子 童 小 童 の 発 育 ・ 発 達 と 保 育 ③ : 精 神 機 能 の 発 達					事前: 第 3 回授業の振り返り 事後: 精神機能の発達の復習			講義 90分
5	子 童 小 童 の 発 育 ・ 発 達 と 保 育 ④ : 発 達 の 評 価					事前: 第 4 回授業の振り返り 事後: 発達評価の方法を復習			講義 90分
6	子 童 小 童 の 健 康 と 栄 養 : 離 乳 食 か ら 幼 児 食 へ					事前: 第 4 章の予習 事後: 子どもの栄養の意義を復習			講義 90分
7	子 童 小 童 の 病 気 と そ の 対 応 ① : 免 疫 機 能 発 達 と 感 染 症					事前: 第 5 章の予習 事後: 感染症の特徴を復習			講義 90分
8	子 童 小 童 の 病 気 と そ の 対 応 ② : 衛 生 管 理 と 感 染 予 防 対 策					事前: 第 7 回授業の振り返り 事後: 感染症予防対策を復習			講義 90分
9	子 童 小 童 の 病 気 と そ の 対 応 ③ : 発 熱 ・ か ぜ					事前: 第 8 回授業の振り返り 事後: 呼吸器・消化器の病気の復習			講義 90分
10	子 童 小 童 の 病 気 と そ の 対 応 ④ : ア レ ル ギ ー ・ 特 に 食 物 ア レ ル ギ ー を 中 心 に					事前: 第 9 回授業の振り返り 事後: アレルギーの特徴を復習			講義 90分
11	子 童 小 童 の 事 故 安 全 教 育 : チャ イ ル ド ビ ジ ョ ン ・ チャ イ ル ド マ ウ ス (誤 飲 チェ ッ カ ー)					事前: 第 6 章の予習 事後: 事故の特徴を復習			講義 90分
12	子 童 小 童 の 精 神 保 健 ① : 特 別 な 配 慮 が 必 要 な 子 童 小 童 (障 が い の 理 解)					事前: 第 3 章の予習 事後: 障がいの特徴の復習			講義 90分
13	子 童 小 童 の 精 神 保 健 ② : 特 別 な 配 慮 が 必 要 な 子 童 小 童 (発 達 障 害 の 理 解)					事前: 第 12 回授業の振り返り 事後: 発達障害の理解の復習			講義 90分
14	児 童 虐 待 の 理 解 と 保 育 者 の 役 割					事前: 第 3 章の復習 事後: 児童虐待と対応を復習			講義 90分
15	子 童 小 童 の 健 康 と 地 域 と の 連 携 と 協 働 ・ 法 律 と 政 策					事前: 第 8 章の予習 事後: 子どもが育つ地域との連携と協働の よる保育者の役割を考える			講義 90分
教 本 :					参 考 文 献 :				
こ れ だ け は お さ え たい 保 育 者 の た め の 子 童 小 童 の 保 健 鈴 木 美 枝 子 著 : 創 成 社					保 育 所 保 健 指 針 ・ 幼 保 連 携 型 認 定 こ ど も 園 教 育 ・ 保 育 要 領				
成 績 評 価 の 方 法 ・ 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。									
授 業 参 加 状 況 等 (10%)、課 題 ・ レ ポ ー ト 等 (30%)、定 期 試 験 (60%) 等 で 総 合 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
コ ロ ナ 禍 の 影 響 が 長 期 化 す る 中 で 子 童 小 童 們 が 抱 え る 問 題 に 関 心 を も ち ・ 子 童 小 童 們 が 健 や か に 育 つ た め の 家 族 ・ 地 域 社 会 な ど 子 童 小 童 們 を 取 り 巻 く 環 境 の 中 で 保 育 者 と し て 何 が で き る か ・ 一 緒 に 考 え ま し ょ う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー :									
初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	1	時 間 数	30	授業形態	演習	
授業科目(英文)	子どもの保健Ⅱ (Child Health Ⅱ)						科目分類	専門科目		
担 当 教 員	大脇 淳子・大門 明美・吉田 裕子									
履 修 条 件	前提科目	特になし								
	その他	特になし								
授業概要： 子どもの健康を保持増進するための保健活動の実践に必要な体調管理の方法、基本的養護と教育、病気や怪我の対応とその予防に関する基礎的な技術を修得し、子どもと家族の健やかな発育と発達を促進するための保育活動について考える。										
授業目標： 1. 子どもの健康の保持増進に必要な健康管理の方法を理解する。 2. 子どもの生活習慣の自立支援の方法を理解する。 3. 子どもの体調不良時の対応および応急処置の技術を理解する 4. 子どもと家族の健やかな健康を保持増進するヘルスプロモーション活動における保育者の役割を考える。										
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）										
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養				
◎			○							
授業計画、事前学習・事後学習、形式										
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）				事前・事後学習（学習課題）			授業形態		
1	ガイダンス 授業の進め方、評価方法の説明				事前：シラバスの確認 事後：学習の流れの確認			講義 90分		
2	子どもとの効果的なコミュニケーションと遊び				事前：子どもの精神機能の発達の復習 事後：抱っこ等の復習			講義 30分、演習 60分		
3	子どもの健康観察と評価：ヘルスアセスメント				事前：第3章の予習 事後：子どもの健康観察の復習			講義 45分、ワーク 45分		
4	子どもの健康観察と健康管理：バイタルサインズの測定、身体計測と発育評価				事前：第3回 授業の復習 事後：身体計測と発育評価の復習			演習 90分		
5	子どもの生活習慣の自立支援：うがい、手洗い、歯磨き				事前：第4章の予習 事後：手洗い・うがい・歯磨きの復習			講義 45分、ワーク 45分		
6	子どもの生活習慣の自立支援：排泄機能とトイレトレーニング				事前：第4章の復習 事後：トイレトレーニングの復習			講義 30分、演習 60分		
7	子どもの生活習慣の自立支援：衣類の着脱交換				事前：第4章の振り返り 事後：衣類の着脱の復習			講義 30分、演習 60分		
8	子どもの安全な保育環境と安全対策				事前：第7章の予習 事後：園内の安全環境の復習			講義 30分、ワーク 60分		
9	子どもの体調不良の特徴：発熱・下痢・嘔吐				事前：第5章の予習 事後：発熱・下痢・嘔吐時の養護の復習			講義 45分、ワーク 45分		
10	子どもの体調不良への対応：発熱・けいれん				事前：第7回授業の振り返り 事後：発熱・下痢・嘔吐時の養護の復習			講義 45分、ワーク 45分		
11	子どもの応急手当① 応急手当・止血法・包帯法				事前：第6章の予習 事後：応急手当の復習			講義 60分、演習 30分		
12	子どもの応急手当① 救命処置 心肺蘇生法・気道内異物除去				事前：第13回授業の復習 事後：PBLISの復習			演習 90分		
13	子どもの薬の管理と与薬方法				事前：第5章の振り返り 事後：子どもへの与薬方法の復習			講義 45分、ワーク 45分		
14	子どもと家族のヘルスプロモーション				事前：第8章の予習 事後：保護者への健康教育の復習			講義 45分、ワーク 45分		
15	子どもの健やかな健康と保育に関するプレゼンテーション				事前：自己の課題の準備 事後：レポート課題のまとめ			ワーク 30分、発表 60分		
教本： これだけはおさえてたい保育者のための子どもの保健Ⅱ 鈴木美枝子著：創成社					参考文献： 適宜紹介する。					
成績評価の方法、評価基準： 授業参加状況等（10%）、プレゼンテーション等（30%）、定期試験（60%）等で総合評価する。										
学生へのアドバイス： 子どもの健やかな健康を保持・増進するための支援方法を学びます。身近な子どもの反応や言動に関心を寄せ、子どもと家族がどのように日常を過ごしているか、子どもの言動や親の接し方に注目してみましょう。										
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。										

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	必修	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講 義
授業科目(英文)	子ども保育者論 (Childcare Workers)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	大沢 裕								
履 修 条 件	前提科目								
	その他								
<b>授業概要：</b> 時代とともに変わる保育のさまざまな実態にも機敏に対応している保育者について学ぶとともに、専門性とコンプライアンスに基づいた確固たる使命感と熱意を持ち、保育を行うことのできる実践の在り方について学ぶ。授業方法は、演習、話し合い活動、グループ学習等を設定する。									
<b>授業目標：</b> 教職の意義の意義、現代課題に基づく保育者の役割、職務内容、必要とされる資質能力について身に付ける。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
			◎			○			
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	我が国における教職の社会的意義について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
2	専門職としての幼稚園教諭、保育教諭、保育士の社会的責務について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
3	今日的課題を踏まえた幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
4	幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力などを育成していくための研修について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
5	チーム学校への対応と園における公務分掌について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
6	教職員研修の意義と制度について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
7	幼稚園教諭、保育教諭、保育士の服務と身分保障について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
8	幼稚園教諭、保育教諭、保育士のコンプライアンスについて考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
9	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園において求められる保育者の役割と職務内容について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
10	組織マネジメントと保育者の関連性について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
11	地域の中で子育てを支える保育者の役割について考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
12	園長を招いて話を聞く（組織の一員としての責任と自覚）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
13	幼稚園教諭を招いて話を聞く（園内における役割、保護者への支援）					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
14	ライフステージに応じたキャリア形成について考えるとともに自身のキャリアステージについて考える。					事前：資料・テキストでの確認 事後：資料・テキストでの復習		講義（60分）・グループ（30分）	
15	これから求められる幼稚園教諭、保育教諭、保育士の役割と資質・能力について考える。							発表（90分）	
<b>教本：</b> 谷田貝公昭 編著『コンパクト版 保育者論』一藝社					<b>参考文献：</b> 『幼稚園教育要領』（最新版）文部科学省、 『保育所保育指針解説書』（最新版）厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版）内閣府・文部科学省・厚生労働省				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 授業参加状況等（20%）、小テスト・レポート（20%）、定期試験（60%）等で総合評価する。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	コミュニケーション心理学 (Psychology of Communication)						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	水 本 深 喜								
履 修 条 件	前 提 科 目	な し							
	そ の 他	な し							
授 業 概 要 :									
本講義では、私たちが日常的に行っているコミュニケーションに関する社会心理学の理論を学びながら、コミュニケーション場面で生じていることを理解し、より快適なコミュニケーションをとるためにはどうしたらよいかについて演習を通して考える。									
授 業 目 標 :									
コミュニケーション場面で何が生じているのかについて心理学的に理解し、より円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 (最 重 要 に◎、重 要 に○1つ)									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			◎						
授 業 計 画、事 前 学 習 ・ 事 後 学 習、形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 (詳 細 に 記 入)					事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		授 業 形 態	
1	オリエンテーション					事前：シラバスの精読 事後：講義内容の復習		グループワーク 50分 講義 40分	
2	ワンウェイコミュニケーション、トゥーウェイコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
3	バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
4	説得的コミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
5	自己開示と自己呈示					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
6	インターネットによるコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
7	交流分析①					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
8	交流分析②					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
9	リフレーミング①					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
10	リフレーミング②					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
11	アサーション①					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
12	アサーション②					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
13	共感傾聴					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
14	家族のコミュニケーション					事前：資料確認・課題検討 事後：学んだことを自分と結びつけて考える		グループワーク 50分 講義 40分	
15	まとめ					事前：授業全般の復習 事後：理解の補完		講義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
なし。授業中に資料を配布する。					授業中に適宜紹介する。				
成 績 評 価 の 方 法、評 価 基 準 :									
授業参加状況等 (50%)、テスト (50%) で総合評価する。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス :									
講義には、グループワーク、ディスカッション等を取り入れる。毎回の講義終了時には、コメントペーパーに講義内容から考えたことを書いて提出していただく。									
オ フ ィ ス ア フ タ :									
初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	2 年 次 半 期	選 択 ・ 必 修	選 択	単 位 数	2	時 間 数	30	授 業 形 態	講 義
授 業 科 目 (英 文)	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス ( C o m p u t e r G r a p h i c s )						科 目 分 類	専 門 科 目	
担 当 教 員	秋 廣 誠								
履 修 条 件	前 提 科 目	情 報 基 礎							
	そ の 他	P C の 操 作 ス キ ル を 習 得 し て い な い 場 合 、 必 ず 上 記 科 目 か ら 履 修 す る こ と							
授 業 概 要 :									
デ ジ タ ル 画 像 は 現 代 の デ ジ タ ル コ ン テ ン ツ の 重 要 な 基 本 要 素 で あ る 。 デ ジ タ ル 画 像 に 関 す る 知 識 と 編 集 技 術 に つ い て 、 P C / ス マ ー ト フ ォ ン を 利 用 し た 作 品 制 作 を 通 し て 学 習 す る 。									
授 業 目 標 :									
1 . デ ジ タ ル 画 像 に 関 す る 用 語 を 理 解 し 、 説 明 が で き る 。 2 . 視 覚 表 現 の 意 図 に 沿 っ て 、 計 画 的 に デ ジ タ ル 画 像 を 編 集 す る こ と が で き る 。									
カ リ キ ュ ラ ム マ ッ プ に お け る 到 達 目 標 ( 最 重 要 に ○ 、 重 要 に ○ 1 つ )									
知 識 ・ 技 能 の 習 得			思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力 の 育 成			学 び に 向 か う 力 ・ 人 間 性 の 涵 養			
○			○						
授 業 計 画 、 事 前 学 習 ・ 事 後 学 習 、 形 式									
授 業 回 数	授 業 内 容 及 び 計 画 ( 詳 細 に 記 入 )					事 前 ・ 事 後 学 習 ( 学 習 課 題 )		授 業 形 態	
1	シ ラ バ ス の 説 明 / デ ジ タ ル 画 像 の 分 類 を 理 解 す る					事 前 : シ ラ バ ス を 読 む 事 後 : デ ジ タ ル 画 像 の 分 類 を 調 べ る		講 義	
2	カ メ ラ の 仕 組 み と 撮 影 環 境 を 理 解 す る デ ジ タ ル 画 像 の 仕 組 み の 概 要 を 理 解 す る					事 前 : 撮 影 機 材 の 準 備 事 後 : 授 業 内 で 指 示 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
3	講 義 内 容 を 踏 ま え 撮 影 を 実 践 す る					事 前 : 撮 影 の 計 画 を 練 る 事 後 : 画 像 デ ー タ を 整 理 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
4	画 像 編 集 ソ フ ト の 基 本 操 作 に つ い て 理 解 す る					事 前 : 画 像 編 集 ソ フ ト を 準 備 す る 事 後 : 画 像 編 集 ソ フ ト に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
5	画 像 に レ タ ッ チ を 施 す / 画 像 フ ァ イ ル の 管 理 方 法 を 理 解 す る					事 前 : 教 材 と な る 画 像 デ ー タ を 準 備 す る 事 後 : レ タ ッ チ に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
6	画 像 編 集 に お け る レ イ ヤ ー の 概 念 、 使 用 方 法 と そ の 応 用 を 理 解 す る					事 前 : 教 材 と な る 画 像 デ ー タ を 準 備 す る 事 後 : レ イ ヤ ー に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
7	画 像 編 集 に お け る フ ィ ル タ ー の 使 用 方 法 と そ の 応 用 を 理 解 す る					事 前 : 教 材 と な る 画 像 デ ー タ を 準 備 す る 事 後 : フ ィ ル タ ー に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
8	こ れ ま で の 演 習 を 踏 ま え コ ラ ー ジ ュ を 作 成 す る / 作 例 を 鑑 賞 す る					事 前 : コ ラ ー ジ ュ に つ い て 調 べ る 事 後 : コ ラ ー ジ ュ を 作 成 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
9	デ ジ タ ル 画 像 の 諧 調 と 色 彩 が 、 ど の よ う に 保 存 さ れ る か を 理 解 す る / 色 空 間 の 概 念 を 理 解 す る					事 前 : 教 材 と な る 画 像 デ ー タ を 準 備 す る 事 後 : 諧 調 と 色 彩 の 表 現 に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
10	文 字 の 要 素 に よ る 視 覚 効 果 を 理 解 す る / 事 例 を も と に 誘 目 性 に つ い て 検 討 す る					事 前 : 教 材 と な る 画 像 デ ー タ を 準 備 す る 事 後 : 文 字 要 素 と 誘 目 性 に つ い て 復 習 す る		講 義 60 分 演 習 30 分	
11	画 像 編 集 ソ フ ト に よ る 描 画 方 法 を 理 解 す る / 多 様 な 2 次 元 グ ラ フ ィ ッ ク ツ ー ル に つ い て 説 明 す る					事 前 : グ ラ フ ィ ッ ク ツ ー ル に つ い て 調 べ る 事 後 : ポ ス タ ー の 構 成 要 素 に つ い て 調 べ る		講 義 60 分 演 習 30 分	
12	表 現 の 意 図 に 沿 っ て ポ ス タ ー を 作 成 す る ( 企 画 / 計 画 )					事 前 : 課 題 制 作 の 準 備 を す る 事 後 : 作 品 を 企 画 す る		講 義 30 分 演 習 60 分	
13	表 現 の 意 図 に 沿 っ て ポ ス タ ー を 作 成 す る ( 素 材 準 備 )					事 前 : 課 題 制 作 の 準 備 を す る 事 後 : 課 題 制 作 の 素 材 を 準 備 す る		講 義 30 分 演 習 60 分	
14	表 現 の 意 図 に 沿 っ て ポ ス タ ー を 作 成 す る ( 制 作 )					事 前 : 課 題 制 作 の 準 備 を す る 事 後 : 作 品 を 完 成 さ せ る		講 義 30 分 演 習 60 分	
15	作 品 相 互 レ ビ ュ ー / 総 括					事 前 : 作 品 を 提 出 す る 事 後 : ポ ス タ ー に つ い て 理 解 を 深 め る		講 義	
教 本 :					参 考 文 献 :				
講 義 内 で 指 示 す る					講 義 内 で 指 示 す る				
成 績 評 価 の 方 法 、 評 価 基 準 : 到 達 目 標 が 達 成 で き た か を 評 価 す る 。 授 業 で の 演 習 ( 30 % ) 、 小 テ ス ト 等 ( 30 % ) 、 作 品 制 作 ( 40 % ) で 評 価 す る 。									
学 生 へ の ア ド バ イ ス : 3304、2207 以 外 の 教 室 で 実 施 さ れ る 場 合 、 ノ ー ト パ ソ コ ン が 必 要 と な る 。 履 修 希 望 者 が 定 員 を 超 え た 場 合 、 初 回 授 業 に て 抽 選 を 行 う 。									
オ フ ィ ス ア ワ ー : 初 回 講 義 日 に 伝 え る 。									

開 講 年 次	1 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コンピュータプレゼンテーション (Computer Presentation)						科目分類	基礎科目	
担 当 教 員	金 宰 郁								
履 修 条 件	前提科目	情報基礎							
	その他	※「学生へのアドバイス」参照							
<b>授業概要：</b> プレゼンテーション能力はアカデミックのみならず、一般社会においても必要不可欠な能力となっている。とりわけ現代社会においては、PCを活用したプレゼンテーションが求められており、PCを効果的に活用したプレゼンテーションの手法について、演習を通して学習する。									
<b>授業目標：</b> 基礎的なプレゼンテーション手法について理解し、PCで情報を的確に伝えるスライドを作成し、それらを効果的に活用したプレゼンテーションを行うことが目標となる。									
カリキュラムマップにおける到達目標（最重要に◎、重要に○1つ）									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
○			◎						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画（詳細に記入）					事前・事後学習（学習課題）		授業形態	
1	シラバスの確認、プレゼンテーションとPCの活用					事前：シラバスを読む 事後：PC操作の復習		講義 60分 演習 30分	
2	スライドファイルの作成と基本操作					事前：ID・パスワード、ファイル保存の準備 事後：プレゼン資料の作成		講義 60分 演習 30分	
3	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (1)					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
4	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (2)					事前：発表練習 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
5	効果的なスライドの作成					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義 60分 演習 30分	
6	グループでのプレゼンテーション ～企画立案					事前：テーマについて考える 事後：メンバーと議論する		講義 45分 演習 45分	
7	グループでのプレゼンテーション ～リサーチと構成					事前：資料を集める 事後：メンバーと資料を検討する		講義 45分 演習 45分	
8	グループでのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：スライドのデザインを決める 事後：スライドを完成させる		講義 30分 演習 60分	
9	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (1)					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
10	プレゼンテーションの実践 ～グループでの発表 (2)					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
11	プレゼンテーション手法の研究					事前：プレゼンビデオの視聴 事後：資料の確認		講義 60分 演習 30分	
12	個人でのプレゼンテーション ～企画立案、リサーチ					事前：テーマについて考える 事後：資料を集める		講義 45分 演習 45分	
13	個人でのプレゼンテーション ～スライドの作成					事前：資料を検討する 事後：スライドを完成させる		講義 45分 演習 45分	
14	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (3)					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
15	プレゼンテーションの実践 ～個人での発表 (4)					事前：発表準備 事後：発表の反省		講義 15分 演習 75分	
教本： 指定しない					参考文献： 講義内で指示する				
<b>成績評価の方法、評価基準：</b> 到達目標が達成できたかを評価する。 授業内での演習・発表（60%）、授業への取り組み（20%）、課題提出（20%）等で総合評価する。 講義の1/3以上欠席した場合、提出課題が不足している場合、発表を規定回数行わなかった場合等は単位を認定しない。									
<b>学生へのアドバイス：</b> 授業時間外での準備が非常に重要となります。やむを得ず欠席した場合は、必ず担当の先生に指示を仰ぐようにして下さい。欠席等でグループメンバーに迷惑をかけないように心がけて行動して下さい。3304、2207以外の教室で実施される場合、ノートパソコンが必要となります。また、USBメモリ等、ファイルを保存する手段を各自用意して下さい。									
<b>オフィスアワー：</b> 初回講義日に伝える。									

開 講 年 次	3 年次 半期	選択・必修	選択	単 位 数	2	時 間 数	30	授業形態	講義
授業科目(英文)	コンベンションビジネス論 (Convention Business)						科目分類	専門科目	
担 当 教 員	田中 一郎								
履 修 条 件	前提科目	ビジネストラベル論を履修していることが望ましい							
	その他	なし							
授業概要： ビジネストラベル論で学んだMICEのうち、国際会議 (conventions) とインセンティブトラベル (企業報奨旅行、incentive travel) に焦点を当てて詳しく学ぶ。									
授業目標： コンベンションビジネスの現状を理解し、その重要性を認識すること									
カリキュラムマップにおける到達目標 (最重要に◎、重要に○1つ)									
知識・技能の習得			思考力・判断力・表現力の育成			学びに向かう力・人間性の涵養			
◎			○						
授業計画、事前学習・事後学習、形式									
授業回数	授業内容及び計画 (詳細に記入)					事前・事後学習 (学習課題)		授業形態	
1	導入授業：授業の進め方と授業概要の説明					事前：なし 事後：今回の授業内容		講義	
2	MICE の概要					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
3	国際会議 (conventions) とは					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
4	世界における国際会議 (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
5	世界における国際会議 (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
6	日本における国際会議開催状況 (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
7	日本における国際会議開催状況 (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
8	日本における国際会議の事例					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
9	小テスト					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
10	インセンティブトラベル (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
11	インセンティブトラベル (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
12	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための国の取り組み (1)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
13	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための国の取り組み (2)					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
14	国際会議とインセンティブトラベル誘致のための JNTO の取り組み					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
15	全体のまとめ					事前：前回の授業内容 事後：今回の授業内容		講義	
教本： 教科書は使用しない。プリントを配付する。					参考文献： 適宜、紹介する。				
成績評価の方法、評価基準：到達目標が達成できたかを評価する。 授業参加状況等 (30%)、小テスト・レポート等 (20%)、定期試験 (50%) 等で総合評価する。									
学生へのアドバイス： 国際会議とインセンティブトラベルはMICEの中でも特に重要な分野であり、そのため日本や世界の国々が互いにしのぎを削って誘致合戦を行っている。授業を通してその重要性を理解してもらいたい。毎回出席するよう努めよう。									
オフィスアワー： 初回講義日に伝える。									